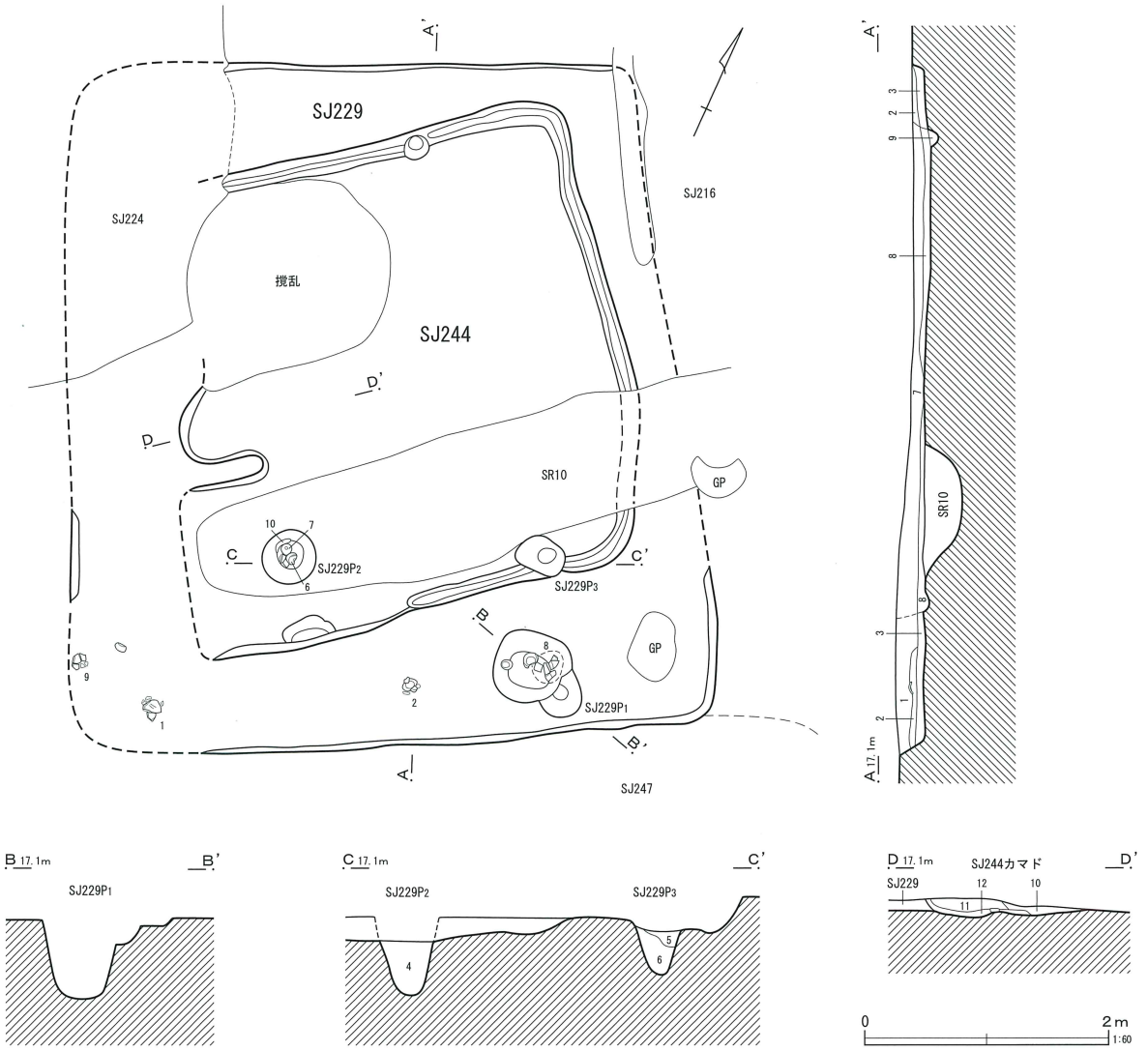


第229住居跡
1　黒色土　2.5Y2/1　地山ブロック（φ1～20mm）含む　焼土ブロック微量　炭化物含む
2　黒褐色土　10YR2/2　地山ブロック（φ1～40mm）多量
3　黒褐色土　10YR2/2　地山ブロック（φ1～20mm）多量
ピット2
4　黒色土　7.5YR2/1　地山ブロック少量　炭化物多量
ピット3
5　黒褐色土　10YR3/1　地山ブロック少量　炭化物多量
6　黒褐色土　10YR3/1　地山ブロック（φ1～20mm）含む　炭化物多量

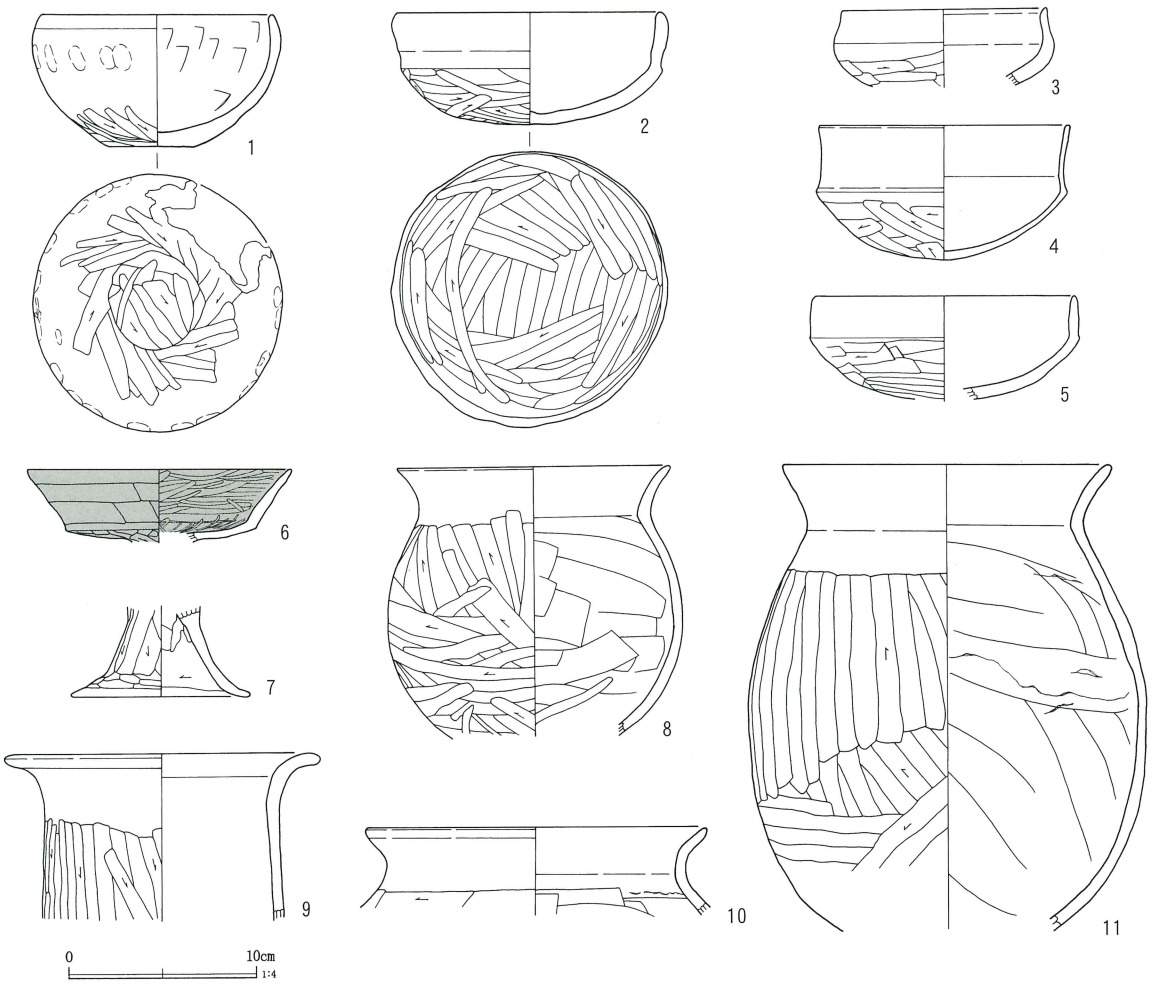
第244住居跡
7　黒色土　2.5Y2/1　地山ブロック（φ1～20mm）含む　焼土ブロック微量　炭化物含む
8　黒褐色土　2.5Y3/1　地山ブロック（φ1～40mm）多量
9　黒褐色土　2.5Y3/2　地山ブロック（φ1～10mm）多量　焼土ブロック少量
カマド
10　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む　焼土粒子（φ1～2mm）少量
11　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色土ブロック（φ3～5mm）含む　焼土ブロック（φ3～10mm）少量
12　黒色土　2.5YR2/1　灰・炭化物多量（灰層）

第229図　第229・244号住居跡

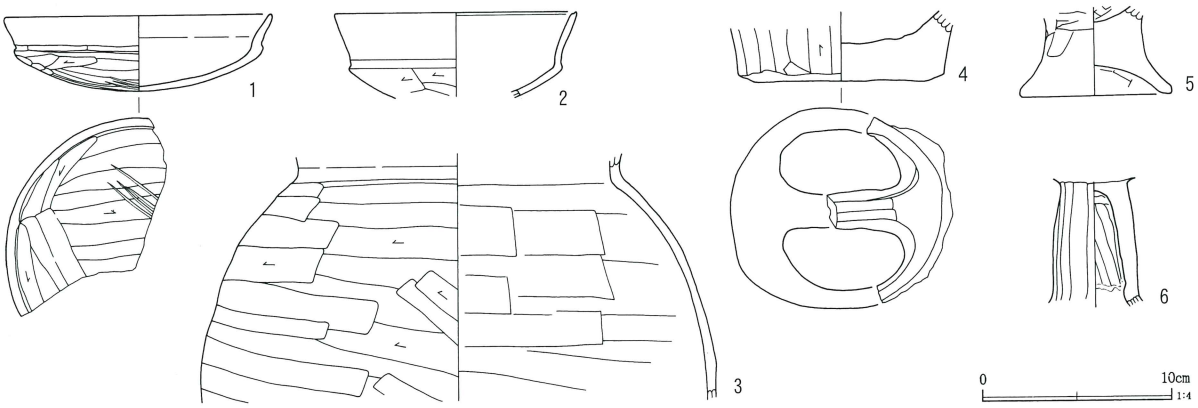
ピットは3基検出された。P1・2は柱穴と考えられる。南側の柱穴は確認できなかった。ピットの深さはP1から順に45cm、56cm、21cmである。

出土遺物は少なく、すべて破片である。切り合う第242号住居跡と同時に掘り下げたため、遺物は両住居跡のものが混在している。土師器坏・甑などがある。

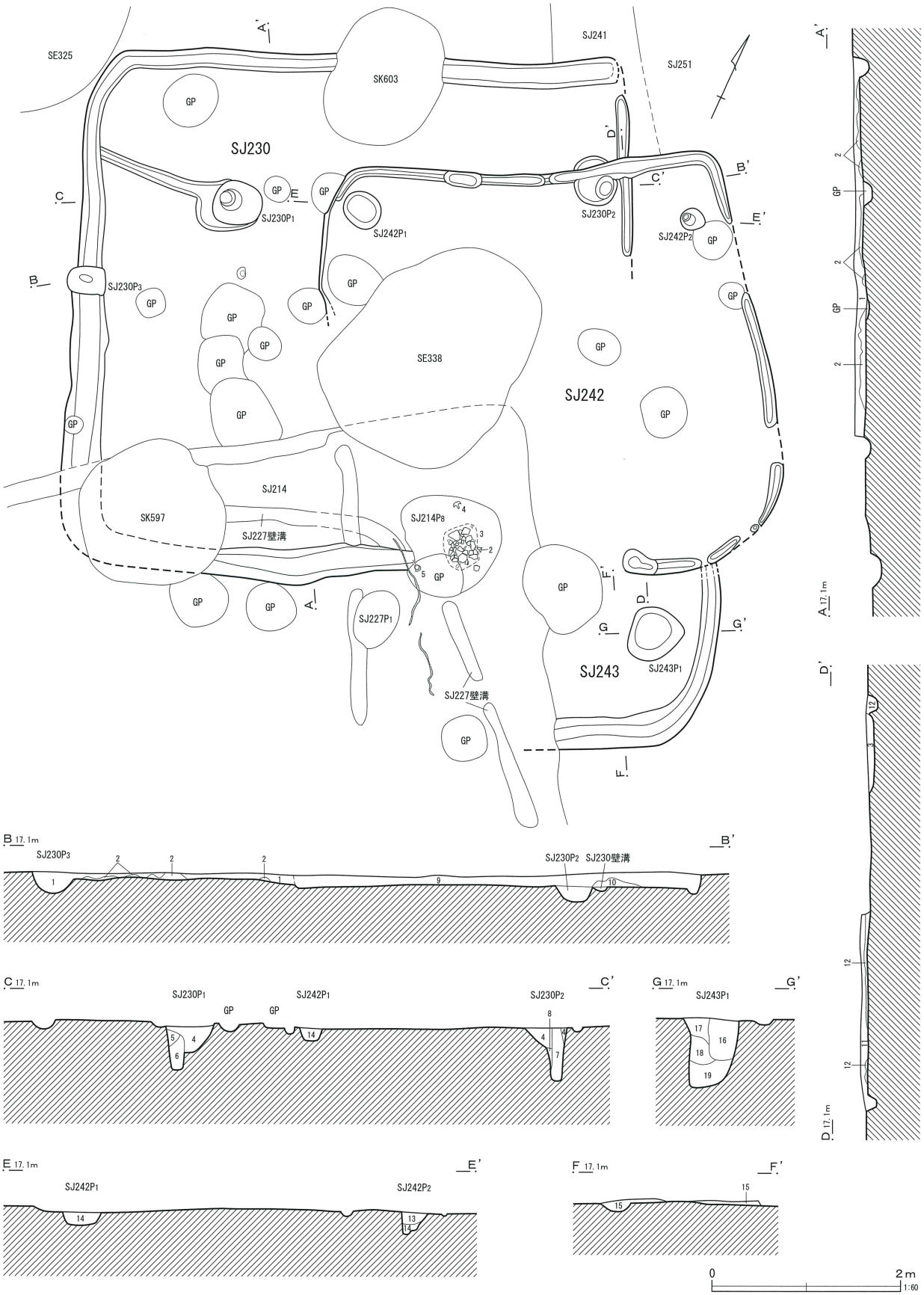
本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。



第230図　第229号住居跡出土遺物



第231図　第230号住居跡出土遺物



第232図　第230・242・243号住居跡

第230号住居跡
1　黒色土　7.5YR2/1　ローム粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性ややあり
2　黒色土　7.5YR2/1　床直のロームブロック層　しまり・粘性ややあり
3　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック（φ10～20mm）・ローム粒子（φ1～2mm）少量（壁溝覆土）
ピット1・2
4　オリーブ黒色土　7.5Y3/1　ロームブロック（φ10～20mm）下方に少量　しまり・粘性ややあり
5　黒褐色土　10Y3/1　しまり・粘性ややあり
6　黒褐色土　10Y3/1　しまり弱い　粘性あり　焼土粒子少量
7　黒褐色土　2.5Y3/1　炭化物粒子少量　しまり弱い　粘性強い（柱痕）
8　黒褐色土　10Y3/1　ロームブロック（φ10～50mm）少量　しまりあり　粘性ややあり

第242号住居跡
9　黒色土　7.5YR2/1　ローム粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性ややあり
10　黒色土　7.5YR2/1　床直のロームブロック層　しまり・粘性ややあり
11　黒褐色土　7.5YR3/1　ローム粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性ややあり
12　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
ピット1・2
13　褐灰色土　10YR4/1　ロームブロック（φ10～50mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
14　黒褐色土　10YR3/1　しまり弱い　粘性強い（柱痕）

第243号住居跡
15　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒子（φ1～5mm）・焼土粒子（φ1～3mm）・炭化物ブロック少量　しまり・粘性ややあり
ピット1
16　黒色土　10YR2/1　ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりややあり　粘性あり（柱痕）
17　黒褐色土　7.5YR3/1　ロームブロック（φ10～40mm）・焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
18　黒褐色土　7.5YR3/1　ローム粒子（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
19　黒色土　7.5YR1.7/1　しまりややあり～弱い　粘性強い

第231号住居跡（第234図）

H・I―33・34グリッドに位置する。第199・251号住居跡と重複するが、切り合い関係は不明である。

形状は東西に長い方形で、規模は東西6.9m、南北4.9mである。確認面から床面までの深さは10cmである。東壁を基準とした傾きはN―20°―Wである。

床面はしっかりとしており、東寄り中央に径15cmほどの被熱箇所が検出された。

壁溝は浅く、途切れがちに検出された。幅8～22cm、深さ4～10cmである。東壁と平行に1.8mほど内側に走る短い溝は、仕切り溝もしくは拡張前の壁溝と推定される。

ピットは2基検出された。掘り込みは深く、ともに柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に52cm、53cmである。

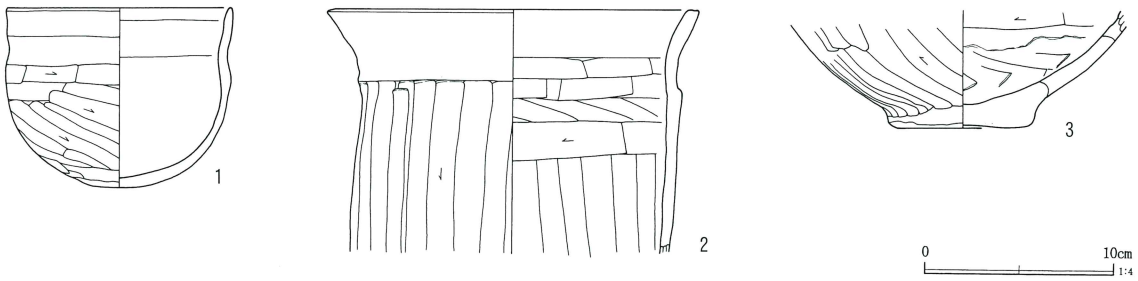
遺物はすべて破片である。土師器埦・甕・壺がみられる。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ～Ⅷ期である。

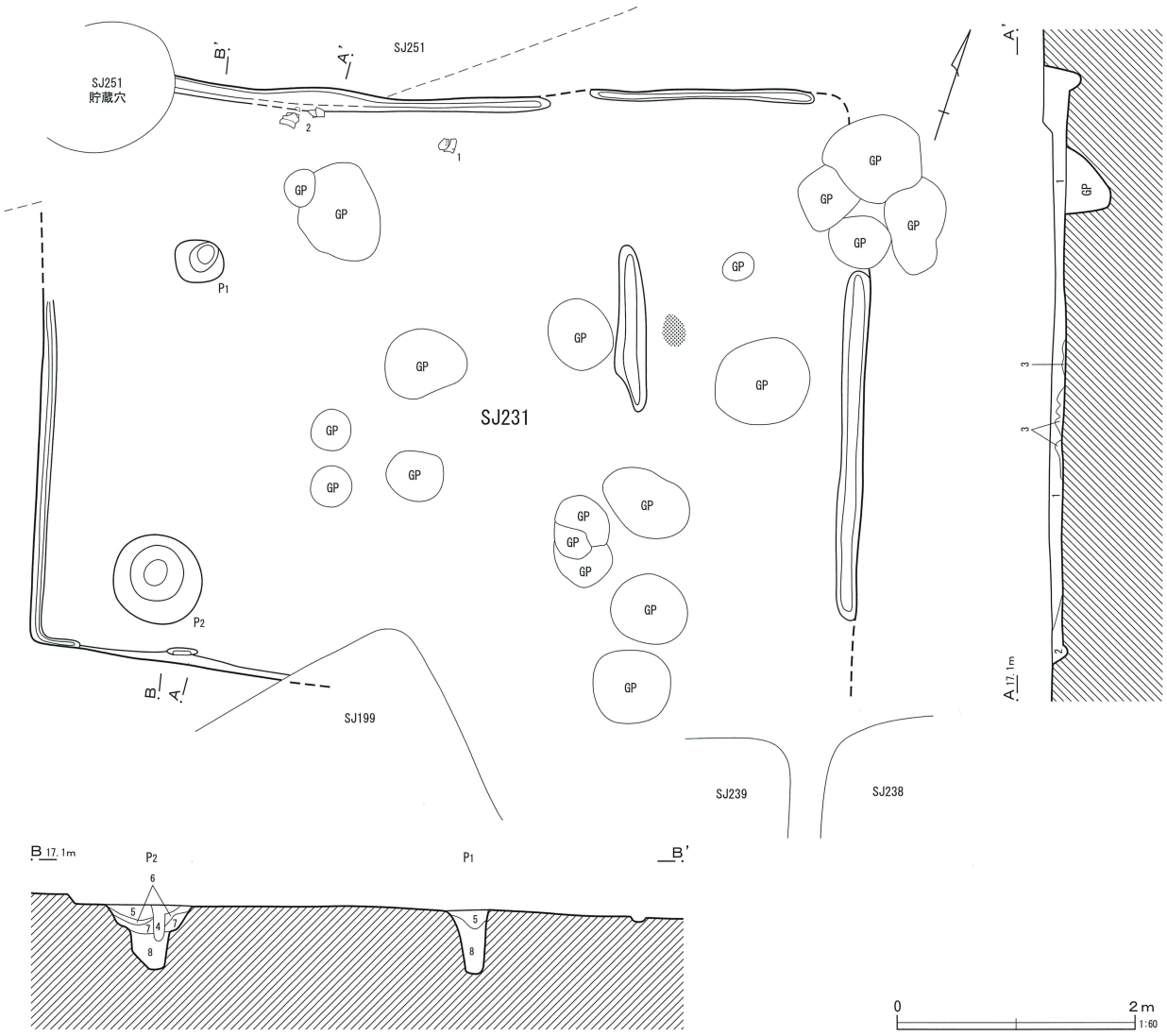
第232号住居跡（第235図）

I・J―34グリッドに位置する。第215・233・238号住居跡、第589号土坑と重複する。住居跡の重複関係は、第233号住居跡より新しく、第215・238号住居跡よりも古いと考えられる。

第238号住居跡の入れ子になって検出された住居跡で、第238号住居跡にほとんど削平され、部分的にしか残っていない。形状は定かではないが、方形を呈するものと思われる。検出された規模は東西3.5



第233図　第231号住居跡出土遺物



第231号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2　灰黄褐色土　10YR4/2　ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3　明黄褐色土　10YR6/6　ロームブロック主体　しまりあり　粘性ややあり

ピット
4　黒褐色土　10YR3/1　しまりややあり　粘性強い（柱痕）
5　褐灰色土　10YR4/1　ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりややあり　粘性あり
6　褐灰色土　10YR4/1　ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまり・粘性ややあり
7　黄灰色土　2.5Y4/1　ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまり・粘性ややあり
8　黒褐色土　2.5Y3/2　しまりややあり　粘性あり

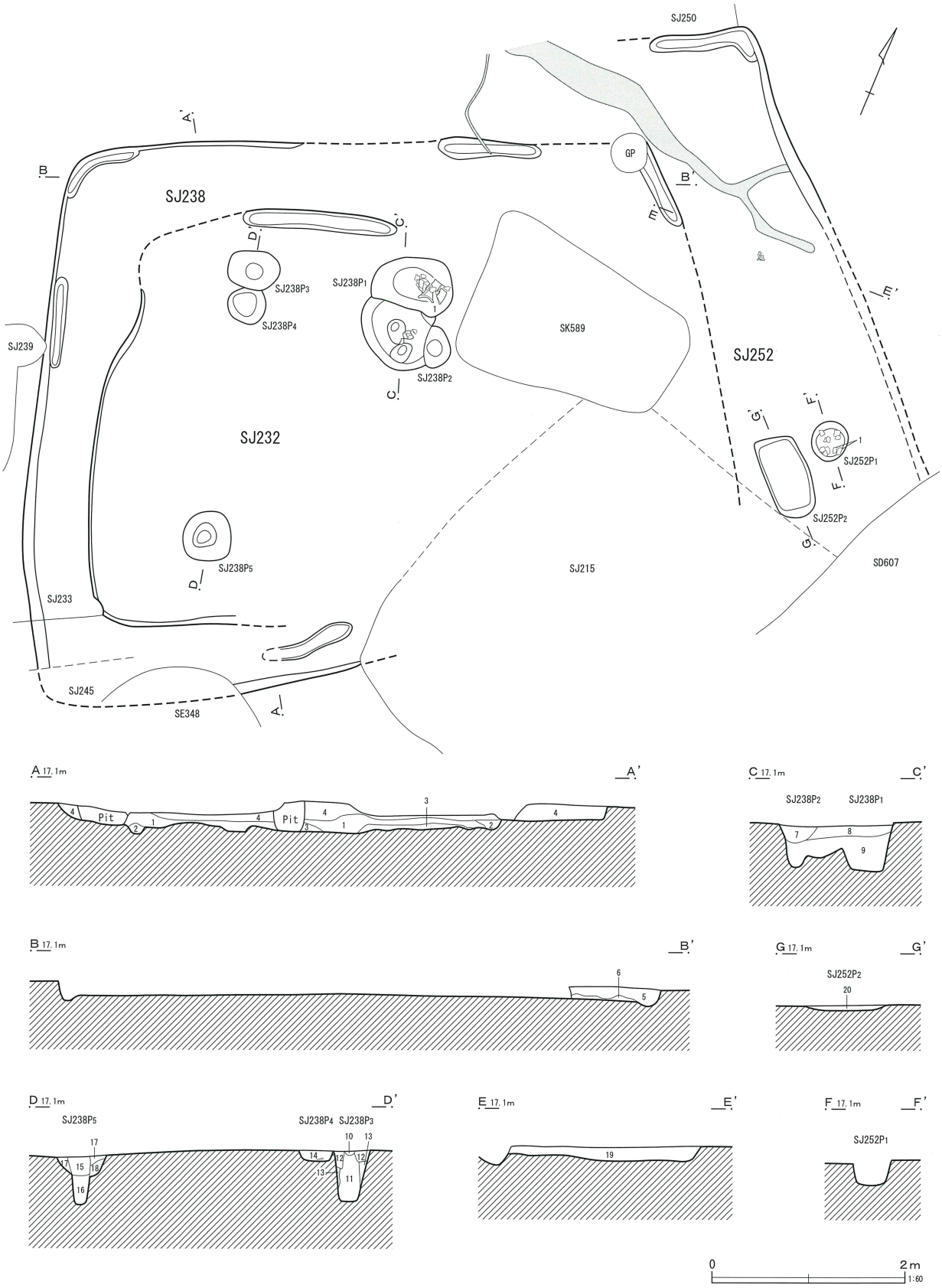
第234図　第231号住居跡

m、南北4.1mである。確認面(第238号住居跡床面)から床面までの深さは12cmである。西壁を基準とした傾きはN—18°—Wである。

壁溝は北壁の一部で検出された。幅17～21cm、深さ3～5cmである。そのほかの施設は検出されなかった。

出土遺物は土師器の破片が少量である。図示できる遺物はない。

本住居跡の時期は不明である。



第235図　第232・238・252号住居跡

第232号住居跡
1　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～10mm）少量　しまりあり　粘性弱い
2　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒子（φ1～5mm）多量　しまりあり　粘性弱い　壁溝覆土
3　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～5mm）多量　しまりあり　粘性弱い

第238号住居跡
4　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性弱い
5　黒褐色土　10YR2/2　黄褐色土ブロック（φ30～50mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
6　暗灰黄色土　10YR5/2　黄褐色土ブロック（φ50mm以上）の層　しまり・粘性あり
ピット1・2
7　褐灰色土　10YR4/1　ロームブロック（φ20～30mm）多量　しまり・粘性あり（埋戻し）
8　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック（φ10mm）・焼土ブロック（φ5mm）・焼土粒子少量　しまり・粘性あり（埋戻し）
9　暗緑灰色土　5G4/1　青灰色粘土質　しまり・粘性あり

ピット3
10　黒色土　10YR2/1　灰色粘土　粘性強い（柱痕）
11　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～2mm）少量　焼土粒子・炭化物粒子（φ1mm）微量　しまり・粘性あり（柱痕）
12　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック少量
13　黒褐色土　10YR3/1　ロームブロック多量　しまり・粘性あり
ピット4
14　黒色土　10YR2/1　炭化物主体　焼土粒子（φ1～2mm）・ローム粒子（φ1～2mm）含む　しまりなし　もろい
ピット5
15　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～5mm）部分的に多く含む　焼土粒子・炭化物粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性弱い（柱痕）
16　黒色土　10YR2/1　ローム粒子（φ1～2mm）少量　しまりなし　粘性強い（柱痕）
17　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）少量　しまりややあり　粘性弱い
18　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～2mm）・焼土粒子・炭化物粒子（φ1～10mm）少量　しまりややあり　粘性弱い

第252号住居跡
19　黒褐色土　10YR3/2　焼土ブロック（φ10mm）少量　灰色土ブロック（φ10～20mm）層の下部に集中して含む　しまりあり　粘性弱い
ピット2
20　黒褐色土　10YR3/2　焼土ブロック（φ7mm）含む　炭化物少量　しまり・粘性あり

第233号住居跡（第237図）

Ⅰ—34グリッドに位置する。第232・238・239号住居跡と重複する。切り合うすべての住居跡よりも古いと考えられる。

南西コーナーを中心に、東西2.2m、南北2.0mの範囲が検出された。確認面から床面までの深さは5cmである。南壁を基準とした傾きはN—26°—Wである。

壁溝は一部途切れており、幅12～18cm、深さは5～6cmである。

ピットは2基検出された。ともに柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に60cm、40cmである。

出土遺物は土師器の破片が少量で、図示できる遺物はない。

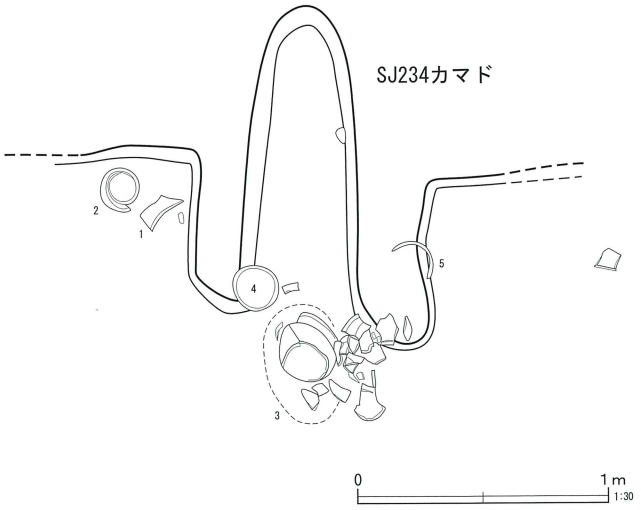
本住居跡の時期は不明である。

第234号住居跡（第236・238図）

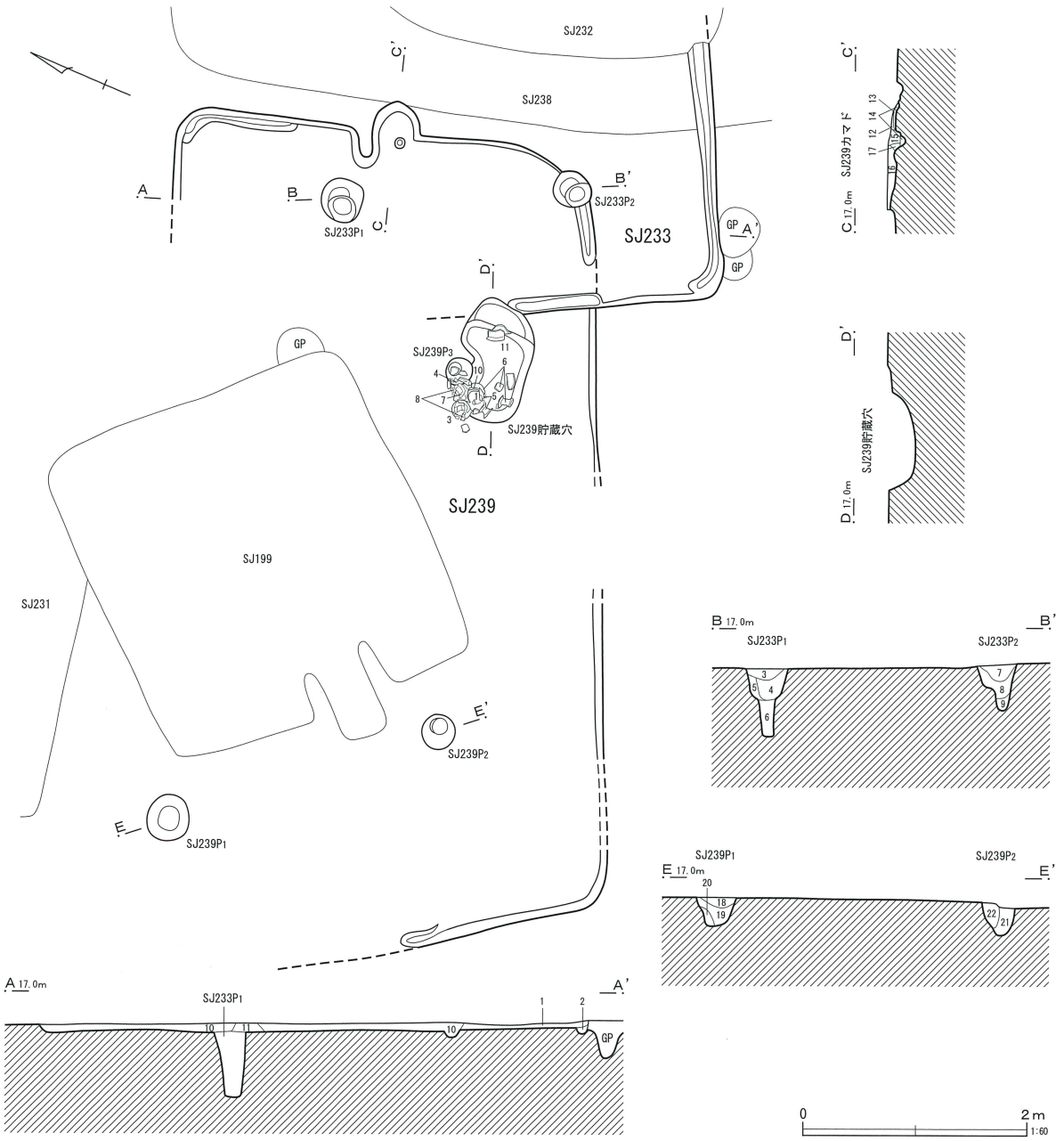
H・Ⅰ—32・33グリッドに位置する。第235・236号住居跡、第599・600号土坑、第355号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第235・236号住居跡より新しい。

確認面ではカマドのみが検出された。周辺は切り合う遺構が重なっていたため、同時に徐々に掘り下げたが、本住居跡の埋土は浅く、壁の立ち上がりを捉えることができなかった。土層断面で確認された検出規模は、東北—西南6.1m、南西—北東6.8mである。確認面から床面までの深さは8cmである。主軸方向はN—51°—Eである。

カマドは北東壁に構築されている。検出されたのは燃焼部から煙道にかけてで、底面は緩やかに浅くなっている。長さ130cm、焚口の幅は45cmである。底面には灰層（3層）が堆積している。袖は粘土で構築され、芯材として土師器甕（第239図4・5）が用いられていた。焚口にあたる箇所の床面は被熱しているピットは2基検出された。その位置から柱穴の可能性もあるが、柱痕は確認できなかった。ピット



第236図　第234号住居跡カマド

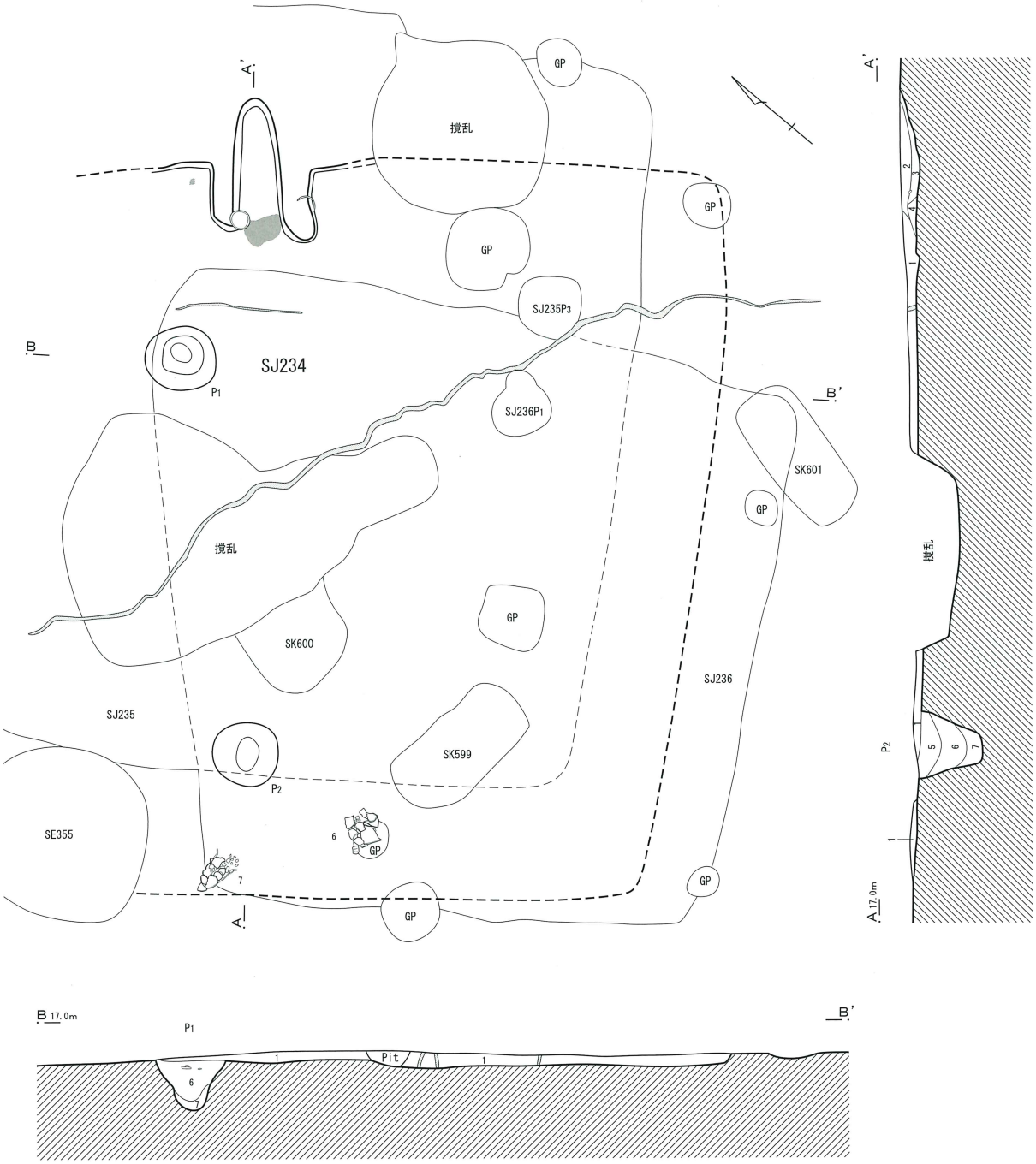


第233号住居跡
1　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～5mm）少量
2　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～2mm）・焼土粒子・炭化物粒子（φ1mm）少量（壁溝覆土）
ピット1
3　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～5mm）・ブロック・焼土ブロック少量　しまりあり　粘性ややあり
4　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～5mm）含む　焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）微量　しまりなし　粘性弱い
5　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～5mm）含む　ロームブロック多量　焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）微量　しまりなし　粘性弱い
6　黒褐色土　10YR3/1　地山砂多量　しまりなし　粘性弱い
ピット2
7　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック・焼土ブロック少量　しまり・粘性あり
8　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子・焼土粒子（φ1mm）微量　しまり・粘性あり
9　黒褐色土　10YR3/1　地山砂多量　しまりなし　粘性弱い

第239号住居跡
10　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～10mm）多量　しまりあり　粘性弱い
11　黄褐色土　10YR5/6　ロームブロック層

カマド
12　黒褐色土　10YR3/1　炭化物粒子（φ1mm）・灰含む　焼土粒子（φ1～2mm）少量　しまりなし　もろい
13　地山ロームが被熱した層
14　黒褐色土　10YR3/1　炭化物粒子・灰多量　焼土粒子（φ1～2mm）少量　しまりなし　もろい
15　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒子・ローム粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性あり（支脚痕）
16　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック多量　しまり・粘性あり
17　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒子・ロームブロック混在層（灰層）
ピット1
18　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～10mm）・焼土粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性あり
19　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～5mm）多量　焼土粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性あり
20　明黄褐色土　10YR6/6　ローム主体とし19層土混入　しまりよし　粘性強い
ピット2
21　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ1～2mm）少量　焼土粒子（φ1mm）含む　しまりあり　粘性ややあり
22　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～10mm）多量　焼土粒子（φ2mm）少量　しまりあり　粘性ややあり

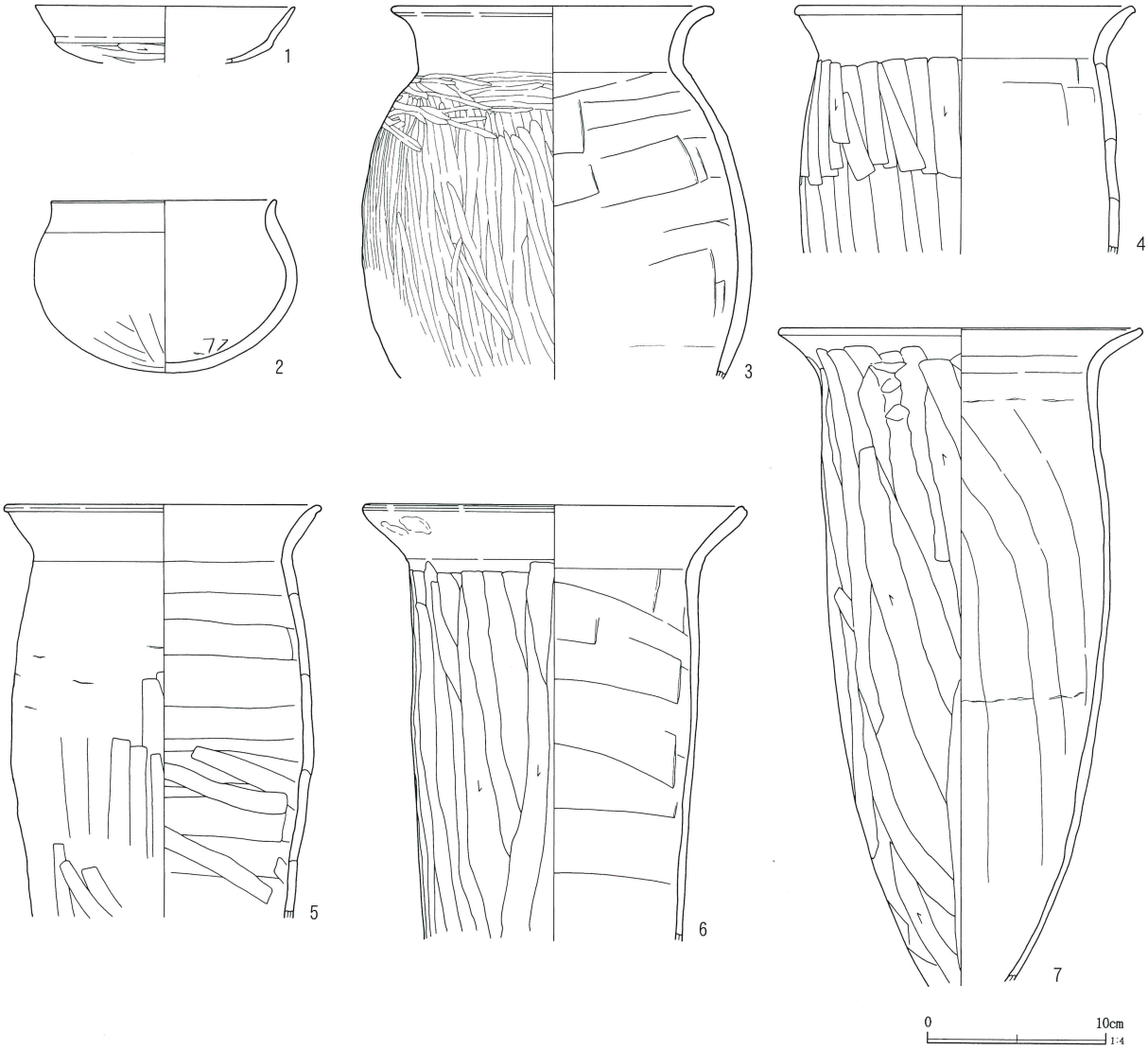
第237図　第233・239号住居跡



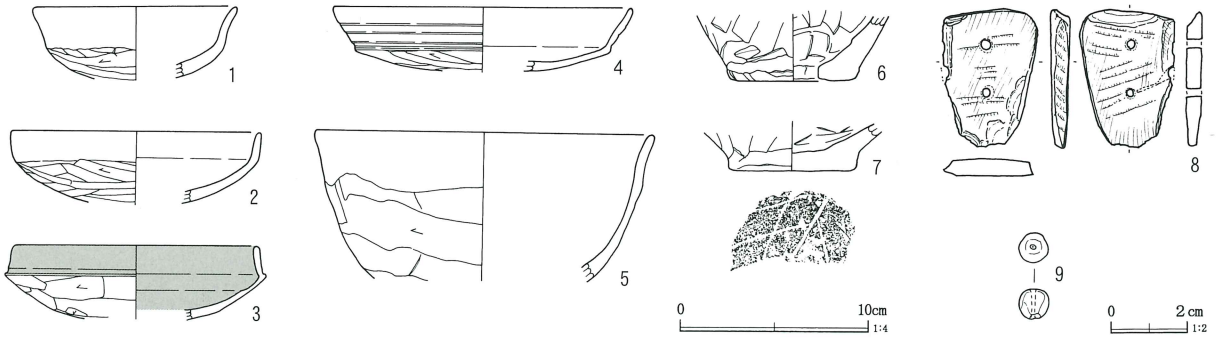
第234号住居跡
1　黒褐色土　2.5Y3/1　焼土ブロック（φ3～5mm）含む　炭化物粒子（φ2～5mm）少量　床面に炭化物層
カマド
2　オリーブ黒色土　5Y3/1　焼土ブロック（φ3～10mm）多量
3　暗灰色土　N3/0　灰・焼土ブロック（φ3～5mm）多量（灰層）
4　焼土
ピット
5　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む　焼土粒子・炭化物粒子（φ2～3mm）少量
6　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土粒子（φ1～2mm）・ブロック（φ3～5mm）多量
7　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ3～5mm）多量

0　2m
1:60

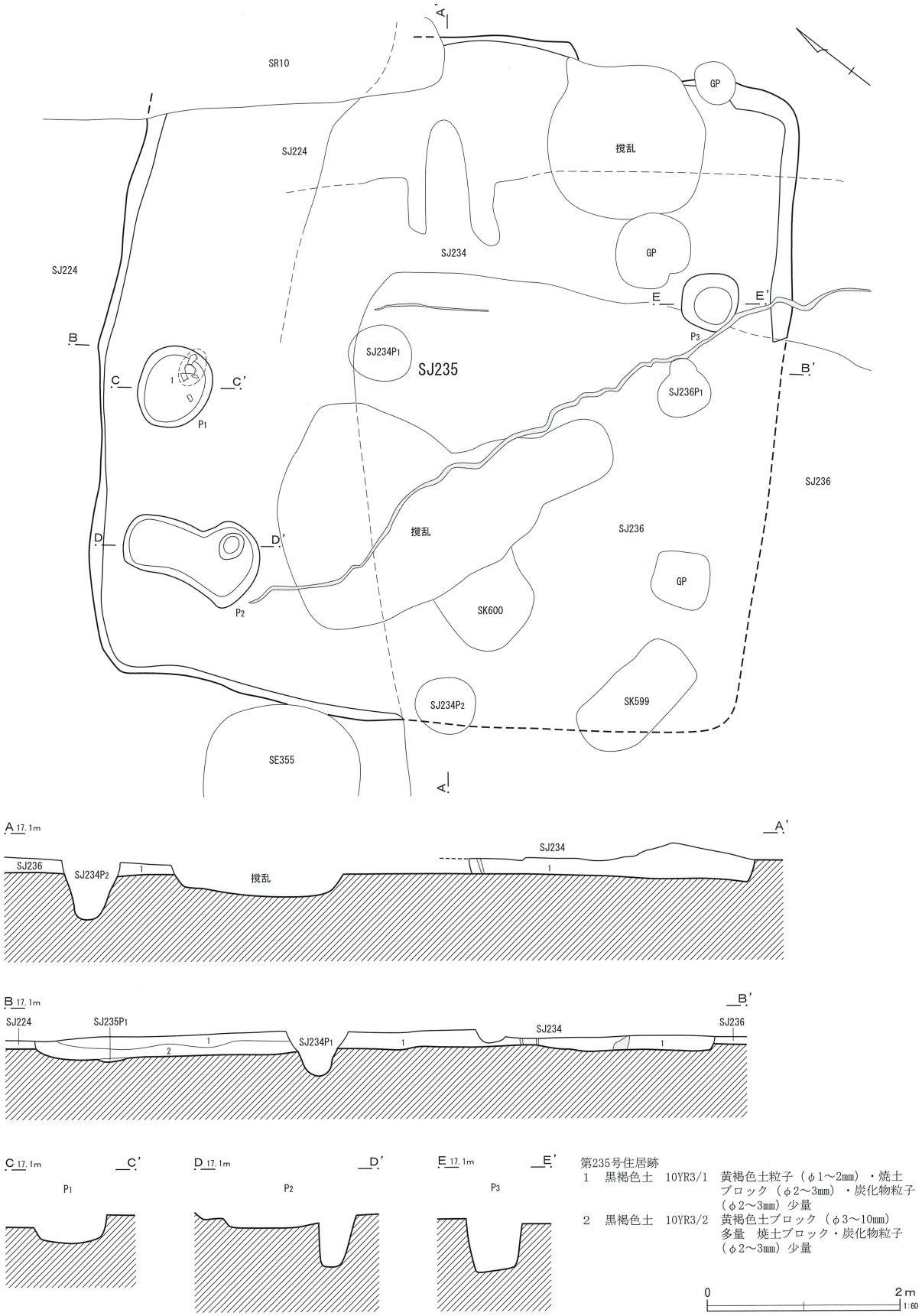
第238図　第234号住居跡



第239図　第234号住居跡出土遺物



第240図　第234・235号住居跡出土遺物



第241図　第235号住居跡

の深さはＰ1から順に44cm、60cmである。

カマドとその周辺から出土した土器、および確認面でつぶれた状態で出土した土器を本住居跡に伴うものと判断した。土師器坏・鉢・甕がある。埋土から出土した土器類は、切り合う第235号住居跡のものと混在しているため、別図版で掲載した。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。

第235号住居跡（第241図）

Ｈ・Ｉ―32・33グリッドに位置する。第224・234・236・251号住居跡、第599・600号土坑、第355号井戸跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第234号住居跡より古く、第224・236号住居跡より新しい。第251号住居跡との関係は不明である。

形状は正方形に近く、規模は東西6.8m、南北7.1mである。確認面から床面までの深さは16cmである。北西壁を基準とした傾きはＮ―58°―Ｅである。

ピットは３基検出された。ともに性格は不明である。ピットの深さはＰ1から順に23cm、48cm、54cmである。

本住居跡に伴う遺物は、Ｐ1内から出土した土師器甕である。埋土から出土した土器類は、切り合う第234号住居跡のものと混在しているため、別図版で掲載した。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期と考えられる。

第236号住居跡（第244図）

Ｈ―32・33、Ｉ―33グリッドに位置する。第234・235・241・251号住居跡、第606号溝跡、第599・600・601号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、切り合う住居跡のなかではもっとも古い。

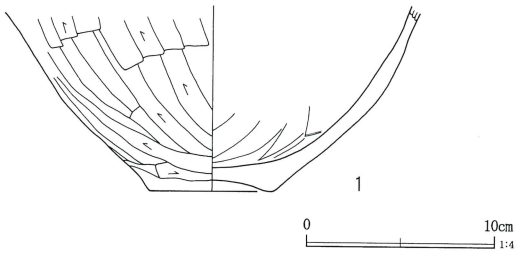
形状は方形であるが、地震による噴砂の影響を受けたものかやや歪んでいる。規模は東北―西南6.0m、南東―北西5.7mである。確認面から床面までの深さは17cmである。主軸方向はＮ―51°―Ｅである。

炉は床面をわずかにくぼめて火床面としている。65×38cm、深さは２cmである。

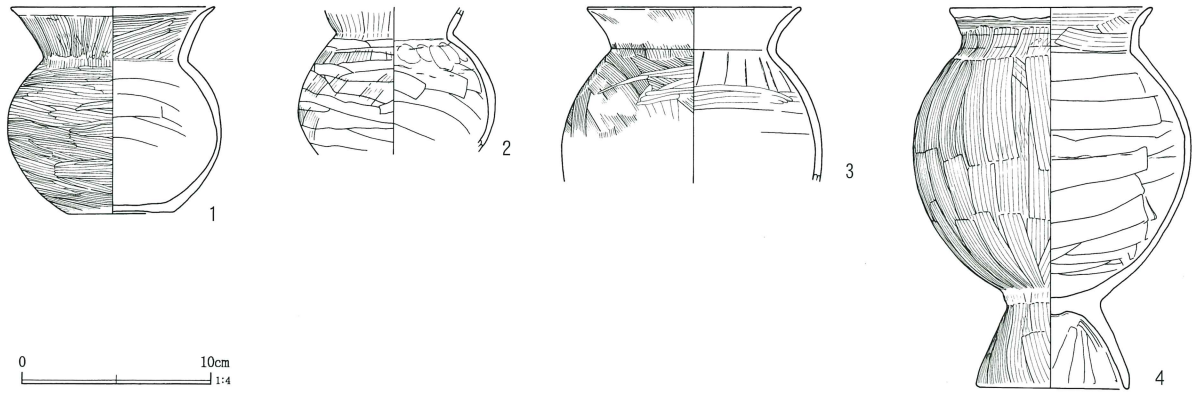
ピットは炉の北東に１基検出された。深さは53cmである。

出土遺物はあまり多くはないが、南東壁近くから良好な状態で出土した。土師器台付甕・小型甕・小型壺がある。

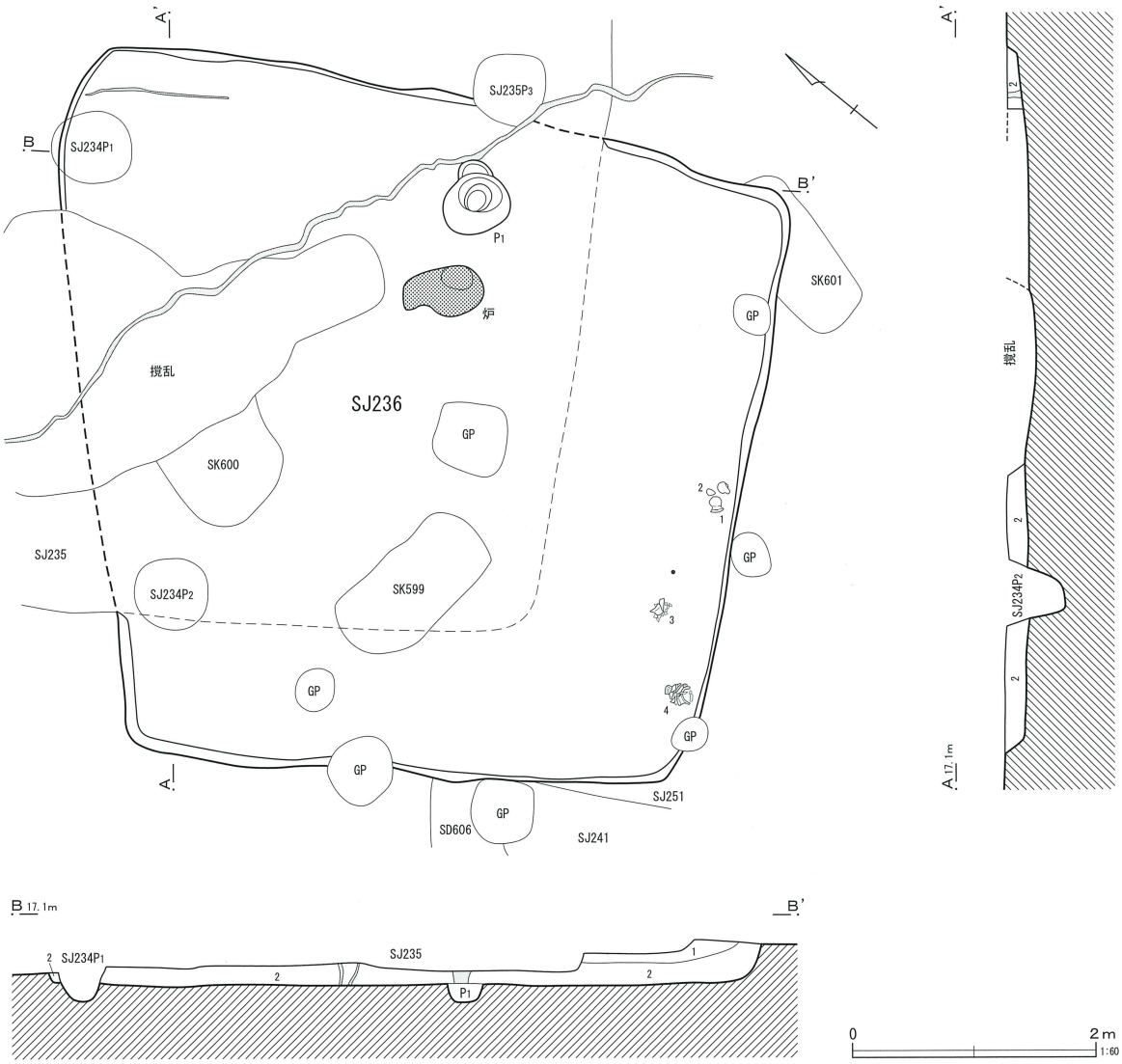
本住居跡の時期は下田町Ⅱ期である。



第242図　第235号住居跡出土遺物



第243図　第236号住居跡出土遺物



第236号住居跡
1　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～5mm）含む　焼土粒子・炭化物粒子（φ2～3mm）少量
2　黒褐色土　2.5Y3/1　黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量　焼土粒子・炭化物粒子（φ2～3mm）少量

第244図　第236号住居跡

第237号住居跡（第245図）

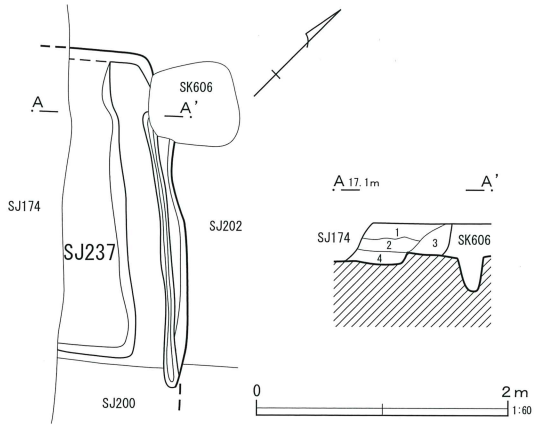
H—35グリッドに位置する。第174・192・200・202号住居跡、第606号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第174・192・200号住居跡より古く、第202号住居跡より新しい。

検出されたのは北コーナーを含む北東壁の一部のみである。検出された規模は東南—西北2.5m、南西—北東1.0mである。確認面から床面までの深さは32cmである。北東壁を基準とした傾きはN—50°—Wである。

壁溝の掘り込みは浅く幅15～21cm、深さ2～3cmである。

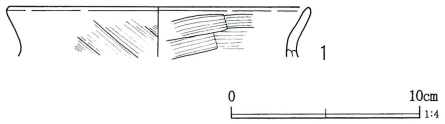
出土遺物は少なく、図示したのは土師器甕1点のみである。

本住居跡の時期は古墳時代前期である。



第237号住居跡
1　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック（φ10～20mm）下方に少量　しまり・粘性ややあり
2　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム土がブロック状に少量　しまり・粘性あり
3　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック（φ1～3mm）少量　住居の三角堆積　しまり・粘性あり
4　灰黄褐色土　10YR4/2　ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりややあり　粘性あり

第245図　第237号住居跡



第246図　第237号住居跡出土遺物

第238号住居跡（第235図）

Ⅰ—34、Ｊ—33・34グリッドに位置する。第215・232・233・239・245・252号住居跡、第589号土坑、第348号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第215号住居跡より古く、第232・233号住居跡より新しい。第239・245・252号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は東西に長い方形で、検出された規模は東西6.2m、南北5.5mである。確認面から床面までの深さは17cmである。西壁を基準とした傾きはN—18°—Wである。

床面は堅牢でなく、第232号住居跡が入れ子になって検出された。

壁溝は途切れがちに部分的に検出された。幅14～23cm、深さ４～５cmである。

ピットは５基検出された。Ｐ3・5には柱痕がみられ、主柱穴と考えられる。Ｐ1・2は底に凹凸のある不定形な掘り込みである。埋土から土器が出土している。ピットの深さはＰ1から順に45cm、42cm、51cm、12cm、48cmである。

出土遺物は少ない。図示したのはＰ1から出土した土師器甕である。

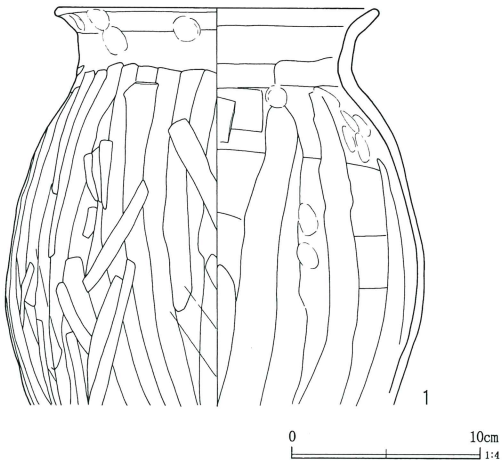
本住居跡の時期は下田町Ⅵ期である。

第239号住居跡（第237図）

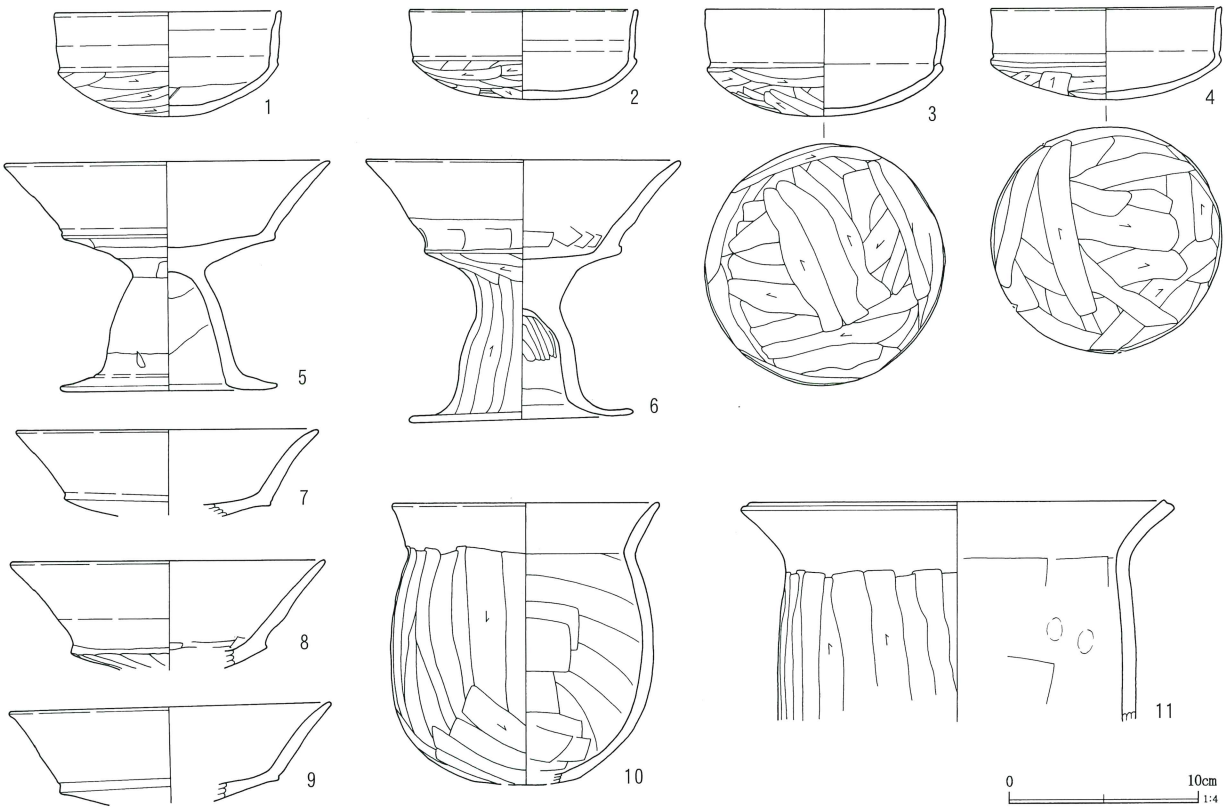
Ⅰ—34グリッドに位置する。第199・233・238号住居跡と重複する。切り合い関係は、第199号住居跡よりも古く、第233号住居跡より新しい。第238号住居跡との関係は明らかにできなかった。

埋土は浅く、壁は部分的にしか検出できなかった。確認面から床面までの深さは、残っている部分で７cmである。南壁ラインが共通するところから、１軒の住居跡と判断したが、２軒の住居跡であった可能性もある。１軒とすると形状は東西に長い長方形を呈し、規模は、東西7.1m、南北3.8mとなる。主軸方向はN—73°—Eである。

カマドは東壁中央に設けられている。燃焼部のみで、規模は60×42cm、埋土の深さは15cmである。袖は付け袖で、片側しか残っていなかった。中央に小ピットがあり、支脚の跡と考えられる。



第247図　第238号住居跡出土遺物



第248図　第239号住居跡出土遺物

貯蔵穴は不定楕円形で、やや緩やかな掘り込みである。規模は110×52cm、深さは25cmである。

壁溝は東壁の一部にのみ検出された。幅12～15cm、深さ３～６cmである。

ピットは２基検出された。柱穴かどうかは不明である。ピットの深さはＰ1から順に25cm、30cmである。

遺物は、貯蔵穴内および際から形になる土器が出土している。土師器坏・高坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町Ｖ期である。

第240号住居跡（第249図）

Ｉ―35グリッドに位置する。第126・197号住居跡、第585・605号溝跡、第571号土坑、第335・340・354号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第126号住居跡より新しい。第197号住居跡との関連は把握できなかった。検出されたのはカマドを含む北東部およそ1/4で、西側・南側は井戸跡や溝跡などによって失われている。検出された範囲は、東西4.3m、南北3.8mである。確認面から床面までの深さは27cmである。主軸方向はN―89°―Eである。

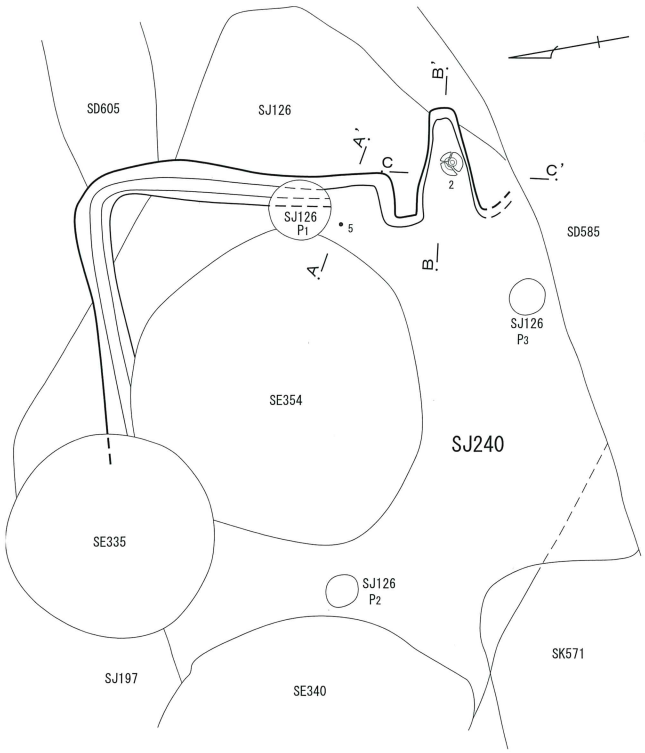
床面はしっかりとしており、直上には粘土の混じった薄い層が堆積する。貼床と考えられる。

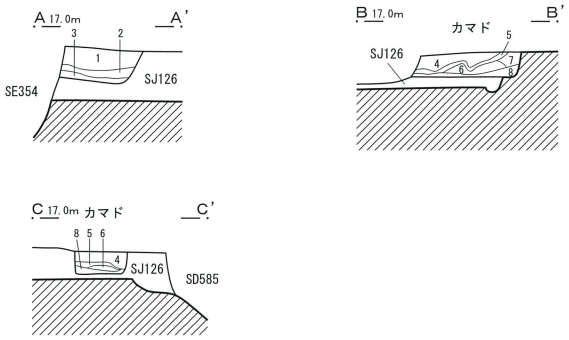
カマドは東壁に設けられている。煙道と燃焼部の境は明瞭でない。長さは87cm、幅は48cm、掘り込みはほとんど認められない。埋土上層には被熱した天井部の崩落土（４・５層）が、最下層には灰層が堆積していた。支脚に転用した高坏がやや煙道よりに出土している。袖は削り出しである。

壁溝は北東コーナーを中心に検出された。掘り込みはしっかりとしており、幅25～31cm、深さは４～７cmである。

出土遺物は少なく、接合率も低い。埋土からは土師器坏・甕などのほかに、ガラス玉が１点出している。

本住居跡の時期は下田町Ⅵ期である。





第240号住居跡

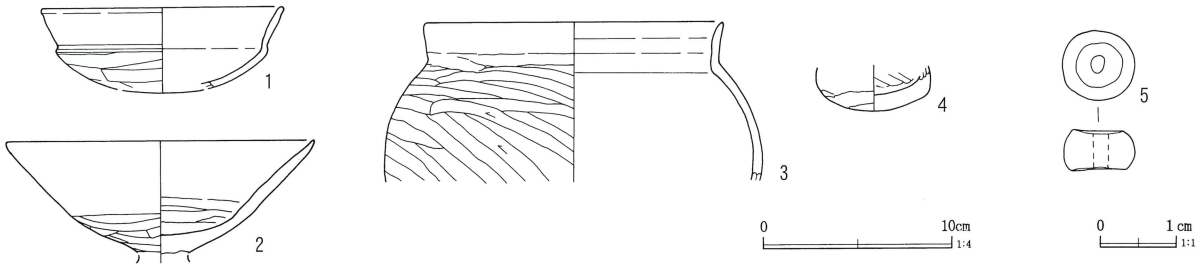
1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）・焼土ブロック（φ2～3mm）・炭化物粒子（φ3～5mm）少量
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）微量　炭化物粒子（φ3～5mm）少量
3	褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）・炭化物粒子（φ3～5mm）多量　焼土ブロック（φ2～3mm）少量（貼床か）

カマド

4	褐灰色土	10YR5/1	焼土ブロック（φ2～3mm）・黄灰色粘土粒子（φ0.5～1mm）少量（天井盛土）
5	橙色	5YR6/6	よく焼けた焼土ブロック（φ3～5mm）多量　褐色土（微量）の混土層（天井盛土）
6	褐灰色土	10YR4/1	よく焼けた焼土ブロック（φ3～5mm）微量　褐色土（微量）・灰の混土層（煙道流入土）
7	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）斑（煙突流入）
8	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック（φ2～3mm）微量（灰層）

0　2m　1:60

第249図　第240号住居跡



第250図　第240号住居跡出土遺物

第241号住居跡（第251図）

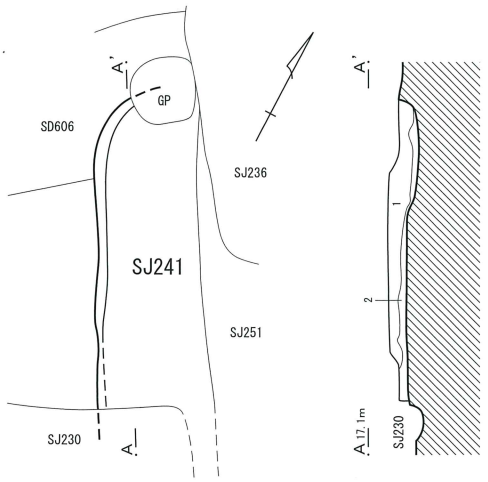
H—33グリッドに位置する。第230・236・251号住居跡、第606号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第230・251号住居跡よりも古く、第236号住居跡より新しいと考えられる。

検出されたのは西コーナーから南西壁の一部のみである。検出規模は東北—西南0.9m、南東—北西2.4mである。確認面から床面までの深さは22cmである。南西壁を基準とした傾きはN—29°—Wである。

本住居跡に伴う施設は検出されなかった。

出土遺物はわずかである。土師器有段口縁坏の破片が出土したが、小破片のため図示できなかった。

本住居跡の時期は切り合い等から古墳時代後期と考えられる。



第241号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまり・粘性ややあり
2　灰黄褐色土　10YR4/2　ロームブロック（φ10～30mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまり・粘性ややあり

0　2m　1:60

第251図　第241号住居跡

第242号住居跡（第232図）

Ⅰ—33・34グリッドに位置する。第214・230・243・251号住居跡、第338号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第230号住居跡よりも新しい。第214・243・251号住居跡との関係は把握できなかった。

方形を呈し、規模は東西4.3m、南北4.4mである。埋土は一層で、確認面から床面までの深さは16cmである。北壁を東西基準とした傾きはN—35°—Wである。

壁溝は、南東側を除いて検出された。幅11～16cm、深さ6～11cmである。

ピットは2基検出された。壁寄りに設けられており、柱穴の可能性もある。ピットの深さはP1から順に13cm、24cmである。

出土遺物は少なく、すべて破片である。切り合う第230号住居跡と同時に掘り下げたため、遺物は両住居跡のものが混在している。土師器坏・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。

第243号住居跡（第232図）

H—34グリッドに位置する。第214・227・230・242号住居跡と重複する。切り合い関係は第227・230号住居跡より新しい。第214・242号住居跡との関係は把握できなかった。

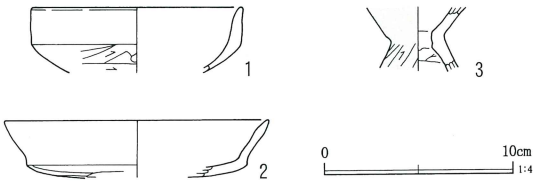
南東コーナーのみが検出された。形状はやや丸みを帯びている。検出された範囲は東西1.9m、南北1.8mである。埋土の残りは非常に薄く、確認面から床面までの深さは4cmである。東壁を基準とした傾きはN—28°—Wである。

壁溝は幅19～36cm、深さ6～8cmである。

ピットは1基検出された。深さは73cmである。

出土遺物は破片が少量で、図示できたのはわずかである。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。



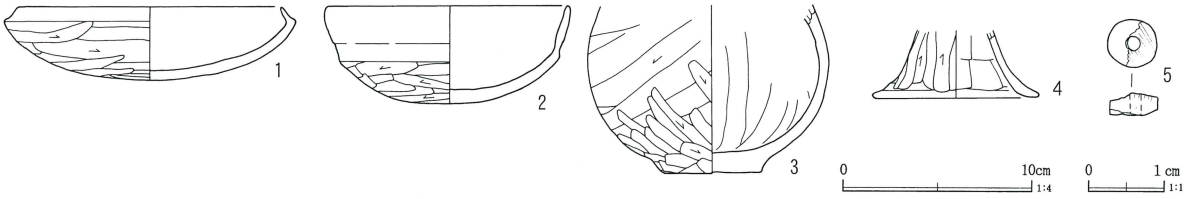
第252図　第243号住居跡出土遺物

第244号住居跡（第229図）

Ⅰ—32グリッドに位置する。第224・229号住居跡、第10号方形周溝墓と重複する。住居跡の切り合い関係は、第229号住居跡より新しく、第224号住居跡との関係は把握できなかった。埋土の区別がつかず、第229号住居跡と同時に掘り下げている。

形状は正方形に近く、規模は東北—西南3.9m、南東—北西は3.7mである。確認面から床面までの深さは13～20cmである。主軸方向はN—51°—Eである。

カマドは南西壁中央付近に設けられている。削平され、燃焼部の灰層の堆積がかろうじて検出された。床面をわずかに掘りくぼめている。袖は片側にのみ検出された。粘土で構築されていたと考えられる。



第253図　第244号住居跡出土遺物

壁溝はほぼ全周する。幅12～20cm、深さ４～８cmである。

出土遺物には土師器坏・小型壺、臼玉などがある。いずれも埋土から出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。

第245号住居跡（第255図）

Ⅰ―34グリッドに位置する。第238・246号住居跡、第337・348・358号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第238・246号住居跡よりも古い。

西コーナーの一部のみが検出された。検出範囲は東北―西南2.5m、南東―北西は1.2mである。埋土の残りは浅く、確認面から床面までの深さは11cmである。南西壁を基準とした傾きはN―16°―Wである。

壁溝はほとんど検出されなかった。P1とした浅い掘り込みと、それに接して溝状の浅い掘り込みが認められた。性格は不明である。P1の深さは17cmである。

出土遺物は少なく、図示できたのは土師器高坏のみである。

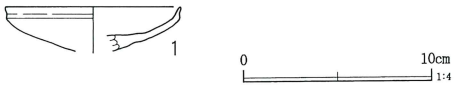
本住居跡の時期は古墳時代前期と考えられる。

第246号住居跡（第256図）

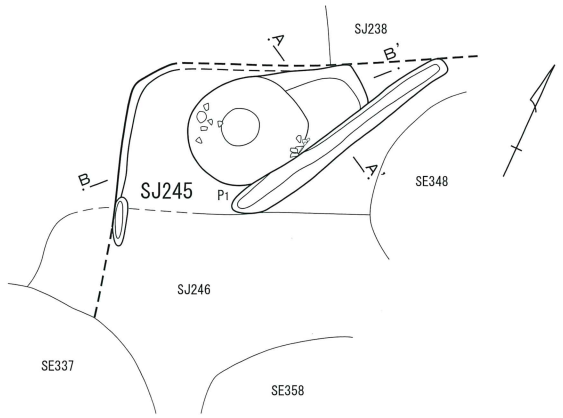
Ⅰ―34・35、Ｊ―34グリッドに位置する。第245号住居跡、第605号溝跡、第607号土坑、第324・336・337・348・358・359号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第245号住居跡よりも新しい。

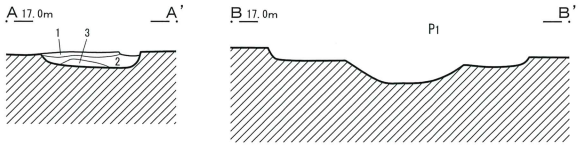
多くの遺構と切り合っているため、東側は検出されなかった。形状は方形で、検出された範囲は東西3.5m、南北5.1mである。埋土は一層のみが確認され、確認面から床面までの深さは14cmである。西壁を基準とした傾きはN―16°―Wである。

壁溝は検出された壁には巡っていたと推定され

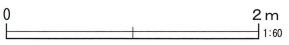


第254図　第245号住居跡出土遺物





第245号住居跡
1　黒褐色土　10YR3/1　炭化物粒子（φ1mm）少量　しまり・粘性弱い
2　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒子（φ1～5mm）　しまり・粘性あり
3　明黄褐色土　10YR6/6　ローム主体　２層土を斑に含む　しまり・粘性あり

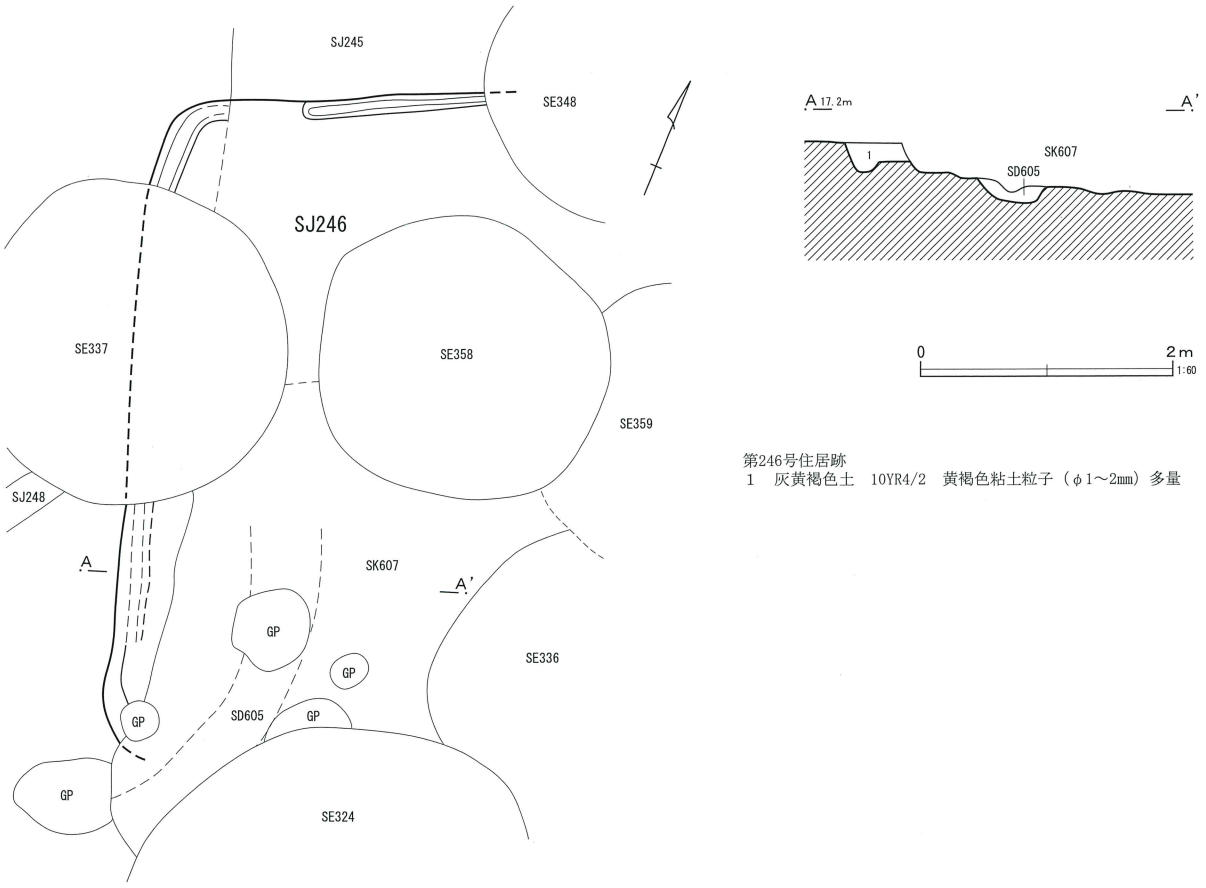


第255図　第245号住居跡

る。掘り込みは浅く、幅11～23cm、深さ２～７cmである。そのほかの施設は検出されなかった。

出土遺物は少なく、破片のみである。図示したのは灰釉陶器埦の底部である。このほかに須恵器壺や土師器甕の破片が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅻ期である。



第246号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土粒子（φ1～2mm）多量

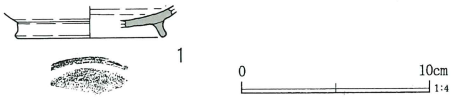
第256図　第246号住居跡

第247号住居跡（第258図）

Ⅰ―32・33グリッドに位置する。第229・249・254号住居跡、第602号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第229・249号住居跡よりも古く、第254号住居跡との切り合いは確認できなかった。

カマドを含む東壁のみが残っている住居跡である。形状は方形と推定される。検出された範囲は東西5.4m、南北3.6mである。埋土はほとんど残ってないが、わずかに残る部分では、確認面から床面までの深さは12cmである。主軸方向はN―52°―Eである。

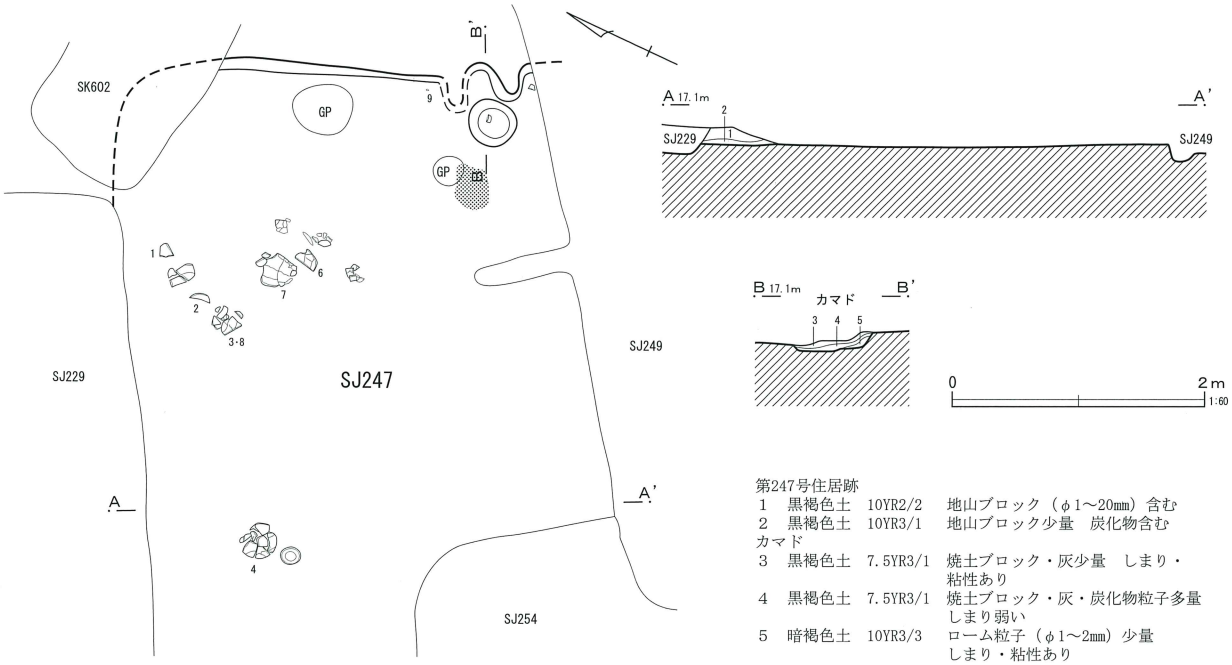
カマドは痕跡である。片側の袖の基部（地山土）と燃焼部の浅い掘り込みが検出された。手前の床面が径30cmほど被熱しており、実際のカマドの規模は、もう少し大きくなる可能性がある。



第257図　第246号住居跡出土遺物

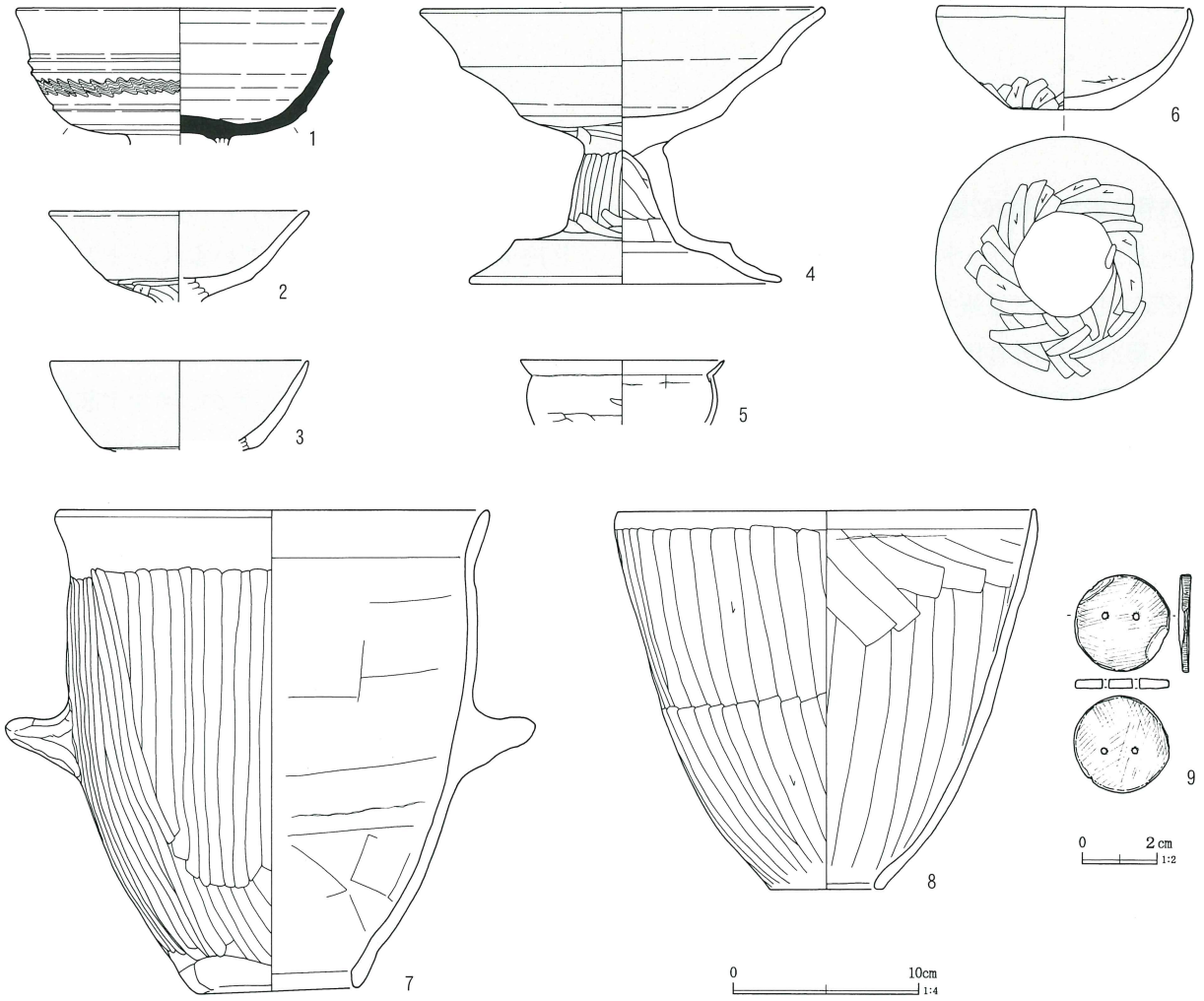
出土遺物の量は少ないが、比較的残りのよい状態で出土した。須恵器高坏、土師器埦・高坏・甑などがある。土器のほかには有孔円板がカマドの脇から出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅴ期である。



第247号住居跡
1　黒褐色土　10YR2/2　地山ブロック（φ1～20mm）含む
2　黒褐色土　10YR3/1　地山ブロック少量　炭化物含む
カマド
3　黒褐色土　7.5YR3/1　焼土ブロック・灰少量　しまり・粘性あり
4　黒褐色土　7.5YR3/1　焼土ブロック・灰・炭化物粒子多量　しまり弱い
5　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒子（φ1～2mm）少量　しまり・粘性あり

第258図　第247号住居跡



第259図　第247号住居跡出土遺物

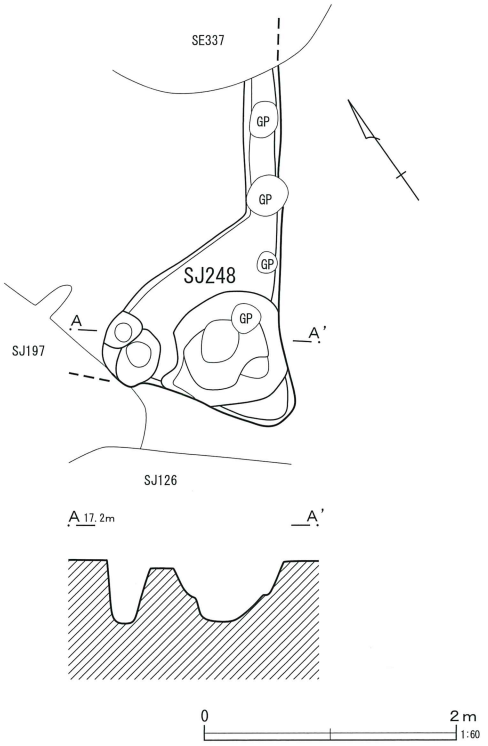
第248号住居跡（第260図）

Ⅰ—35グリッドに位置する。第197号住居跡、第337号井戸跡と重複する。第197号住居跡との切り合い関係は把握できなかった。

本住居跡は掘り方のみが検出された。南コーナーに当たる部分と考えられる。検出された範囲は東南—西北1.6m、南西—北東は2.3mである。南西壁を基準とした傾きはN—31°—Eである。

出土遺物はわずかである。図示できなかったが、土師器甑の取手が出土している。

本住居跡の時期は不明である。古墳時代後期に属する可能性がある。



第260図　第248号住居跡

第249号住居跡（第262図）

Ⅰ・J—32・33グリッドに位置する。第217・247・254・255号住居跡と重複する。第217号住居跡よりも古く、第247・255号住居跡より新しい。第254号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は長方形を呈する。規模は東北—西南5.7m、南東—北西4.8mである。埋土の残りはたいへん浅く、確認面から床面までの深さは6cmである。主軸方向はN—36°—Wである。

カマドは北西壁中央に設けられている。削平を受け、検出されたのは煙道の最下層と燃焼部の痕跡である。煙道の長さは95cm、燃焼部は40×18cm、深さは3cmである。袖は粘土で構築されていたと考えられ、芯材の土師器甕が両袖から出土した。

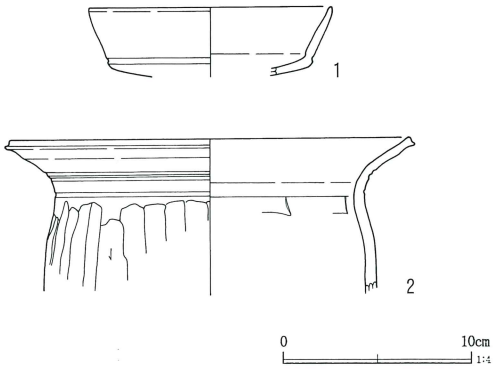
貯蔵穴は楕円形を呈し、バケツ状に掘り込まれている。規模は66×53cm、深さは46cmである。

壁溝はほぼ全周する。幅10～26cm、深さ3～8cmである。南西壁には二重に巡っている。

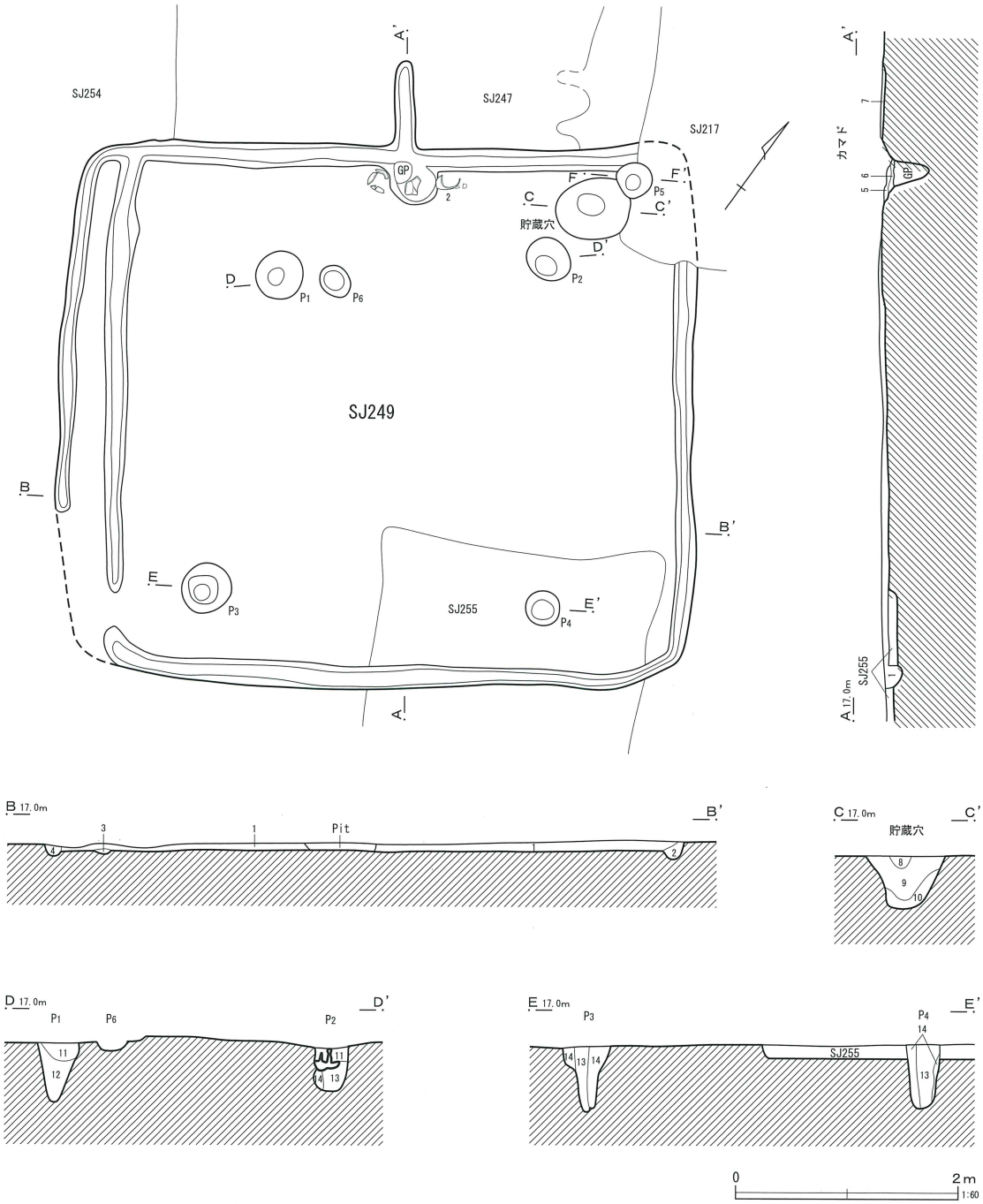
ピットは6基検出された。P1～4は主柱穴であり、P1を除いて柱痕が確認されている。ピットの深さはP1から順に52cm、38cm、58cm、57cm、28cm、8cmである。

出土遺物は破片で、図示したのはカマド芯材に転用された土師器甕と埋土出土の土師器坏である。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。



第261図　第249号住居跡出土遺物



第249号住居跡

1　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
　　焼土・炭化物ブロック（φ3～5mm）微量
2　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）少量
3　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）少量
4　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）斑

カマド

5　暗灰色土　N3/　灰主体　焼土粒子（φ1～3mm）少量
　　ローム粒子（φ1～2mm）微量　しまり・粘性弱い
6　暗灰色土　N3/　灰多量　焼土粒子（φ１mm）少量
　　しまり弱い　粘性強い
7　褐灰色土　10YR4/1　ロームブロック多量　しまり・粘性あり

貯蔵穴

8　褐灰色土　10YR4/1　灰色粘土多量　焼土粒子（φ1～2mm）少量
　　しまりあり　粘性強い（ピット埋土）
9　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～2mm）・ロームブロック
　　・焼土粒子・炭化物粒子（φ1～5mm）少量
　　しまりあり　粘性ややあり
10　黒褐色土　10YR3/2　９層と同じだがロームの混入量が多い

ピット１～４

11　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量
　　焼土ブロック・炭化物ブロック（φ3～5mm）少量
12　灰黄褐色土　10YR4/1　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
13　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）微量
　　（柱痕）
14　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
　　（掘り方）

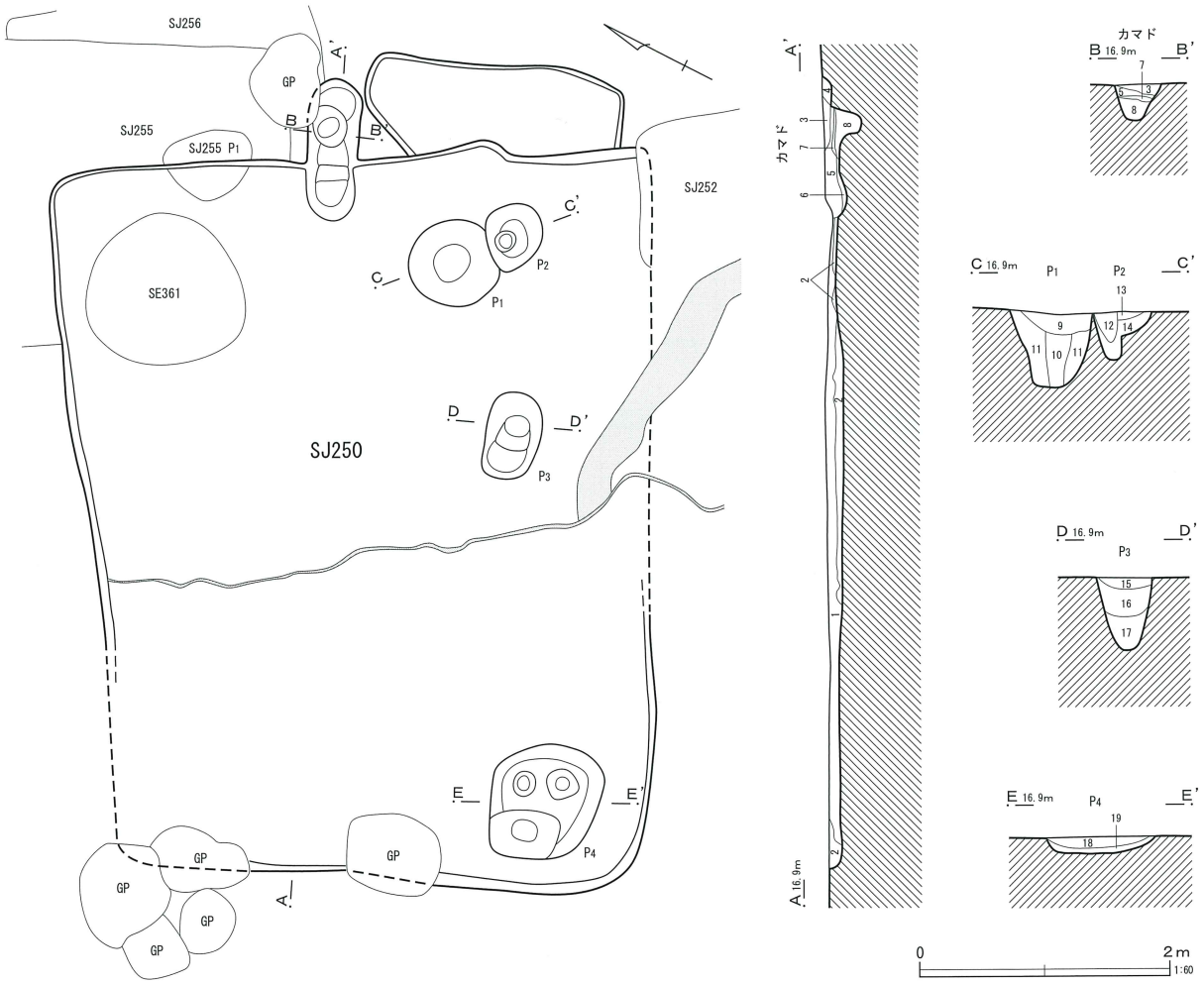
第262図　第249号住居跡

第250号住居跡（第263図）

Ⅰ—33・34、Ｊ—33グリッドに位置する。第252・255・256号住居跡、第361号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は第255・256号住居跡よりも新しい。第252号住居跡との関係は不明である。

形状は方形を呈し、規模は東北—西南5.9ｍ、南東—北西は推定で4.7ｍである。確認面から床面までの深さは14cmである。主軸方向はＮ—63°—Ｅである。

地震による噴砂の影響か、南東壁は不明瞭である。床面はしっかりとしており、カマドの前には薄い炭化物の堆積が広がり、その下から貼床が検出された。



第250号住居跡
1　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒子（φ5mm）少量　しまりあり　粘性弱い
2　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ50mm以上）多量　しまりあり　粘性弱い

カマド
3　橙色土　5YR7/6　焼土多量（天井崩落土）
4　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）斑　焼土・灰少量
5　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量　灰微量（埋め戻し）
6　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
7　黒褐色土　10YR3/1　灰多量　炭化物少量（灰層）
8　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土ブロック多量　焼土少量

ピット１
9　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ20mm）・黄褐色土粒子（φ3mm）少量　しまり・粘性あり
10　褐灰色土　10YR4/1　褐灰色の粘土質の土　しまり・粘性あり（柱痕）
11　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ10～30mm）多量　焼土粒子（φ2mm）微量　しまり・粘性あり（埋戻し）

ピット２
12　黒褐色土　10YR3/1　灰色土粒子（φ2mm）微量　しまり・粘性あり（柱痕）
13　黒褐色土　10YR3/1　灰色土粒子（φ2mm）少量　しまり・粘性あり
14　にぶい黄褐色土　10YR5/3　黄褐色土ブロック（φ30mm）多量かつ均一に含む　しまり・粘性あり（埋戻し）

ピット３
15　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒子（φ2mm）少量　しまり・粘性あり
16　黒褐色土　10YR3/2　灰色土粒子（φ3～7mm）・焼土粒子（φ3mm）少量　しまり・粘性あり
17　暗灰色土　N3/0　暗灰色の粘土質の土　しまり・粘性あり

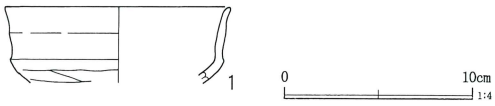
ピット４
18　黒褐色土　10YR3/1　焼土ブロック（φ5～7mm）・黄褐色土粒子（φ5mm）含む　しまりあり　粘性弱い
19　黒褐色土　10YR3/1　灰色土ブロック（φ30mm）・灰色土粒子（φ5mm）多量　しまりあり　粘性弱い

第263図　第250号住居跡

カマドは、北東壁中央に構築されている。煙道の長さは70cmである。中央にある小ピットには、粘土ブロックが堆積している。燃焼部は皿状に掘り込まれており、規模は45×38cm、深さは7cmである。灰層（7層）の上には天井部の崩落土（3層）が堆積している。袖は検出されなかった。

カマドの右側には、外に張り出す棚状の掘り込みが認められた。深さは3cmである。

ピットは4基検出された。P1・2の埋土には柱痕が確認された。ピットの深さはP1から順に59cm、37cm、57cm、14cmである。



第264図　第250号住居跡出土遺物

出土遺物は少なく、形になるものはない。図示したのは土師器坏である。

本住居跡の時期は下田町Ⅸ期である。

第251号住居跡（第266図）

H・I―33グリッドに位置する。第231・235・236・241・242・254号住居跡、第601号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第236・241・254号住居跡より新しいが、他の住居跡との関係は不明である。

形状は方形と推定される。規模は推定で、東北―西南7.0m、南東―北西6.8mである。確認面から床面の深さは23cmである。北東壁を基準とした傾きはN―31°―Wである。

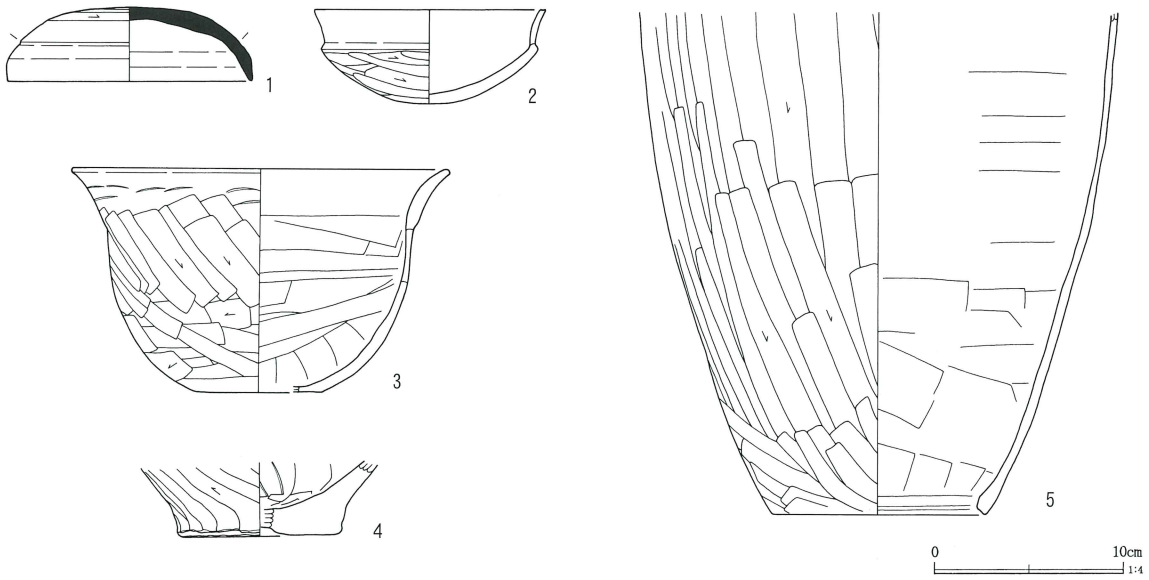
上面では切り合う遺構との区別が困難で、壁は部分的にのみ確認された。壁溝検出されなかった。

貯蔵穴は南西コーナー近くで検出された。形状は楕円形を呈し、底が平らになるバケツ状の掘り込みである。規模は131×104cm、深さは60cmである。

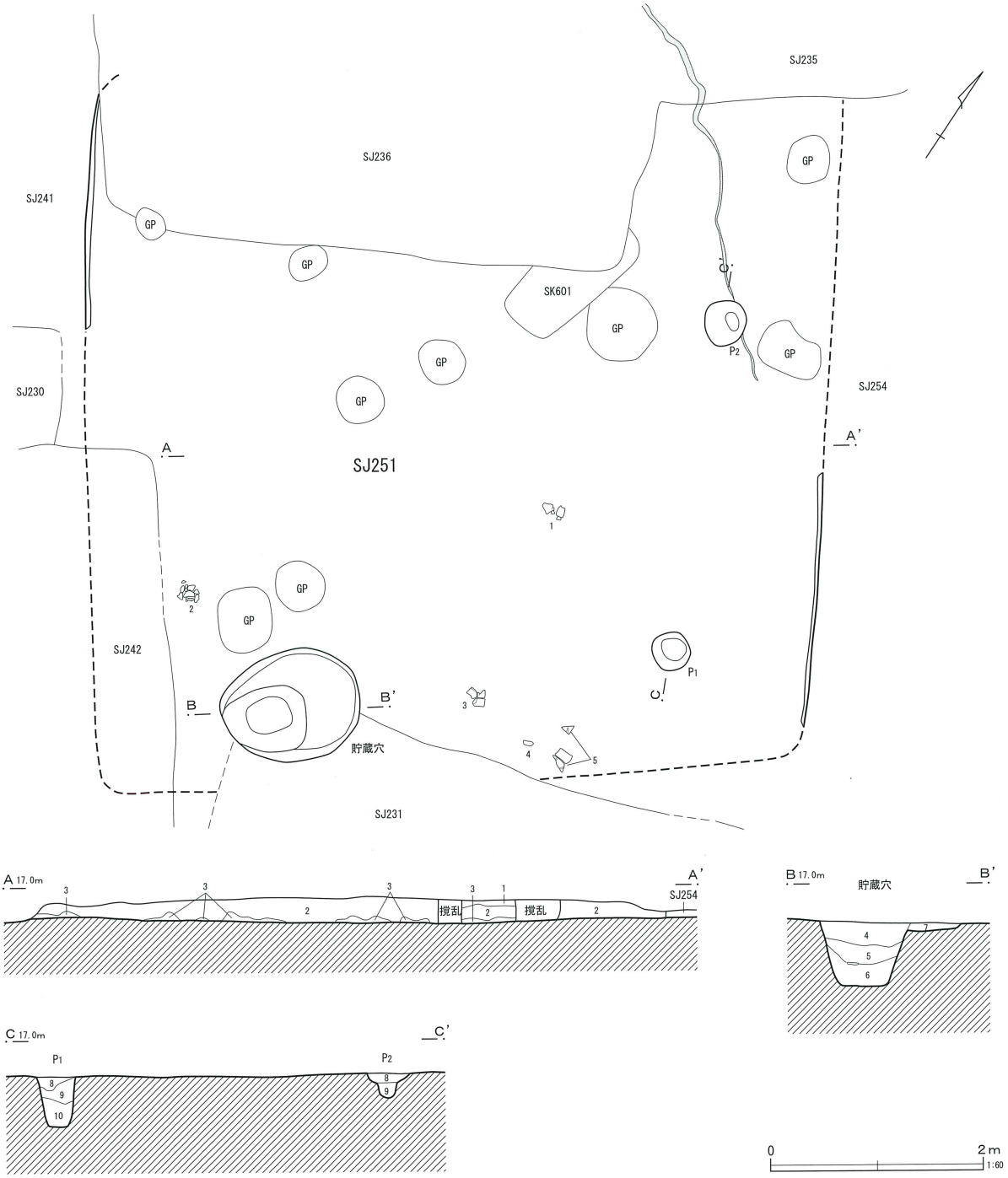
ピットは2基検出された。柱穴である確証はない。ピットの深さはP1から順に47cm、23cmである。

出土遺物は少ないが、比較的良好な状態で出土した。須恵器蓋、土師器坏・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。



第265図　第251号住居跡出土遺物

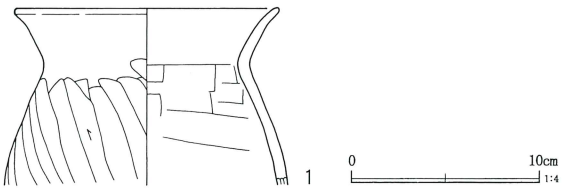


第251号住居跡
1　黒褐色土　7.5YR3/1　砂利多量　撹乱か　しまりあり　粘性ややあり
2　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒子（φ1～3mm）・炭化物粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3　灰黄褐色土　10YR4/2　ロームブロック主体　しまりあり　粘性ややあり（初期埋没）
貯蔵穴
4　黒褐色土　7.5YR3/1　焼土ブロック（φ10～30mm）・ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
5　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒子（φ10～15mm）少量　しまり・粘性ややあり
6　黒褐色土　10YR3/1　粘土層　しまりややあり　粘性強い
7　黒褐色土　7.5YR3/1　しまりあり　粘性ややあり
ピット1・2
8　黒褐色土　7.5YR3/1　焼土粒子（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
9　黒褐色土　7.5YR3/1　しまりあり　粘性ややあり
10　黒褐色土　10YR3/1　しまり弱い　粘性ややあり

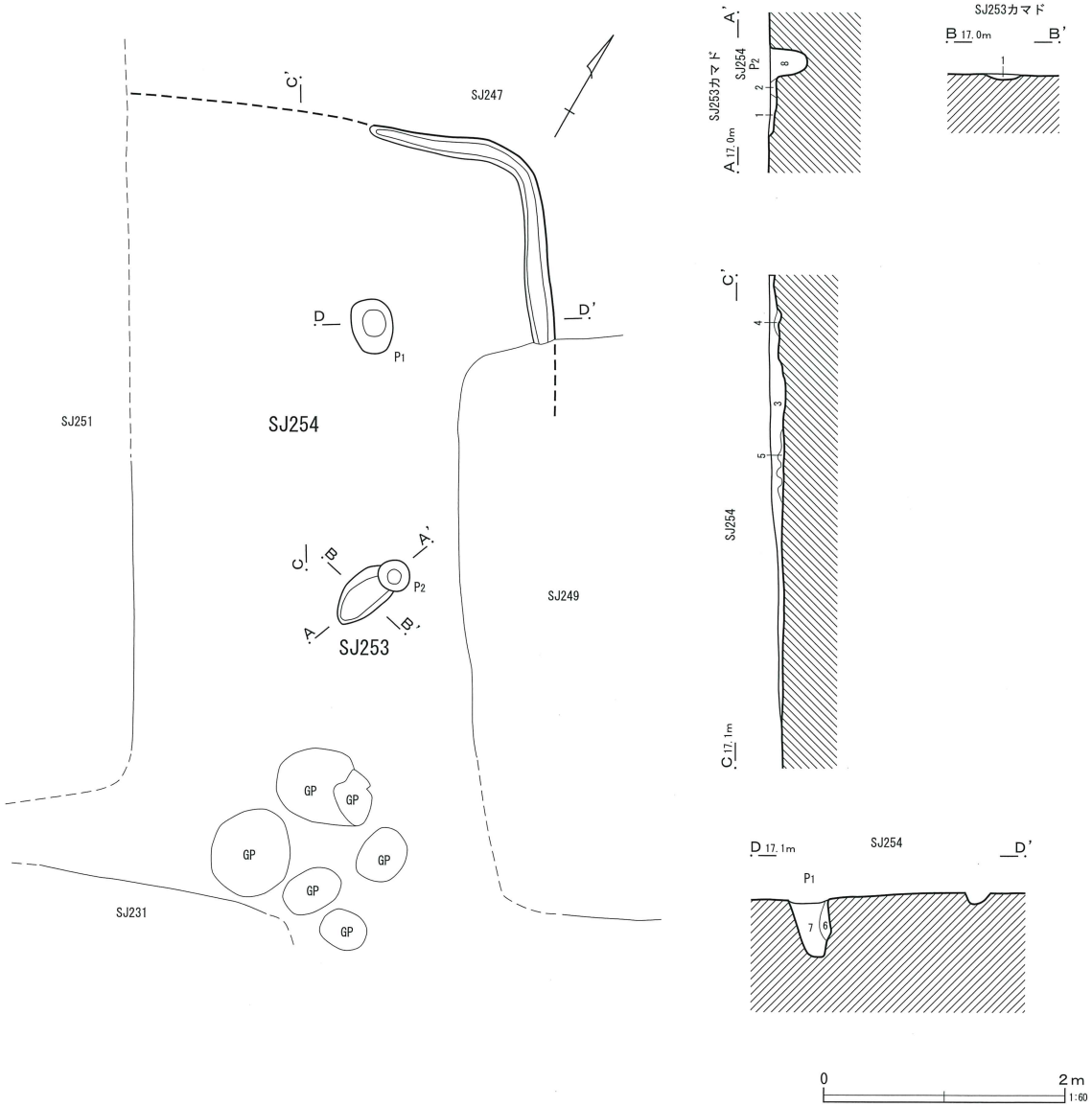
第266図　第251号住居跡

第252号住居跡（第235図）

Ｊ―33・34グリッドに位置する。第215・238・250号住居跡、第589号土坑、第607号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第215号住居跡より古く、その他の住居跡との関係は不明である。



第267図　第252号住居跡出土遺物



第253号住居跡カマド

1	黒褐色土	5YR3/1	焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまり・粘性あり
2	にぶい赤褐色土	2.5YR5/3	焼土ブロック主体　天井の崩落土含む　しまりあり　粘性弱い

第254号住居跡

3	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
4	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
5	灰黄褐色土	10YR6/2	ロームブロック主体　しまりあり　粘性ややあり

ピット１

6	黒褐色土	7.5YR3/1	ローム粒子（φ1～3mm）・焼土粒子（φ1～2mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
7	黒褐色土	7.5YR3/1	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり

ピット２

8	黒褐色土	7.5YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり

第268図　第253・254号住居跡

検出されたの壁は北コーナーのみである。検出された規模は東西1.4m、南北5.5mである。埋土は一層で、確認面から床面までの深さは15cmである。北東壁を基準とした傾きはN—35°—Wである。

壁溝は北コーナーにのみ検出された。幅18～20cm、深さ4～5cmである。

ピットは2基検出された。ともに性格は不明である。ピットの深さはP1から順に25cm、6cmである。

出土遺物は少なく、図示したのはP1から出土した土師器甕である。

本住居跡の時期を認定する根拠に欠けるが、古墳時代後期の範疇に入ると考えられる。

第253号住居跡（第268図）

I—33グリッドに位置する。カマドの痕跡が第254号住居跡内で検出された。切り合い関係は第254号住居跡よりも古い可能性がある。主軸方向はN—23°—Eである。

カマドは残存で、燃焼部の浅い掘り込みが検出された。規模は72×31cm、深さは5cmである。

遺物は出土しなかった。

本住居跡の時期は不明である。

第254号住居跡（第268図）

I—33グリッドに位置する。第247・249・251・253号住居跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第249号住居跡より古く、第253号住居跡よりも新しいと考えられるが、他の住居跡との関係は不明である。

検出されたのは北コーナーのみである。埋土が堆積していた範囲は、東北—西南3.5m、南東—北西3.3mである。埋土はほとんど削平されており、確認面から床面までの深さはもっとも深いところで13cmである。北東壁を基準とした傾きはN—30°—Wである。

壁溝は北コーナーを中心に検出された。掘り込みは浅く、幅11～22cm、深さ2～8cmである。

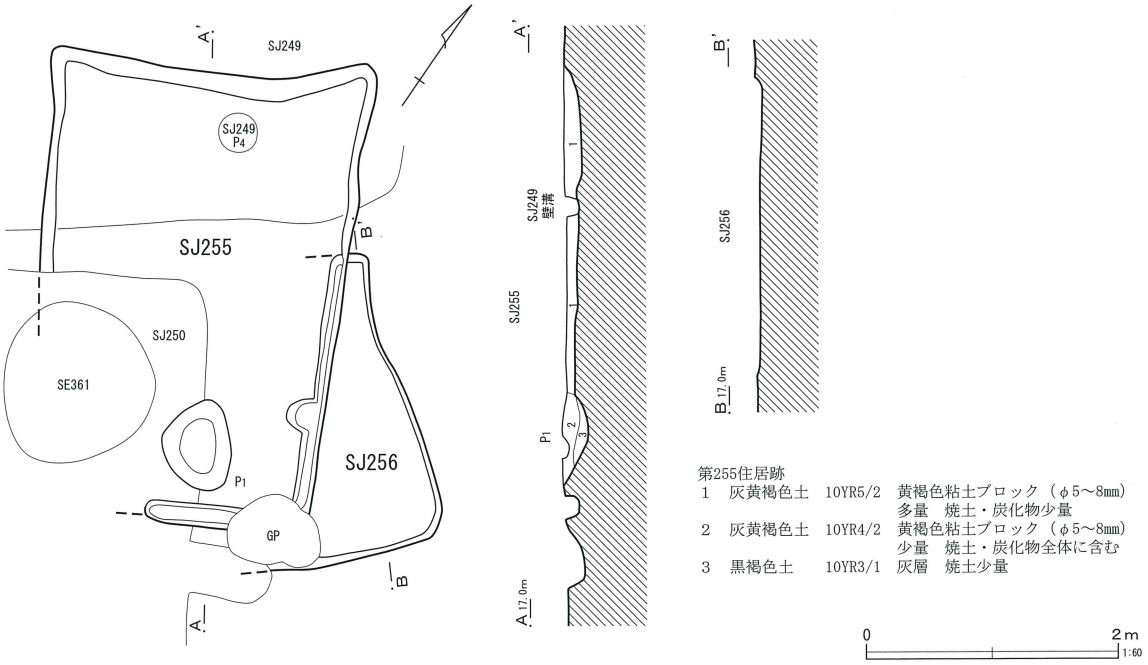
ピットは2基検出された。配置から柱穴の可能性もある。ピットの深さはP1から順に47cm、30cmである。

遺物は出土しなかった。

本住居跡の時期は不明である。

第255号住居跡（第269図）

I・J—33グリッドに位置する。第249・250・256



第269図　第255・256号住居跡

号住居跡、第361号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第249・250号住居跡よりも古く、第256号住居跡より新しい。

形状は南北に長い長方形である。規模は東北―西南2.5m、南東―北西3.6mである。埋土は浅く一層で、確認面から床面までの深さは8cmである。北東壁を基準とした傾きはN―33°―Wである。

壁溝は南西側の壁から検出された。幅10～14cm、深さ5～8cmである。

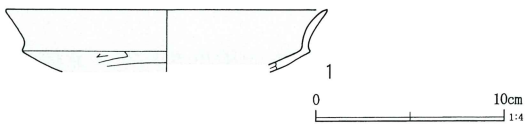
ピットは1基検出された。規模は69×55cm、深さは22cmである。上層に焼土を含んだ粘土ブロック層（2層）が、下層に灰層（3層）が堆積している。カマドの燃焼部であった可能性がある。

遺物は破片が少量出土した。土師器坏・甕などがある。図示したのは坏1点である。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。

第256号住居跡（第269図）

J―33グリッドに位置する。第250・255号住居跡と重複する。切り合い関係は、いずれの住居跡よりも古いと考えられる。



第270図　第255号住居跡出土遺物

形状は方形で、北東側の一部が検出された。範囲は東北―西南1.0m、南東―北西2.3mである。埋土は浅く、確認面から床面までの深さは6cmである。北東壁を基準とした傾きはN―44°―Wである。

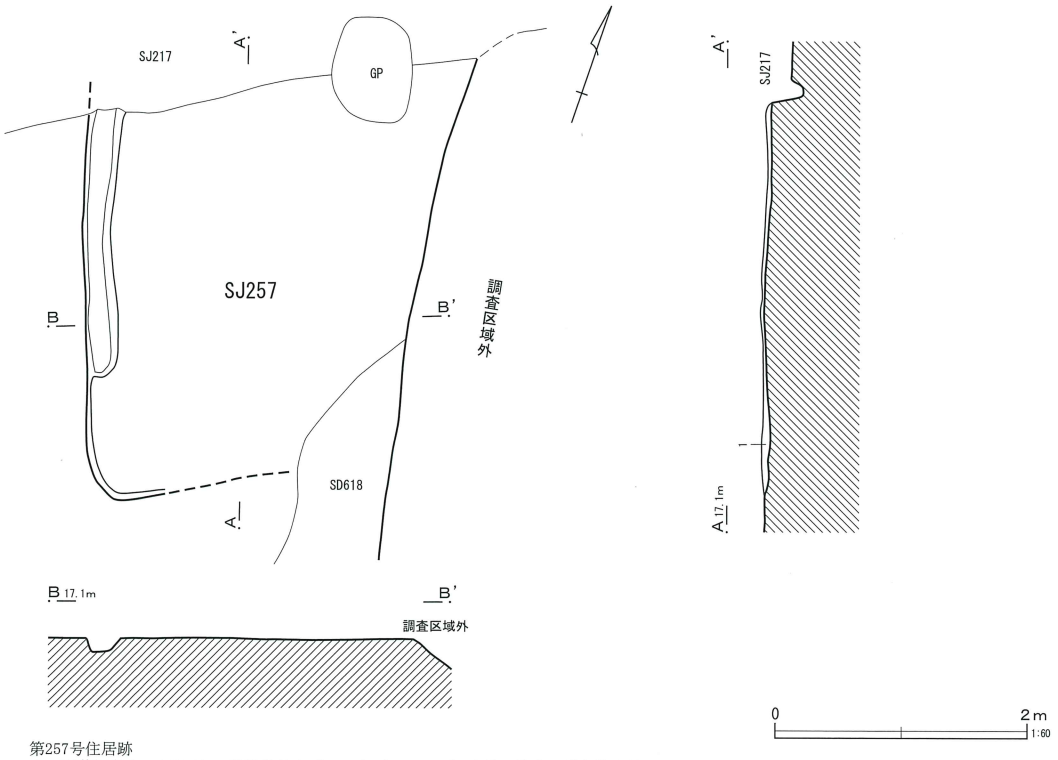
壁溝などの施設は検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

本住居跡の時期は不明である。

第257号住居跡（第271図）

J―32・33グリッドに位置する。第217号住居跡、第618号溝跡と重複する。第217号住居跡よりも古



第257号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量　焼土・炭化物少量

第271図　第257号住居跡

い。

南西コーナーと西壁のみが検出された。北側は第217号住居跡に切られ、東側は調査区域外にかかる。検出された範囲は東西3.0m、南北3.2mである。埋土は浅く一層で、確認面から床面までの深さは7cmである。西壁を基準とした傾きはN—18°—Wである。

壁溝は西壁の一部で確認された。幅22～26cm、深さ6～9cmである。この他の施設は検出されなかった。

出土遺物は少なく、小破片である。土師器坏・甕の破片が含まれる。

本住居跡の時期は不明である。

第258号住居跡（第273図）

F・G—31グリッドに位置する。第262・263・264・271・290号住居跡、第621号溝跡、第641号土坑、第370号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、切り合うすべての住居跡よりも新しい。

形状はやや東側が開く方形になると推定される。規模は東北—西南5.6m、南東—北西5.0mである。確認面から床面までの深さは20cmである。主軸方向はN—22°—Wである。

切り合う遺構が多いため、壁の立ち上がりは部分的にしか検出できなかった。

カマドは北壁中央に設けられている。煙道の長さは88cm、深さ15cm、煙出し口の部分は底がわずかにくぼんでいる。底には灰の薄い堆積が認められた。燃焼部の掘り込みはなく、焼土の堆積や被熱箇所は認められない。袖は検出されなかった。

壁溝は部分的に検出されたが、おそらくほぼ全周するものと考えられる。掘り込みはしっかりとしており、幅12～20cm、深さ17～20cmである。

ピットは2基検出された。南壁寄りに東西に並ぶが、柱痕は検出されなかった。ピットの深さはP1から順に67cm、33cmである。

出土遺物は破片が多く、図示できた遺物は少ない。土師器坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町X期である。

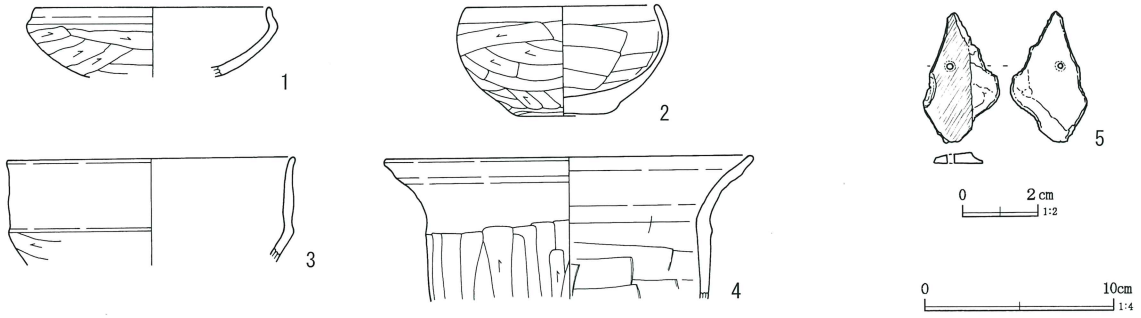
第259号住居跡（第274・275図）

F—29・30グリッドに位置する。第284号住居跡、第611・612・616・618・619・633・646・647・648号土坑、第365号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第284号住居跡よりも新しい。

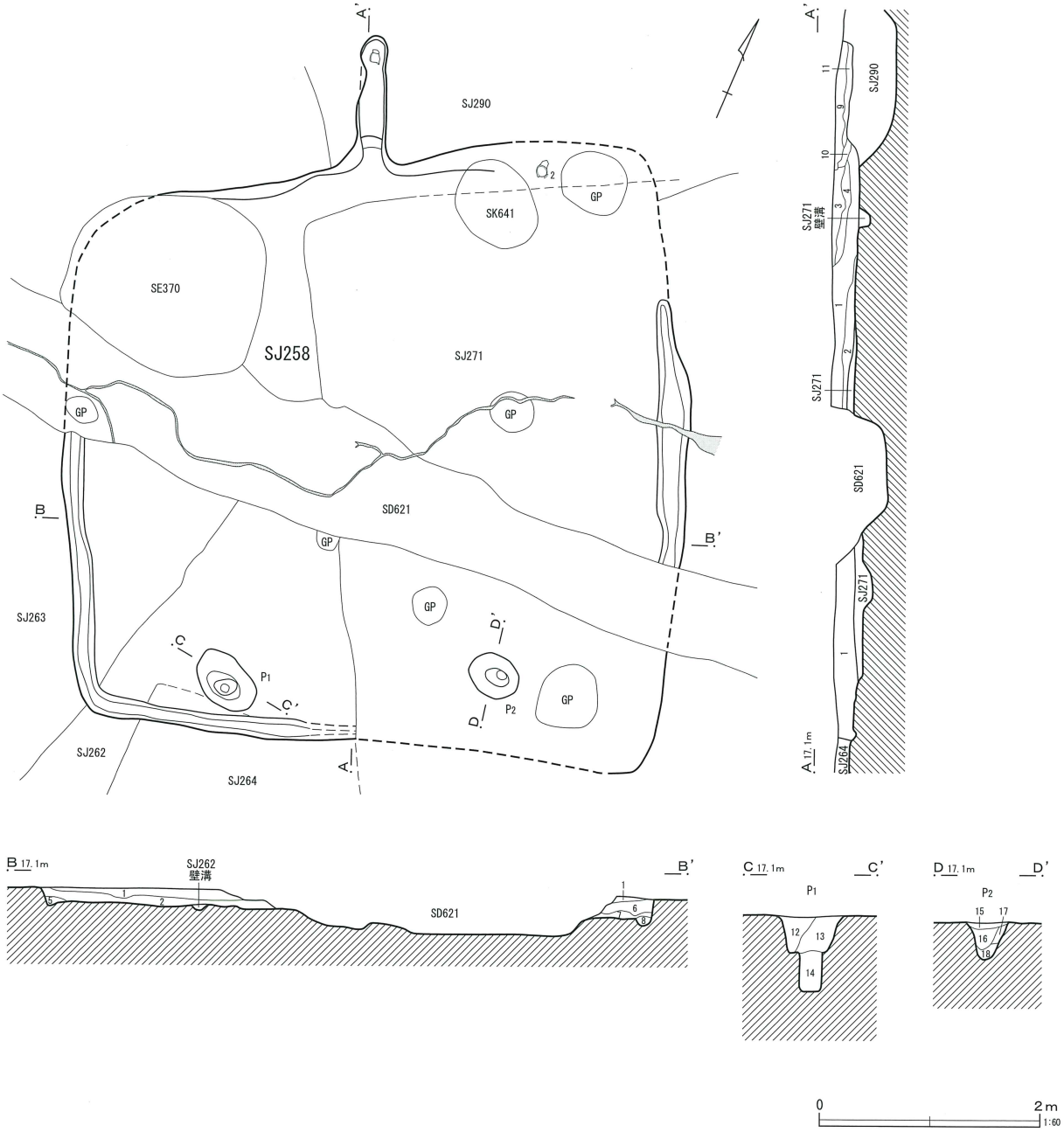
形状は南北にやや長い方形である。規模は東西4.9m、南北5.9mである。埋土の残りは浅く、確認面から床面までの深さは9cmである。主軸方向はN—22°—Wである。

床面は踏みしめられており、カマドの前面と東壁際中央には貼床が認められた。

カマドは北壁やや東寄りに設けられている。煙道の長さは157cm、煙出し口にかけて徐々に浅くなる。燃焼部の掘り込みは明瞭で、規模は48×34cm、深さは15cmである。袖は粘土で構築され、先端には土師器甕（第276図7・11）を伏せて芯材として用いてい



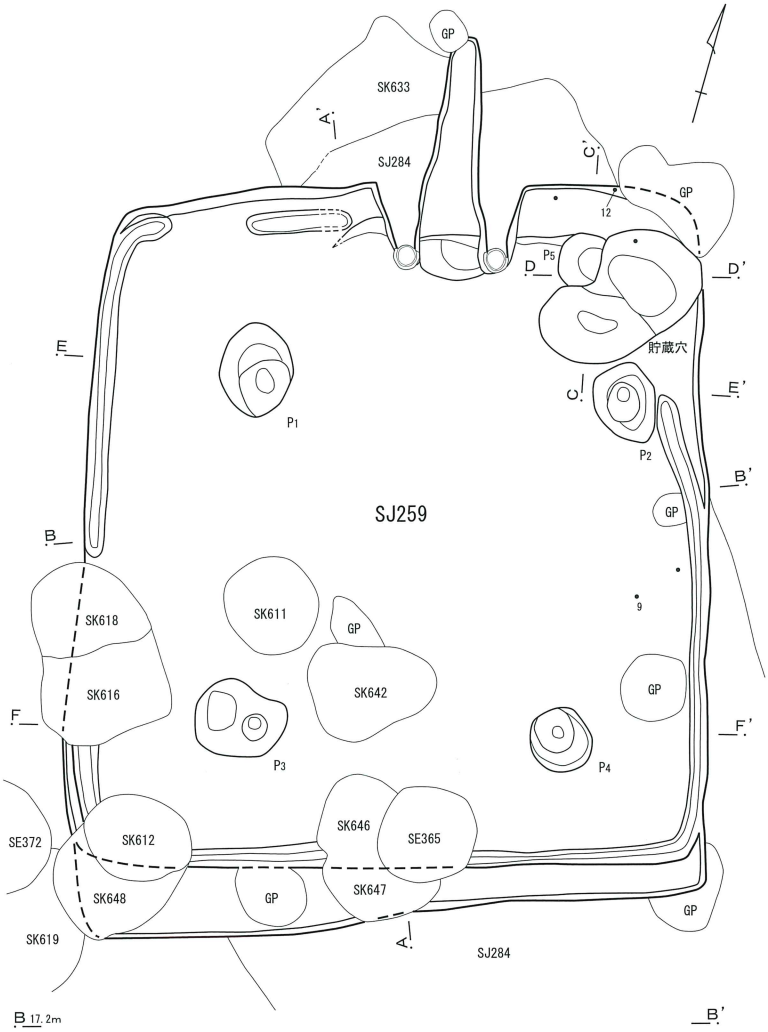
第272図　第258号住居跡出土遺物

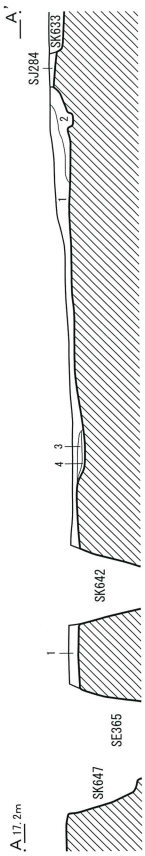


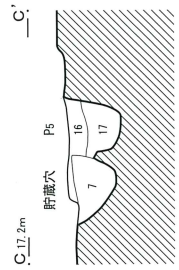
第258号住居跡

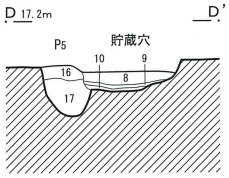
1	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土ブロック・黄褐色土ブロック少量　炭化物多量
2	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量　炭化物含む
3	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック微量　焼土・炭化物少量
4	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック・炭化物多量　黄褐色土ブロック少量
5	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物含む
6	黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土ブロック（φ1～10mm）多量　焼土ブロック・炭化物含む
7	黒色土	2.5Y2/1	黄褐色土ブロック・炭化物含む
8	黒褐色土	2.5Y3/1	
カマド			
9	黒色土	10YR1.7/1	焼土ブロック・炭化物多量
10	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック（φ1～15mm）多量　炭化物・灰含む
11	黒色土	10YR1.7/1	焼土ブロック少量　炭化物多量　下部は灰層
ピット1			
12	オリーブ黒色土	5Y2/2	黄褐色土ブロック（φ1～10mm）含む　焼土ブロック少量
13	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ1～40mm）・炭化物含む
14	黒色土	10YR1.7/1	粘性強い
ピット2			
15	黒褐色土	10YR3/1	炭化物含む
16	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）含む
17	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック多量
18	黒色土	10YR2/1	炭化物含む

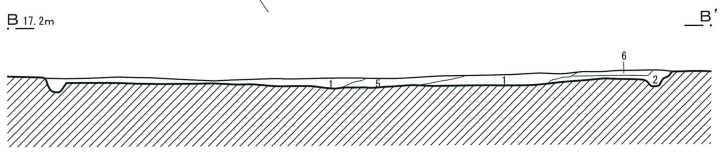
第273図　第258号住居跡

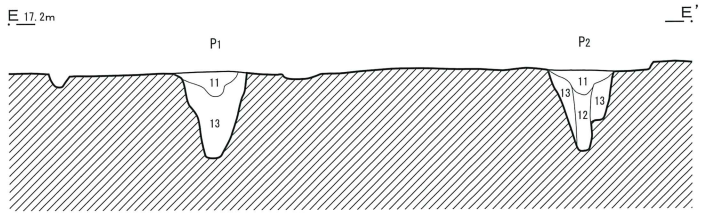


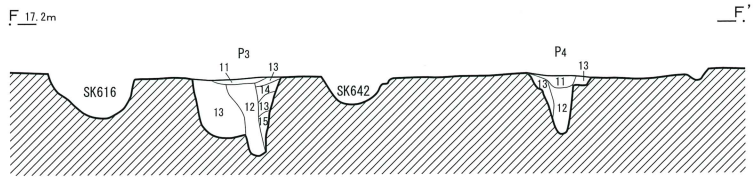












第259号住居跡

1	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ5mm）少量　黄褐色土ブロック（φ10～30mm）含む　しまりあり　粘性弱い
2	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ2mm）・炭化物・黄褐色土ブロック（φ50mm）少量　しまり・粘性あり
3	灰色土	N4/0	灰層　黄褐色土ブロック含む　しまりややあり　粘性なし
4	赤褐色土	2.5YR4/6	焼土の層　焼土ブロック多量　黄褐色土含む　しまりややあり　粘性なし
5	褐灰色土	10YR5/1	褐灰色のローム土の層　灰色粘土ブロック（φ20mm）少量　しまり・粘性あり
6	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ30mm）含む　焼土粒子（φ2mm）微量　しまりあり　粘性弱い

貯蔵穴

7	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ30mm）含む　炭化物微量　しまり・粘性あり
8	黒褐色土	10YR3/1	灰色土ブロック（φ5mm）微量　しまり・粘性あり
9	褐灰色土	10YR5/1	灰色土ブロック（φ5mm）・焼土粒子（φ5mm）含む　炭化物ブロック（20～30mm角）多量　しまり・粘性あり
10	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）多量　しまり・粘性あり

ピット1～4

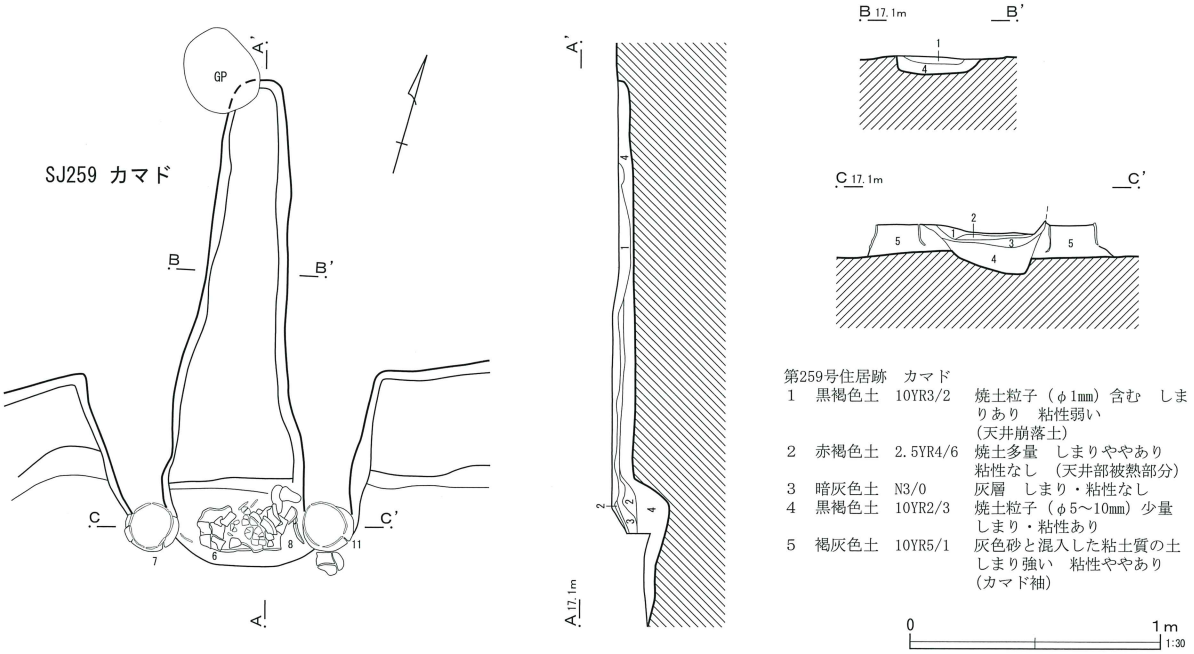
11	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ2mm）微量　しまり・粘性あり
12	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ5～10mm）含む　焼土粒子（φ3mm）少量　しまり・粘性あり
13	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ30mm）多量　焼土粒子（φ2mm）微量　しまり・粘性あり
14	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒子（φ3mm）・黄褐色土ブロック（φ20mm）少量　しまり・粘性あり
15	黒褐色土	10YR3/1	灰色土粒子（φ5mm）少量　しまりあり　粘性強い

ピット5

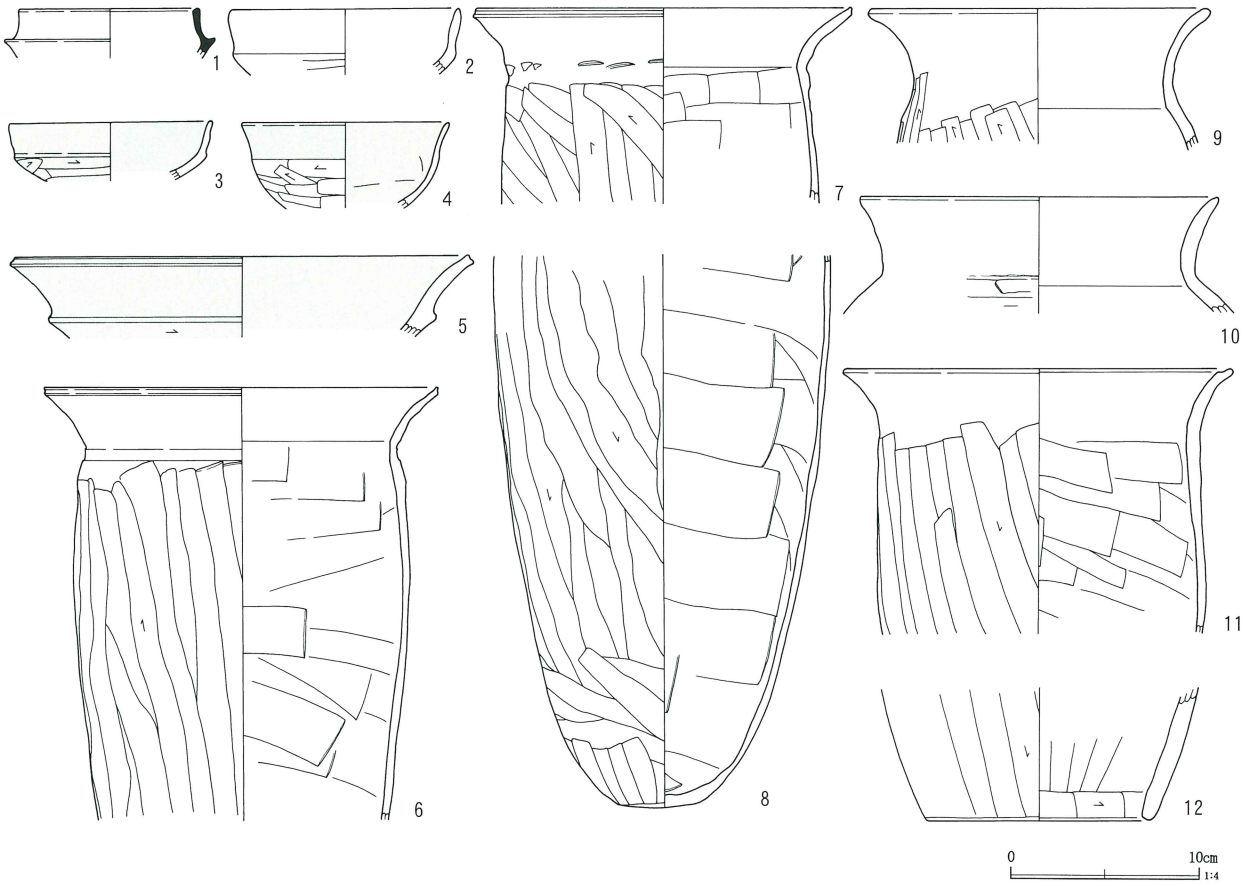
16	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量　しまり・粘性あり
17	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ5mm）層の上部に少量　焼土粒子（φ1mm）微量　しまり・粘性あり

0　2m　1:60

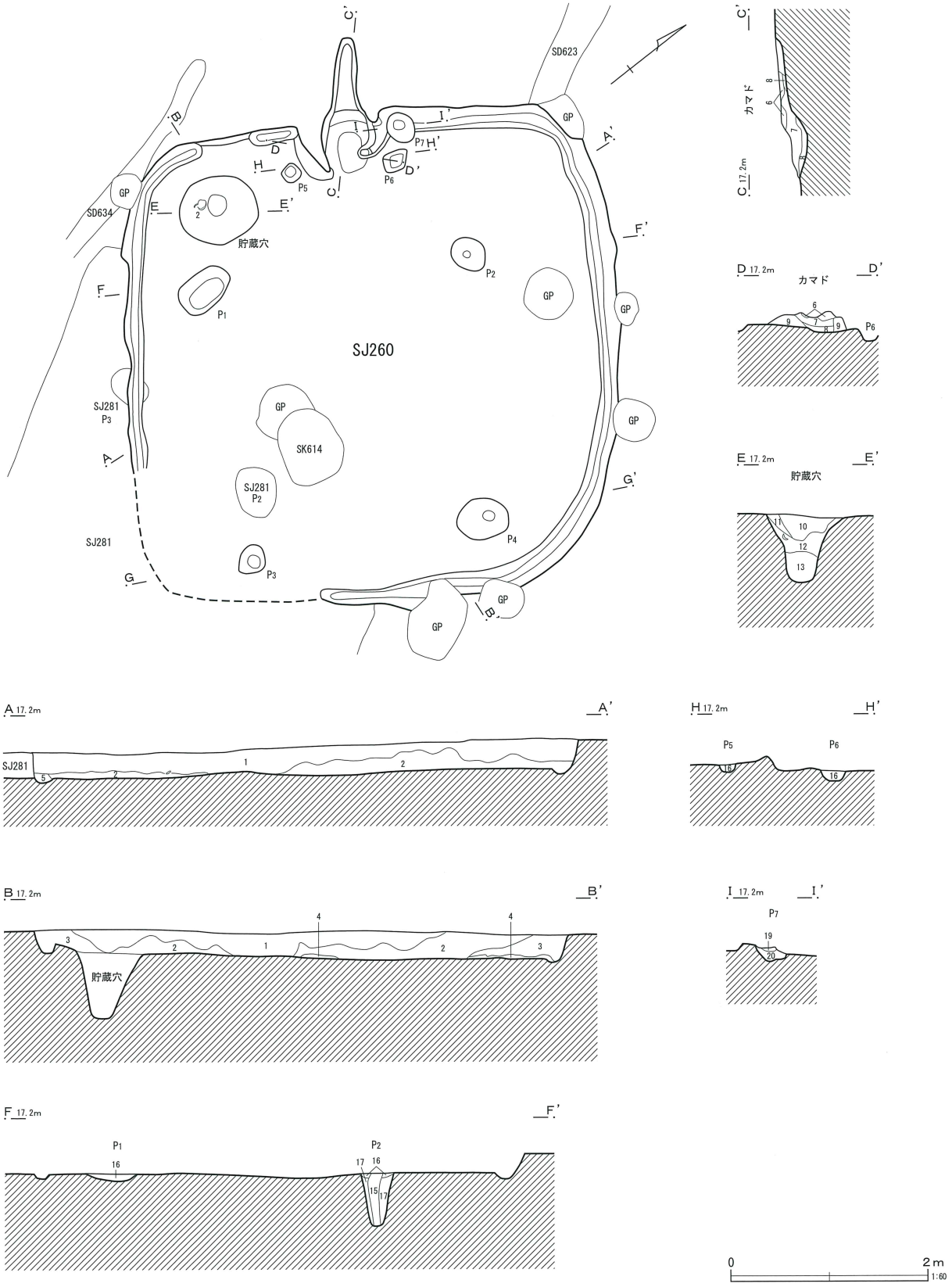
第274図　第259号住居跡



第275図　第259号住居跡カマド



第276図　第259号住居跡出土遺物



第277図　第260号住居跡（1）

た。埋土の中ほどに灰層が堆積しており、廃絶時のカマドの底面を示しているものと考えられる。

貯蔵穴はカマドの右側、北東コーナーに設けられている。楕円形の掘り込みがつながった形になる。規模は123×86cm、深さは34cmである。

壁溝は貯蔵穴のある北東コーナーを除いて検出された。南壁は壁溝より内側を巡る。幅12～27cm、深さ４～９cmである。

ピットは５基検出された。P1～4は主柱穴である。P1を除いて柱痕が確認された。ピットの深さはP1から順に69cm、64cm、63cm、46cm、42cmである。

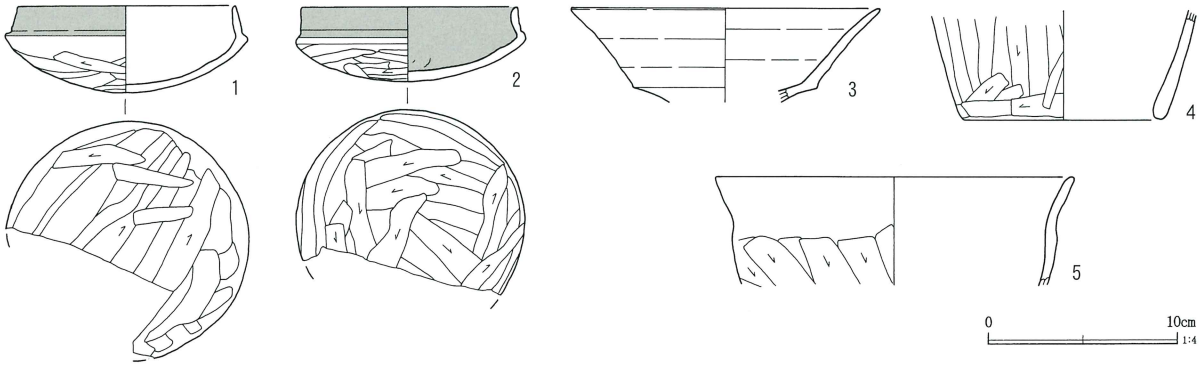
出土遺物は大半が破片で、接合率は低い。須恵器坏、土師器坏・甕などが出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅵ期である。

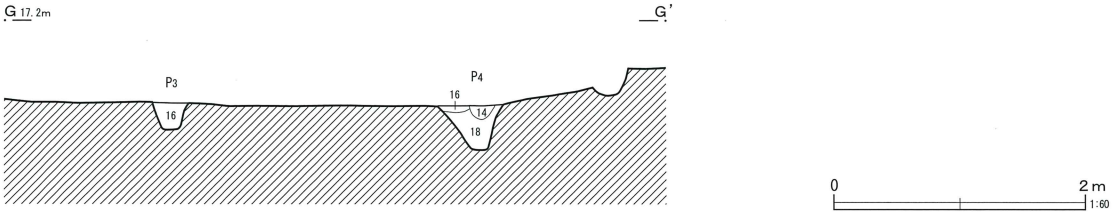
第260号住居跡（第277・279図）

F・G―29・30グリッドに位置する。第281号住居跡、第623・634号溝跡、第614号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第281号住居跡よりも新しい。

形状はやや円みを帯びた方形である。規模は東北―西南5.0m、南東―北西5.1mである。埋土の残りはよく、確認面から床面までの深さは30cmである。主軸方向はN―54°―Wである。



第278図　第260号住居跡出土遺物



第260号住居跡

1	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子（φ1～3mm）・ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～50mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子・焼土粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり（三角堆積）
4	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック主体　しまり・粘性ややあり（床直堆積土）
5	黒褐色土	10YR3/2	混入物は特になし　しまり・粘性ややあり（壁溝内覆土）
カマド			
6	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子（φ1～3mm）・焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
7	にぶい黄褐色土	10YR5/3	焼土ブロック（φ10～40mm）・ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり（天井崩落土）
8	黒色土	10YR2/1	灰層　しまり・粘性なし
9	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり（カマド袖）
貯蔵穴			
10	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
11	灰色土	10YR4/2	焼土粒子（φ1～5mm）微量　しまりあり　粘性ややあり
12	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
13	黒褐色土	10YR3/1	粘性の強い均質土　しまりややあり　粘性あり
ピット１～７			
14	褐灰色土	10YR4/1	ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
15	灰黄褐色土	10YR4/2	均質の粘質土　しまりややあり　粘性あり（柱痕）
16	にぶい黄褐色土	10YR5/3	しまりあり　粘性ややあり
17	にぶい黄褐色土	10YR5/3	ロームブロック（φ10～50mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
18	暗灰色土	N3/0	粘質土　しまりややあり　粘性強い
19	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
20	にぶい黄褐色土	10YR5/3	しまりあり　粘性ややあり　19層の土を斑にやや含む

第279図　第260号住居跡（2）

壁の立ち上がりはほぼ垂直で、掘り込みはしっかりとしている。

カマドは、北西壁に設けられている。煙道の長さは80cm、燃焼部の掘り込みの規模は58×52cm、床面からの深さは10cmである。底面には灰層（８層）が厚めに検出された。その上に天井部の崩落土が堆積している。袖は粘質土で構築された付け袖である。

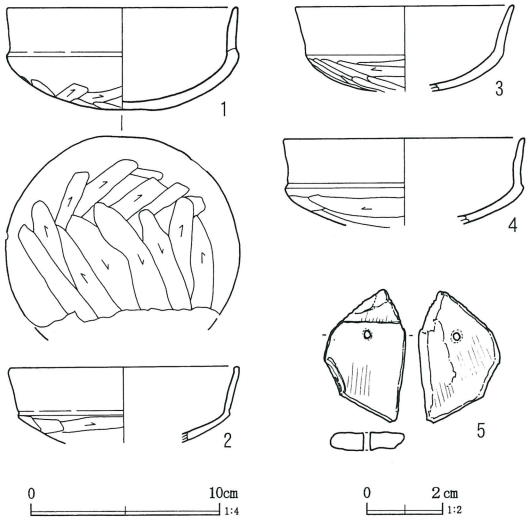
貯蔵穴はカマドの左側に設けられている。円形で、規模は79×69cm、深さは68cmである。底がすぼまる漏斗状の掘り込みである。

壁溝は全周するものと思われる。幅13～31cm、深さ５～10cmである。

ピットは７基検出された。Ｐ2は柱痕が明瞭である。Ｐ4も柱穴と考えられるが、対になる位置から検出されたＰ1･3は浅く、柱穴かどうかは不明である。ピットの深さはＰ1から順に７cm、54cm、22cm、35cm、８cm、11cm、14cmである。

出土遺物は破片が多く、量もさほど多くはない。貯蔵穴内から残りのよい土師器坏が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。



第280図　第261号住居跡出土遺物

第261号住居跡（第281図）

Ｆ―30グリッドに位置する。第270･286･290号住居跡と重複する。切り合い関係は、第286・290号住居跡よりも新しく、第270号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は南北にわずかに長い方形である。規模は東西3.5m、南北3.8mである。南西コーナーは調査区域外にかかる。埋土は自然堆積を示している。確認面から床面までの深さは19cmである。主軸方向はN―89°―Wである。

カマドは西壁やや南寄りに設けられている。燃焼部から煙道にかけてが検出された。規模は長さ110cm、焚口の幅は40cmである。燃焼部の掘り込みは浅く緩やかで、床面からの深さは10cmである。底面には焼土ブロックを含む灰層（11層）があり、その上に灰（10層）が厚めに堆積している。さらに天井部の崩落層（９層）が乗る。袖は地山の掘り残しである。内壁の被熱がわずかに認められる。

貯蔵穴はカマドの左側にある。一部排水溝にかかるが、円形で、規模は径50cmほどになる。バケツ状の掘り込みで、深さは36cmである。

壁溝は全周する。幅13～39cm、深さ４～７cmである。

ピットは６基検出された。整然と配置されており、掘り込みは浅いが、Ｐ1～4は主柱穴と考えられる。ピットの深さはＰ1から順に43cm、17cm、19cm、13cm、27cm、14cmである。

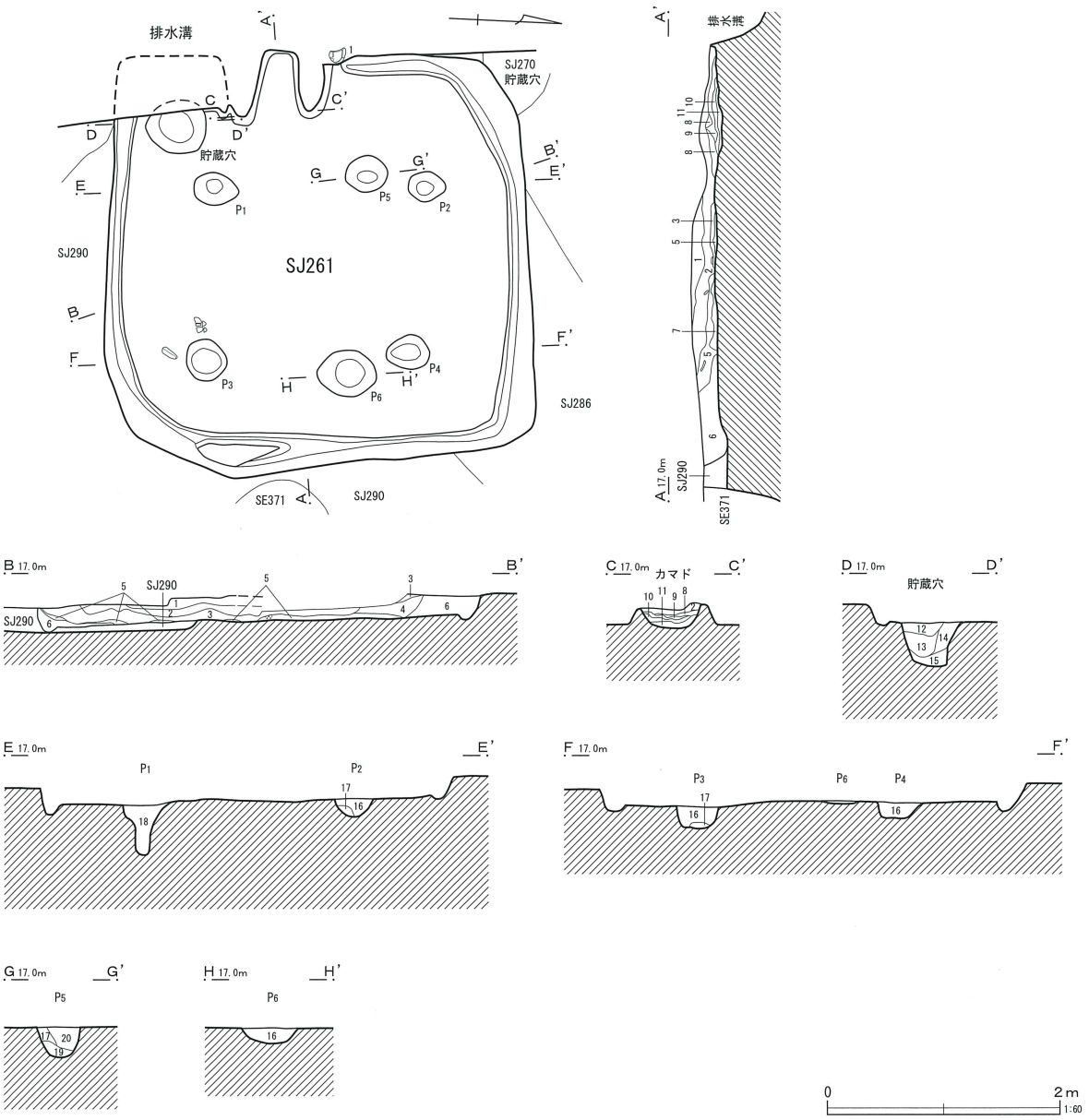
出土遺物はほとんど破片である。土師器坏、石製模造品などが出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅵ期である。

第262号住居跡（第283図）

Ｆ―31グリッドに位置する。第258･263･264･271号住居跡、第621号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第258･264号住居跡よりも古く、第263･271号住居跡との関係は不明である。

検出されたのは南西コーナー部分である。範囲は



第261号住居跡

1	灰黄褐色土	10YR4/2	しまりあり　粘性ややあり
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック（φ10～30mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
4	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
5	黒色土	7.5YR2/1	炭化物主体　焼土ブロック（φ10～20mm）少量　しまり・粘性弱い
6	灰黄褐色土	10YR4/2	しまりあり　粘性ややあり　三角堆積
7	黒色土	7.5YR2/1	焼土ブロック主体　下層にうすく炭化物層　しまりややあり　粘性弱い

カマド

8	黒色土	10YR2/1	炭化物（灰か？）層　真黒　しまり・粘性なし
9	にぶい褐色土	7.5YR5/3	しまりあり　粘性ややあり（天井崩落土）
10	黒色土	10YR2/1	灰層　しまり・粘性なし
11	黒色土	10YR2/1	焼土ブロック（φ10～30mm）少量　しまり・粘性ややあり

貯蔵穴

12	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまり・粘性ややあり
13	黒色土	10YR2/1	炭化物主体　焼土ブロック微量　しまり・粘性ややあり
14	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりややあり　粘性あり
15	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまり弱い　粘性あり

ピット１～６

16	黄灰色土	2.5Y4/1	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
17	にぶい黄橙色土	10YR7/4	ローム土主体　しまりあり　粘性ややあり
18	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック少量　しまり弱い　粘性ややあり～あり
19	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまり・粘性ややあり
20	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック（φ10～30mm）少量　しまり・粘性ややあり

第281図　第261号住居跡

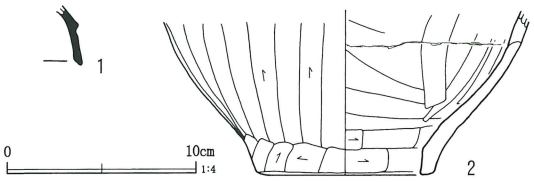
東西3.5m、南北4.0mである。確認面から床面まで深さは5cmである。西壁を基準とした傾きはN—18°—Eである。

壁溝は幅7～22cm、深さ3～6cmである。

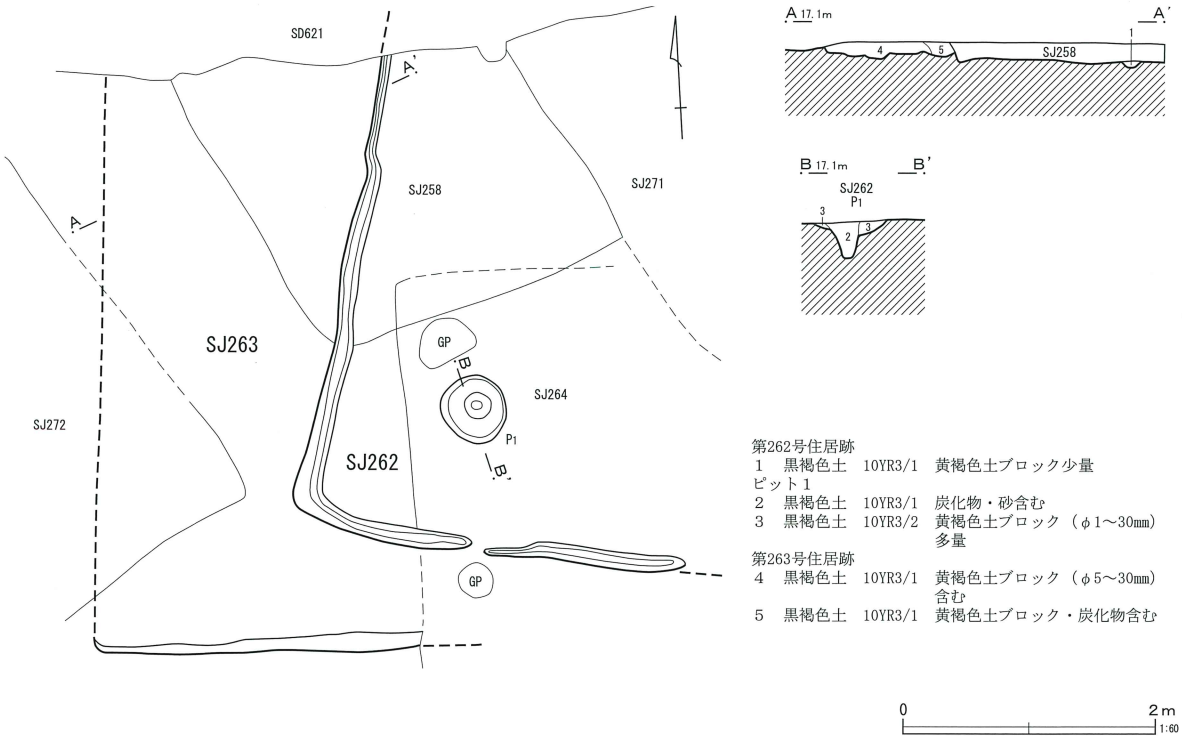
ピットは1基検出された。深さは29cmである。

出土遺物は少なく、須恵器蓋、土師器甕などがあるが、本住居跡に伴うかどうかは不明である。

本住居跡の時期は、遺構の切り合い関係から、下田町VII期以前と推定される。



第282図　第262号住居跡出土遺物



第283図　第262・263号住居跡

第263号住居跡（第283図）

F—31グリッドに位置する。第258・262・264・271・272号住居跡、第621号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第258・264・271号住居跡よりも古く、第262・272号住居跡との関係は不明である。

検出されたのは南壁のみである。西側の立ち上がりは、土層断面でのみ確認された。検出された範囲は東西2.6mを検出し、南北は4.5mである。確認面から床面までの深さは12cmである。南壁を東西基準とした傾きはN—5°—Eである。

壁溝などの施設は検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

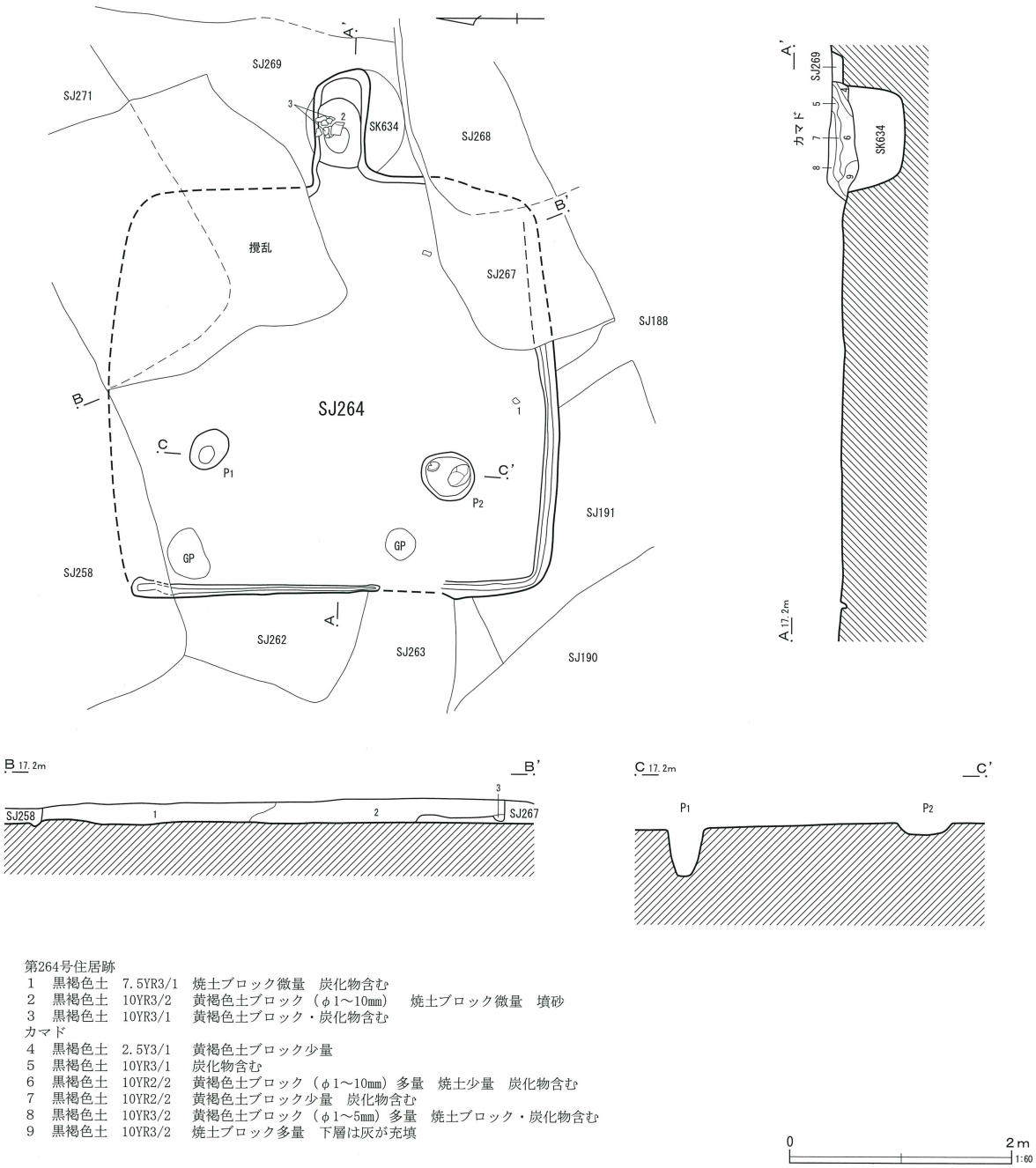
本住居跡の時期は不明である。

第264号住居跡（第284図）

F・G—31・32グリッドに位置する。第188・191・258・262・263・267・268・269・271号住居跡、第634号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第188・258号住居跡よりも古く、他の住居跡とは推測も含めて新しいと考えられる。

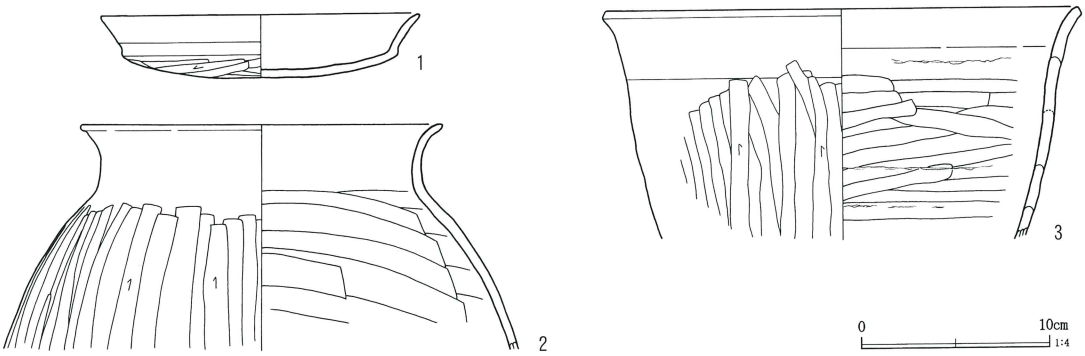
形状は正方形に近い方形である。規模は推定で、東西3.7m、南北4.0mである。確認面から床面までの深さは21cmである。主軸方向はN—88°—Eである。

カマドは東壁中央に設けられている。煙道の長さは28cm、燃焼部の規模は64×46cm、床面からの掘り込みの深さは10cmである。底面には薄い灰層が堆積している。袖は検出されなかった。



第264号住居跡
1　黒褐色土　7.5YR3/1　焼土ブロック微量　炭化物含む
2　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）　焼土ブロック微量　墳砂
3　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック・炭化物含む
カマド
4　黒褐色土　2.5Y3/1　黄褐色土ブロック少量
5　黒褐色土　10YR3/1　炭化物含む
6　黒褐色土　10YR2/2　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）多量　焼土少量　炭化物含む
7　黒褐色土　10YR2/2　黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
8　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～5mm）多量　焼土ブロック・炭化物含む
9　黒褐色土　10YR3/2　焼土ブロック多量　下層は灰が充填

第284図　第264号住居跡



第285図　第264号住居跡出土遺物

検出された壁には壁溝が認められる。掘り込みは浅く、幅７～15cm、深さ１～４cmである。

ピットは２基検出された。位置としては柱穴でもよいが、確証はない。ピットの深さはＰ1から順に42cm、11cmである。

出土遺物は少ない。カマド内から土師器甕・甑が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。

第265号住居跡（第287図）

Ｆ・Ｇ―30グリッドに位置する。第281・282・286・290号住居跡、第628・630・631号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、切り合うすべての住居跡のなかではもっとも新しい。

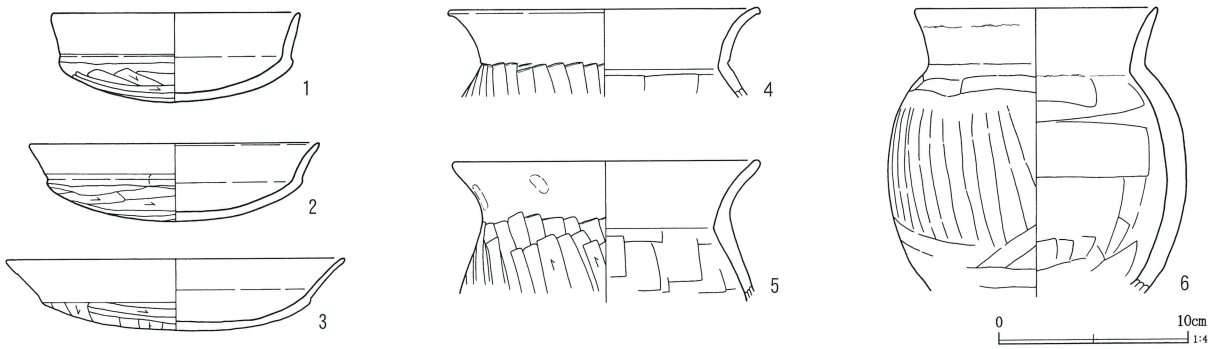
カマドを含む北側のみが検出された住居跡である。西壁および南壁の立ち上がりは土層断面で確認された。東側は削平されている。

形状は方形を呈すると考えられる。規模は推定で5.6m、東北―西南は3.5mまで埋土が検出された。埋土は浅く、確認面から床面までの深さは15cmである。主軸方向はＮ―23°―Ｗである。

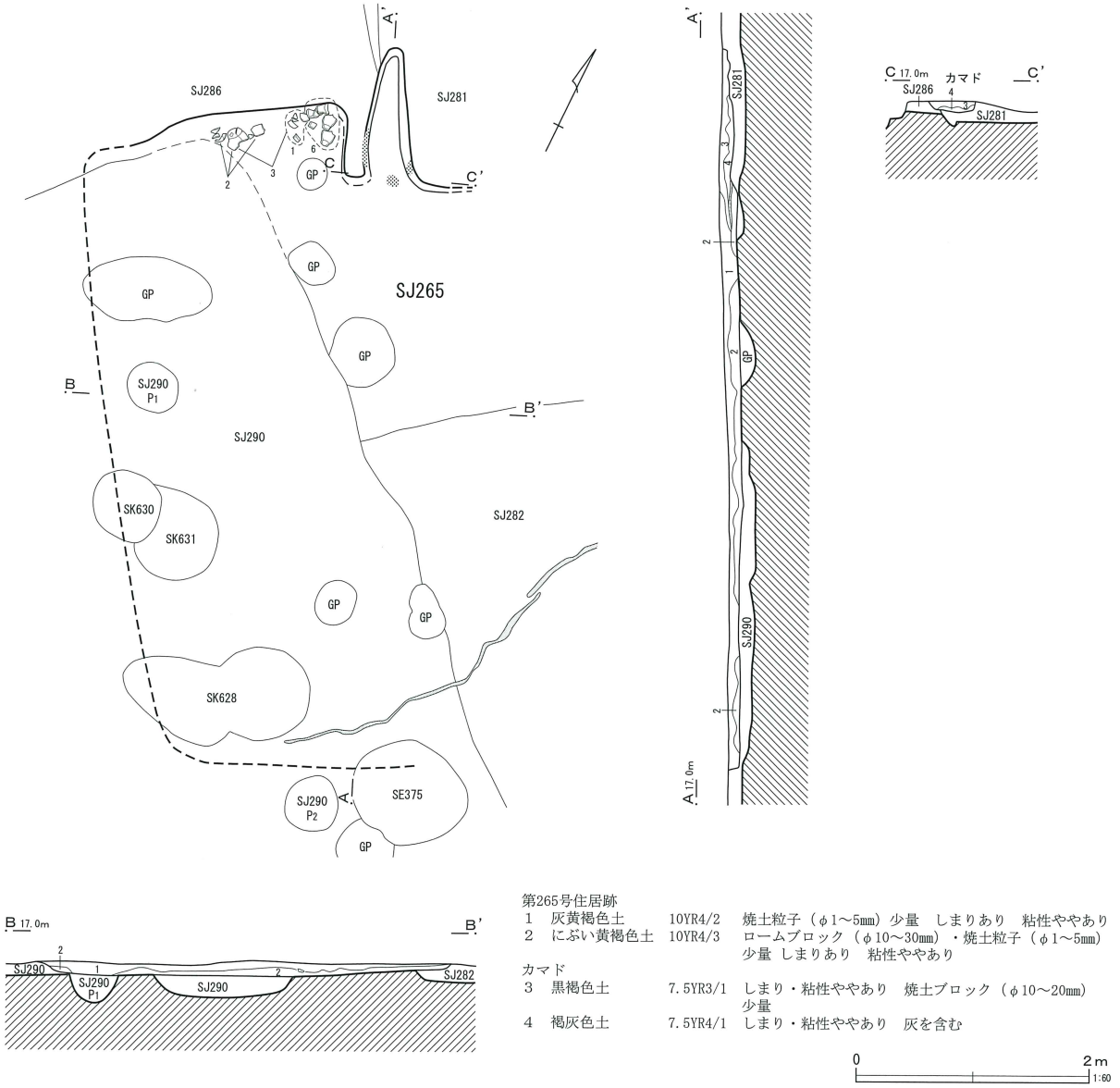
カマドは北西壁に設けられている。煙道から焚口までの長さは130cmで、燃焼部の掘り込みはほとんどない。袖は掘り残して構築されたと考えられる。焚口付近の袖内壁と床面には被熱面がみられる。カマド以外の施設は検出されなかった。

出土遺物は破片が多く、カマドの左脇からまとまって出土した。土師器坏・甕がある。

本住居跡の時期は下田町Ⅶ期である。



第286図　第265号住居跡出土遺物



第287図　第265号住居跡

第266号住居跡（第288図）

F—29グリッドに位置する。他の遺構との切り合いはない。

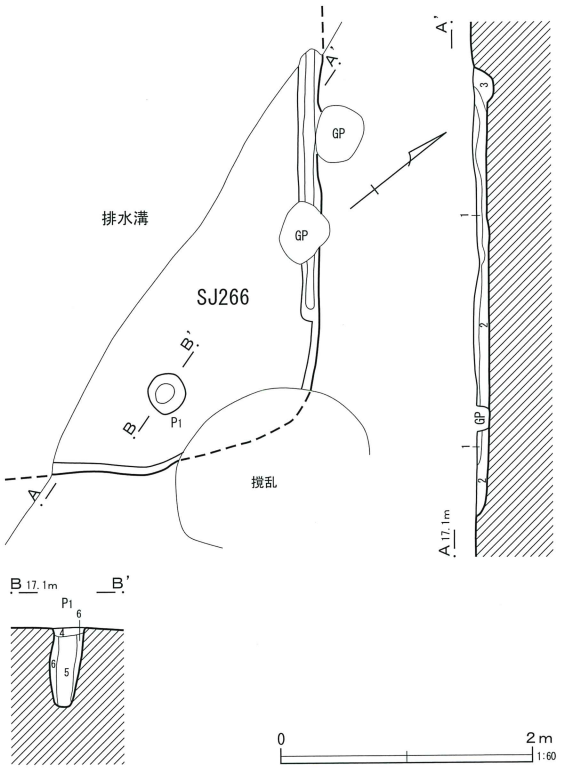
大半が調査区域外にかかる住居跡で、東コーナー部分のみ検出された。検出範囲は東北—西南1.8m、南東—北西2.7mである。確認面から床面までの深さは13cmである。北東壁を基準とした傾きはN—42°—Wである。

壁溝は北東壁の一部に検出された。掘り込みは浅く幅13～18cm、深さ4～6cmである。

ピットは1基検出された。柱痕が確認されており、柱穴と考えられる。深さは62cmである。

出土遺物は少量で、すべて土師器の小破片である。図示できる遺物はなかった。

本住居跡の時期は不明である。



第266号住居跡

1	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ3mm）微量　しまりあり　粘性弱い
2	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色土ブロック多量（黄褐色土が主体となる層）焼土粒子（φ3mm）微量　しまり・粘性あり
3	黒褐色土	10YR2/2	周溝下部に黄褐色土ブロック（φ10～20mm）多量　しまり・粘性あり
ピット1			
4	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色土粒子（φ5mm）少量　しまり・粘性あり
5	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒子（φ3mm）少量　しまり・粘性あり（柱痕）
6	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）多量　しまり・粘性あり

第288図　第266号住居跡

第267号住居跡（第289図）

F・G—31・32グリッドに位置する。第188・191・264・268・269号住居跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第188・264・268号住居跡よりも古く、第191・269号住居跡より新しい。

北東コーナーのみが検出された。検出された範囲は東西3.0m、南北1.2mである。確認面から床面までの深さは19cmであるが、大半は第264・268号住居跡に切られている。西壁を基準とした傾きはN—24°—Wである。

壁溝は西壁のみに検出された。幅10～15cm、深さ6～8cmである。

出土遺物はごくわずかで、土師器の小破片が数点に過ぎない。図示できる遺物はない。

本住居跡の時期は不明であるが、切り合い関係から、下田町Ⅴ～Ⅵ期と推定される。

第268号住居跡（第289図）

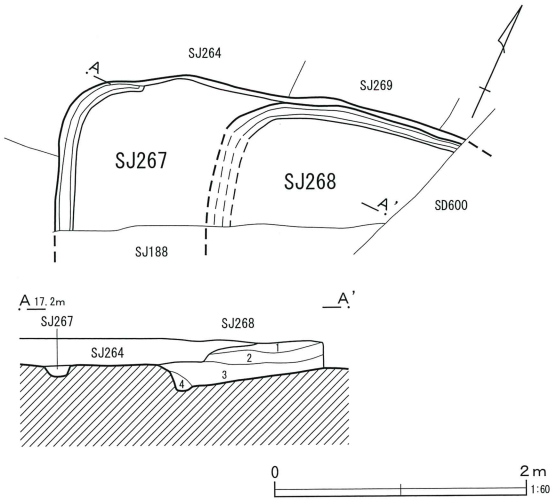
G—31・32グリッドに位置する。第188・264・267・269号住居跡、第600号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第188・264号住居跡よりも古く、第267・269号住居跡より新しい。

北東コーナーのみが検出された。北壁は第267号住居跡と共通する。検出された範囲は東西1.8m、南北1.2mである。確認面から床面までの深さは34cmである。北壁を東西基準とした傾きはN—14°—Wである。

壁溝は幅13～17cm、深さ4～7cmである。

出土遺物は少なく、すべて破片である。図示できたのは土師器坏1点のみである。

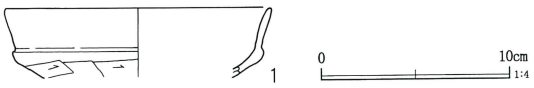
本住居跡の時期は下田町Ⅶ期と推定される。



第268号住居跡

1	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）・炭化物含む
2	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック（φ5～30mm）含む　焼土ブロック微量
3	黒色土	7.5Y2/1	黄褐色土ブロック（φ5～30mm）少量　炭化物含む
4	暗灰色土	N3/0	黄褐色土ブロック（φ5～30mm）多量

第289図　第267・268号住居跡



第290図　第268号住居跡出土遺物

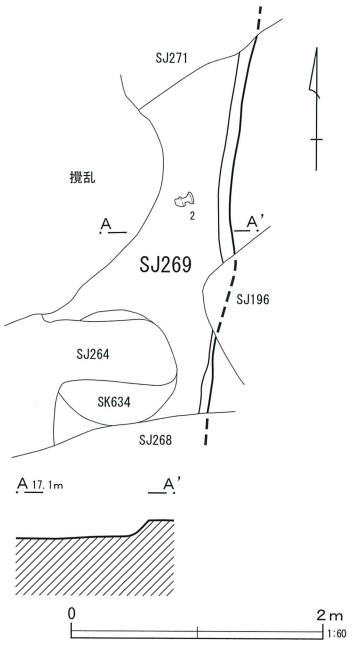
第269号住居跡（第291図）

G—31グリッドに位置する。第196・264・267・268・271号住居跡、第634号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、確認された住居跡のなかではもっとも古い。

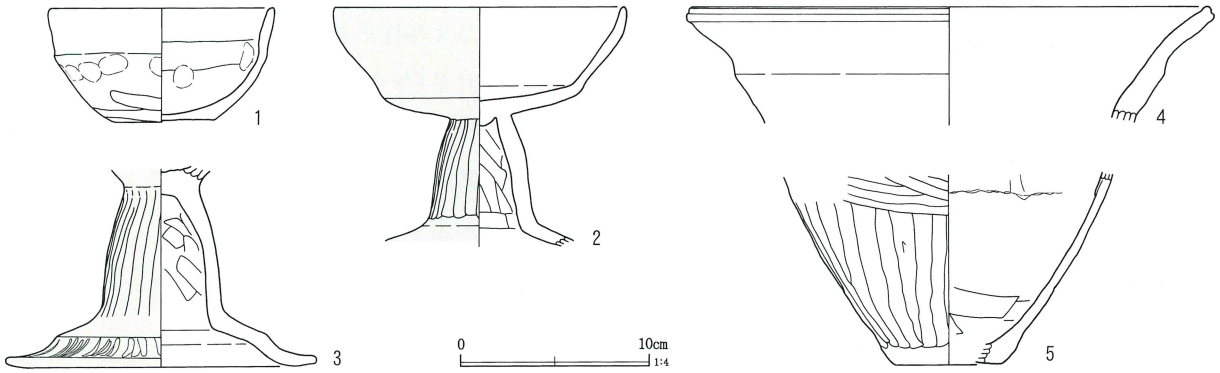
東壁の一部のみ検出された住居跡で、規模・形状ともに全容を明らかにできなかった。検出されたのは東西1.3m、南北2.8mである。確認面から床面までの深さは13cmである。東壁の傾きはN—6°—Eである。

出土遺物は調査面積に見合って少ないが、遺物の残りはよい。土師器埦・高坏などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。



第291図　第269号住居跡



第292図　第269号住居跡出土遺物

第270号住居跡（第294図）

F—30グリッドに位置する。第261・286号住居跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、両住居跡よりも新しいと考えられる。

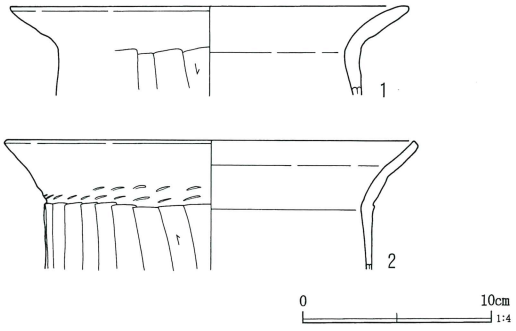
カマドと貯蔵穴の一部のみが検出された住居跡である。規模・形状ともに不明である。主軸方向はN—35°—W程度になると思われる。

カマドの残りは薄く、燃焼部の痕跡と、焚口に伏せて置かれた土師器甕の口縁部が検出されたに過ぎない。検出された燃焼部の規模は108×49cm、深さは8cmである。

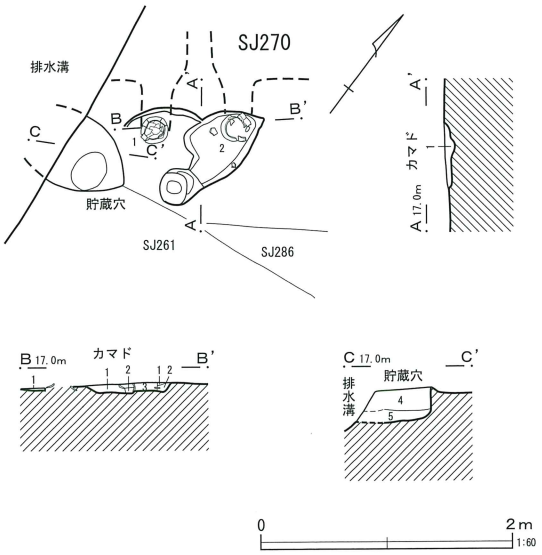
貯蔵穴は一部が排水溝にかかる。規模は短軸53cm、深さは24cmである。

遺物はカマド袖の芯材に転用されていた土師器甕2点のほかには、破片が数点出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。



第293図　第270号住居跡出土遺物



第270号住居跡
カマド

1	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性ややあり
2	にぶい黄橙色土	10YR6/3	ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性ややあり
3	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子（φ1～5mm）少量　しまり弱い 粘性ややあり

貯蔵穴

4	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり　粘性ややあり
5	褐灰色土	10YR4/1	ロームブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり　粘性ややあり

第294図　第270号住居跡

第271号住居跡（第296図）

F・G—31グリッドに位置する。第258・262・264・269・290号住居跡、第600・621号溝跡、第625・641号土坑、第367・369・377号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第258・264号住居跡よりも古く、第269号住居跡より新しい。第262・290号住居跡との関係は把握できなかった。

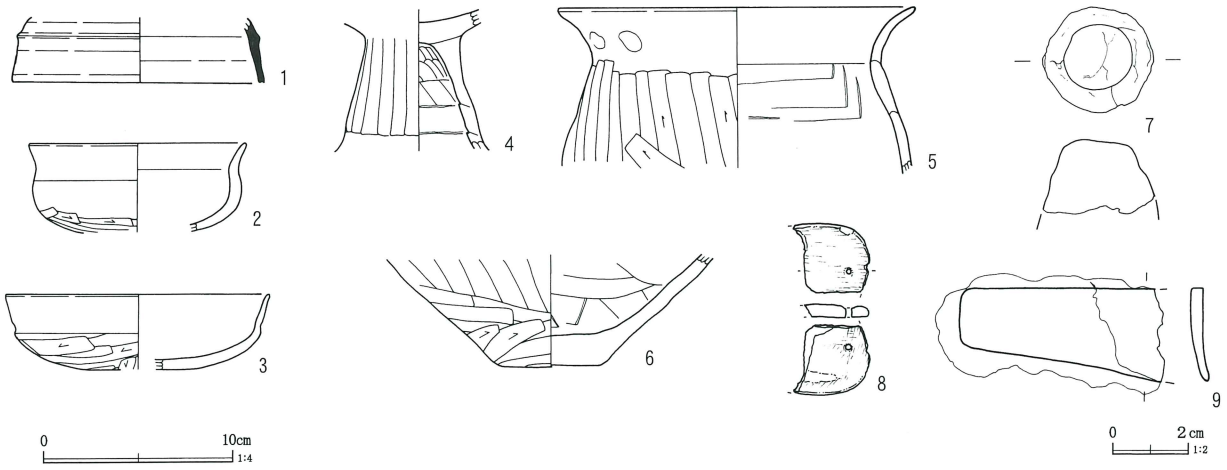
全体的に攪乱や重複する遺構が多く、残りは少ない。東側の壁の立ち上がりを捉えることができなかった。形状は正方形に近い方形と推定される。規模は推定で、東西6.1m、南北6.3mである。確認面から床面までの深さは18cmである。西壁を基準とした傾きはN—35°—Wである。

壁溝は西壁に検出された。幅15～22cm、深さ11～18cmである。

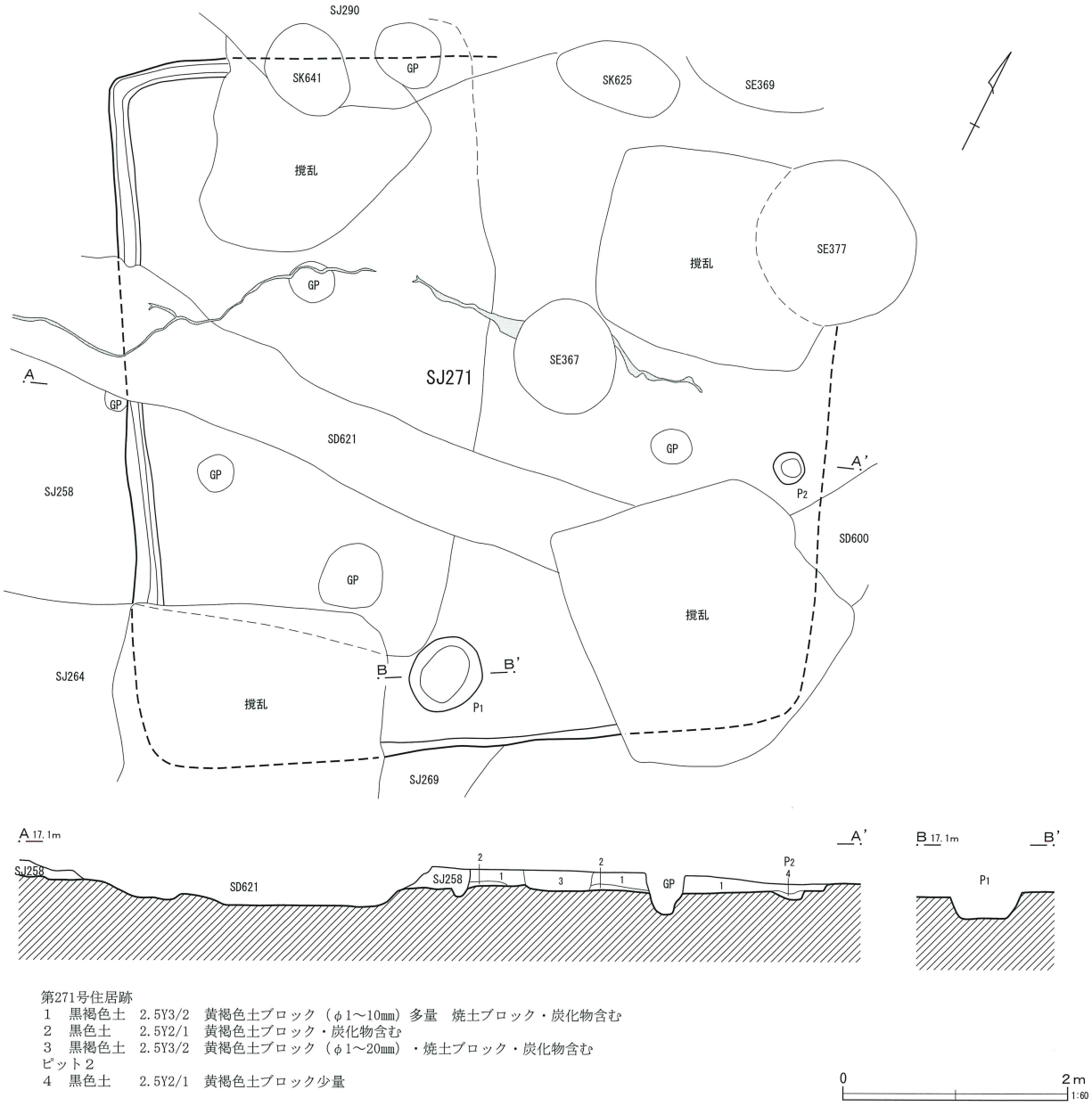
ピットは2基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に20cm、9cmである。

出土遺物は少なく、形になるものはない。須恵器蓋、土師器坏・甕などの土器のほかに、石製模造品や鉄製品が出土している。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第295図　第271号住居跡出土遺物



第296図　第271号住居跡

第272号住居跡（第297図）

F—31グリッドに位置する。第263号住居跡と重複するが、切り合い関係は不明である。

検出されたのは東コーナーを中心とした二辺で、大半は調査区域外にかかる。形状は方形で、規模は南東—北西3.5m、東北—西南は1.7mまで検出された。確認面から床面までの深さは16cmである。北東壁を基準とした傾きはN—35°—Wである。

ピットは2基検出された。ピットの深さはP1から順に21cm、33cmである。

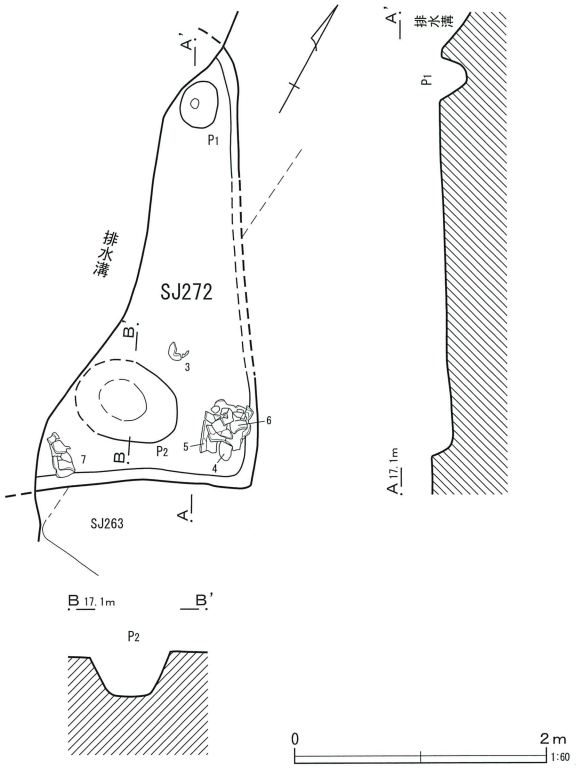
出土遺物は少ないが、床面から残りのよい土器が出土している。土師器坏・甕・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。

第273号住居跡（第299図）

I—29・30グリッドに位置する。第630・639号溝跡と重複する。

形状は正方形に近く、規模は東西3.3m、南北3.3mである。確認面から床面までの深さは17cmである。主軸方向はN—59°—Eである。



第297図　第272号住居跡

壁の掘り込みは明瞭で、貼床はないが床面はしっかり踏みしめられている。

カマドは北東壁中央に設けられている。検出された煙道の長さは18cm、燃焼部は長さ70cm、焚口の幅は36cmである。燃焼部の掘り込みはほとんどない。下面には灰（６層）が堆積し、天井の崩落土（５層）がその上に乗る。袖は地山の掘り残しである。袖の内壁はよく焼けている。

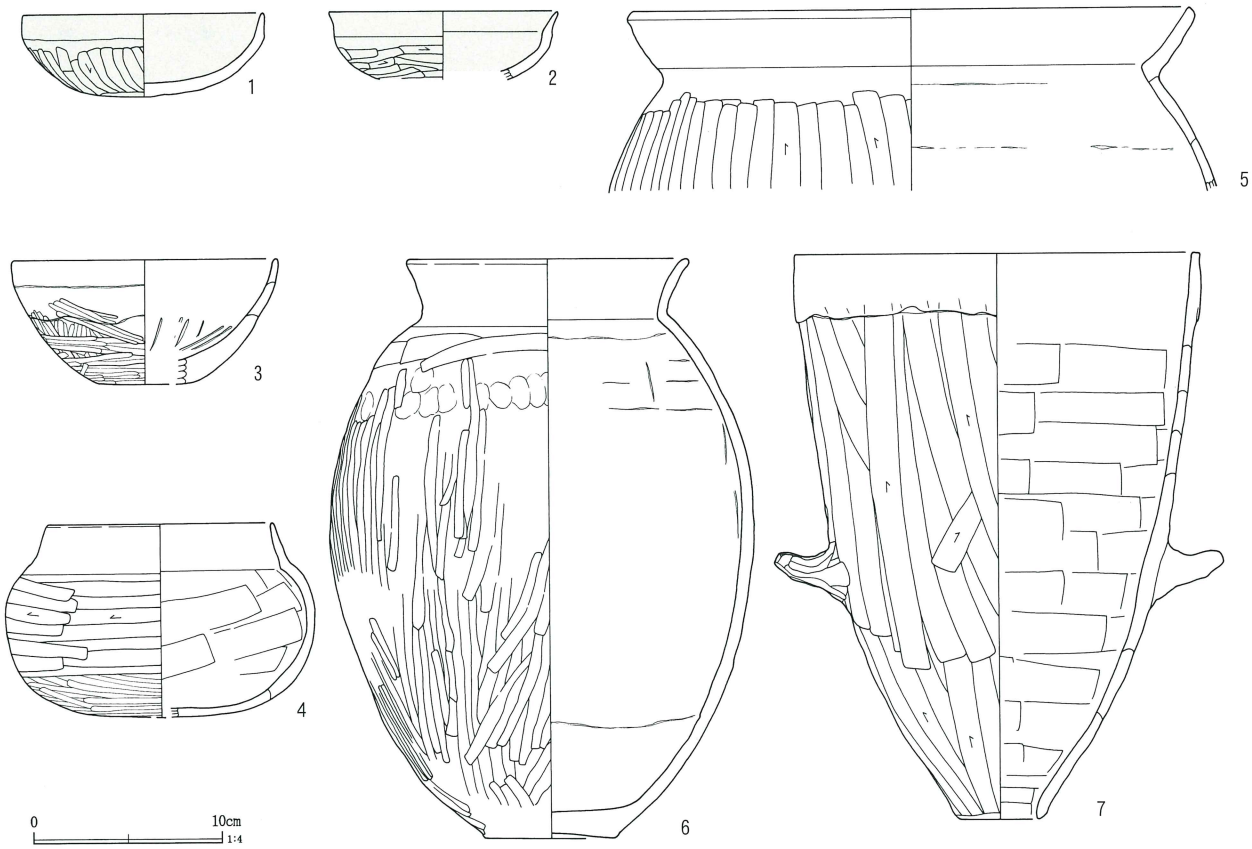
貯蔵穴は円形を呈し、漏斗状に掘り込まれている。規模は70×63cm、深さは45cmである。

壁溝は北側を除いて検出された。掘り込みは浅く、幅12～21cm、深さ４～５cmである。

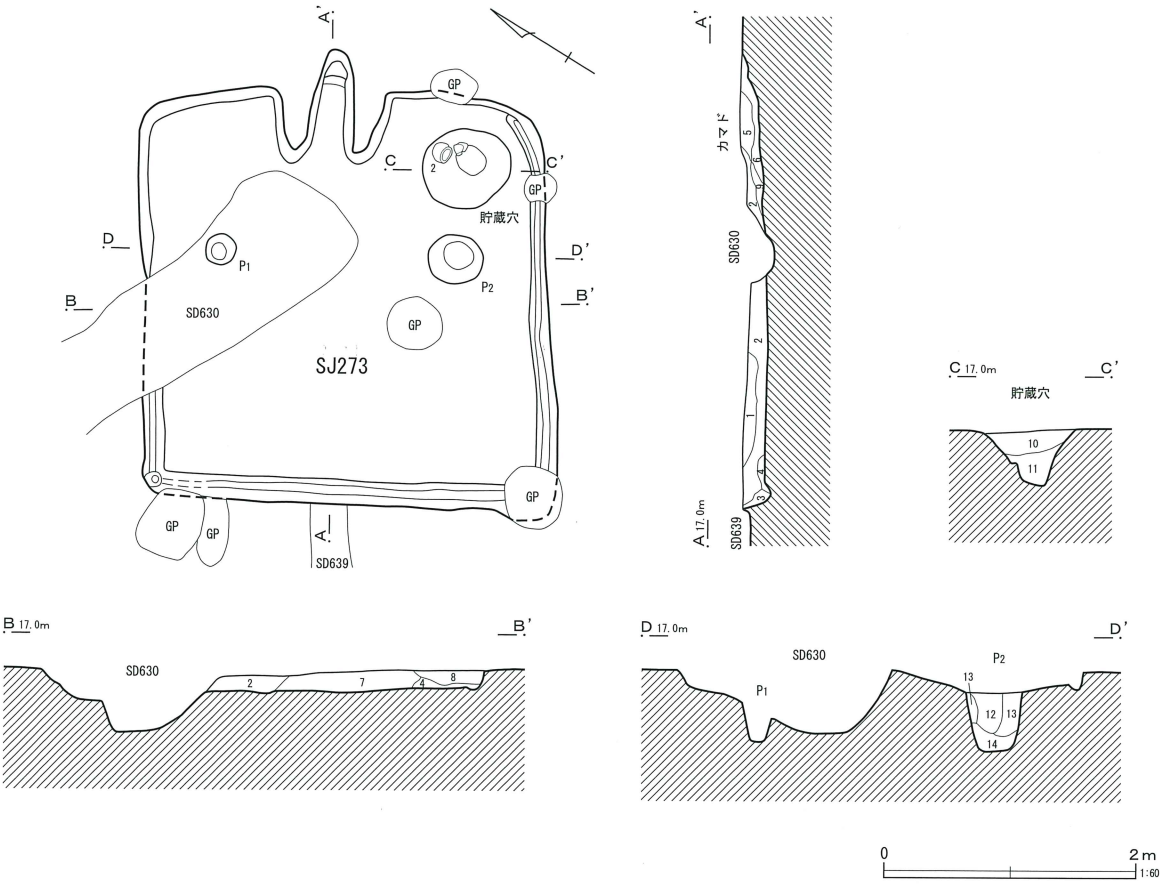
ピットは２基検出された。２本柱穴と考えられ、Ｐ2には柱痕が認められた。ピットの深さはＰ1から順に26cm、35cmである。

出土遺物は少なく、すべて破片である。土師器坏・壺などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。



第298図　第272号住居跡出土遺物



第273号住居跡

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量
3	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量　焼土・炭化物多量
4	黄橙色土	10YR8/6	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
5	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）多量　炭化物粒子（φ1～2mm）少量　（カマド天井崩落土）
6	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）少量　焼土・炭化物・灰多量　（灰層）
7	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量
8	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量　焼土・炭化物少量
9	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）斑　焼土・炭化物少量

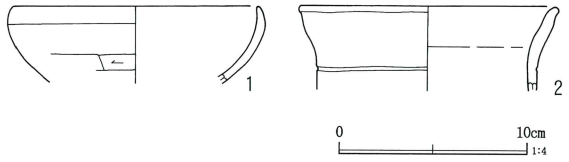
貯蔵穴

10	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック含む炭化物微量　しまり・粘性あり
11	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック多量炭化物微量　しまり・粘性あり

ピット２

12	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）少量　炭化物（φ1mm）微量　しまり弱い　粘性あり（柱痕）
13	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック多量しまり・粘性あり
14	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック少量しまり・粘性あり

第299図　第273号住居跡



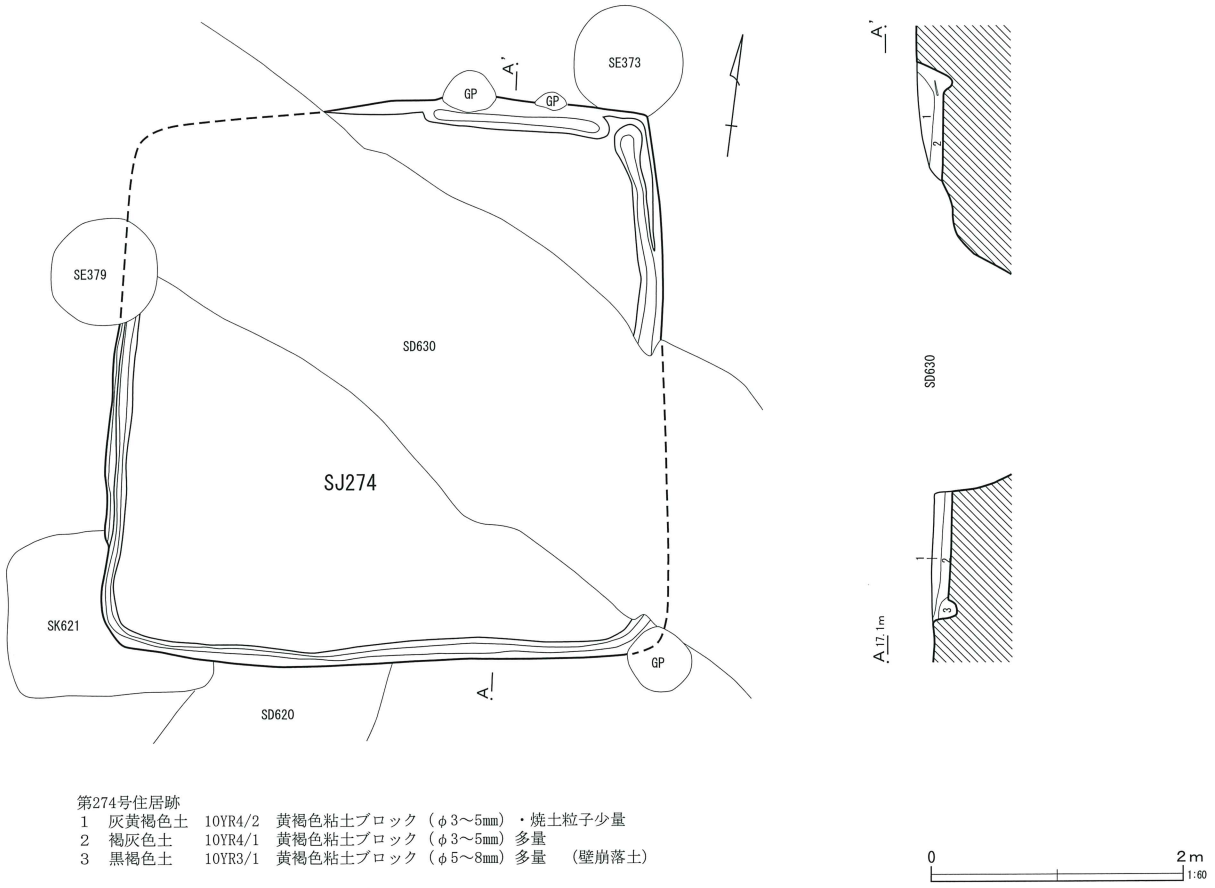
第300図　第273号住居跡出土遺物

第274号住居跡（第301図）

Ⅰ—29・30グリッドに位置する。第620・630号溝跡、第621号土坑、第373・379号井戸跡と重複する。中央を大きく第630号溝跡に切られている。形状は正方形に近く、規模は東西4.3m、南北4.5mである。確認面から床面までの深さは18cmである。主軸方向はN—7°—Wである。

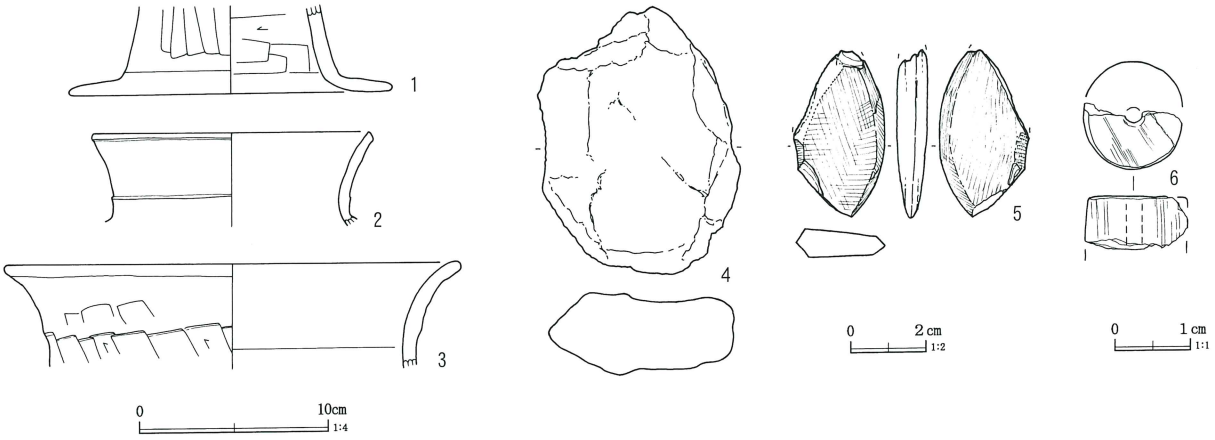
壁溝は検出された壁すべてに巡る。全周しているものと考えられる。掘り込みは浅く、幅8～18cm、深さ3～7cmである。ピットなどは検出されていない。

出土遺物は少なく、残りのよい土器はない。土師器甕などの土器のほかには、石製模造品や臼玉が出



第274号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）・焼土粒子少量
2　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量
3　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量　（壁崩落土）

第301図　第274号住居跡



第302図　第274号住居跡出土遺物

土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。

第275号住居跡（第303図）

H—29・30グリッドに位置する。第276・280・283号住居跡、第619号溝跡、第636号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第276・280号住居跡より新しい。第283号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は方形を呈し、規模は東南—西北4.5m、南西—北東4.3mである。埋土は浅くほぼ一層で、確認面から床面までの深さは8cmである。主軸方向はN—50°—Eである。

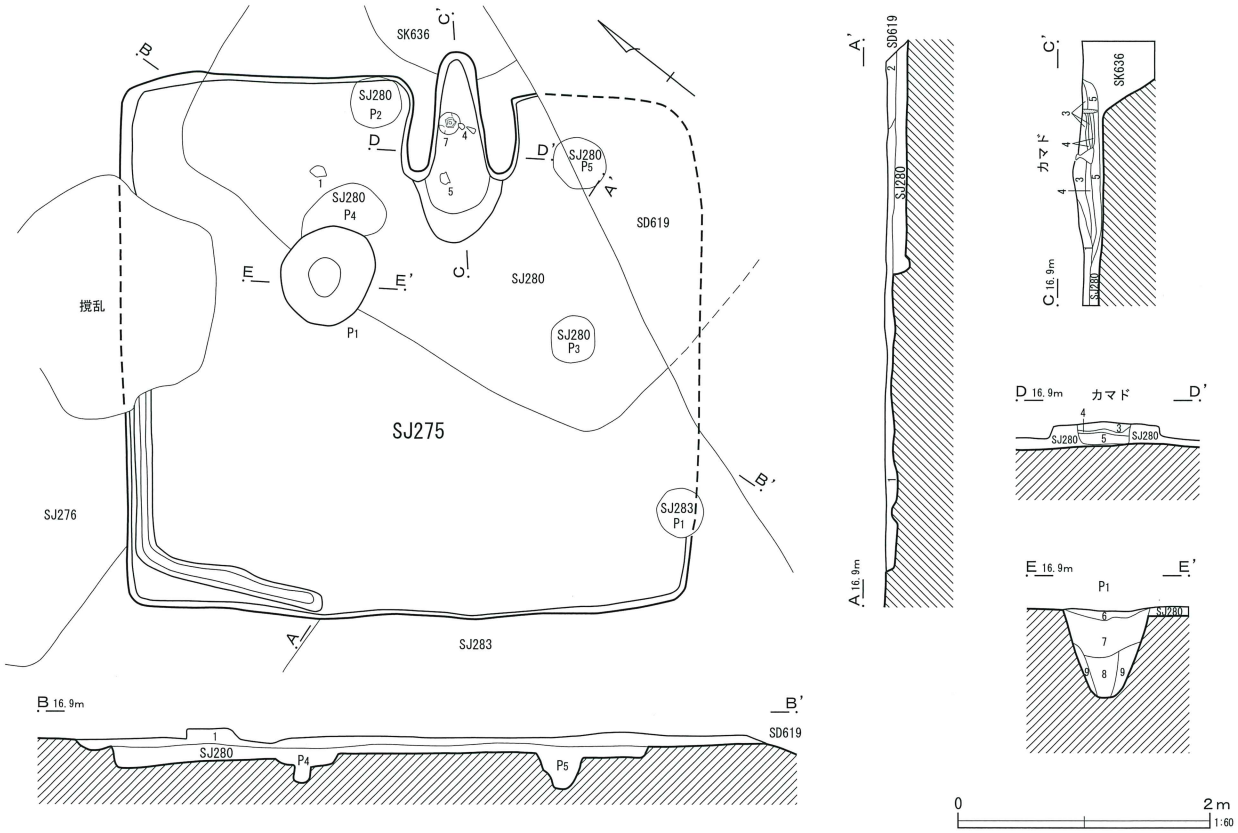
カマドは、北東壁に構築されている。検出された燃焼部の長さは150cm、焚口の幅は43cm、床面からの掘り込みの深さは5cmである。中央やや左寄りに高坏を伏せて支脚としている。最下層の灰層（4層）の上に天井部の崩落層（3層）が堆積する。灰はカマド手前の床面にも薄く広がっている。袖は地山の掘り残しである。

壁溝は西コーナーにのみ検出された。掘り込みは浅く、幅14～18cm、深さ3～5cmである。

ピットは1基検出された。柱痕が認められ柱穴と考えられるが、他にピットは検出できなかった。ピットの深さは58cmである。

出土遺物には支脚転用の土師器高坏のほか、須恵器坏、土師器坏・甕などの破片がある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第275住居跡

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）・黄褐色土粒子（φ2mm）少量　しまりあり　粘性なし
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ2mm）・焼土粒子（φ3mm）・炭化物少量　しまりあり　粘性弱い

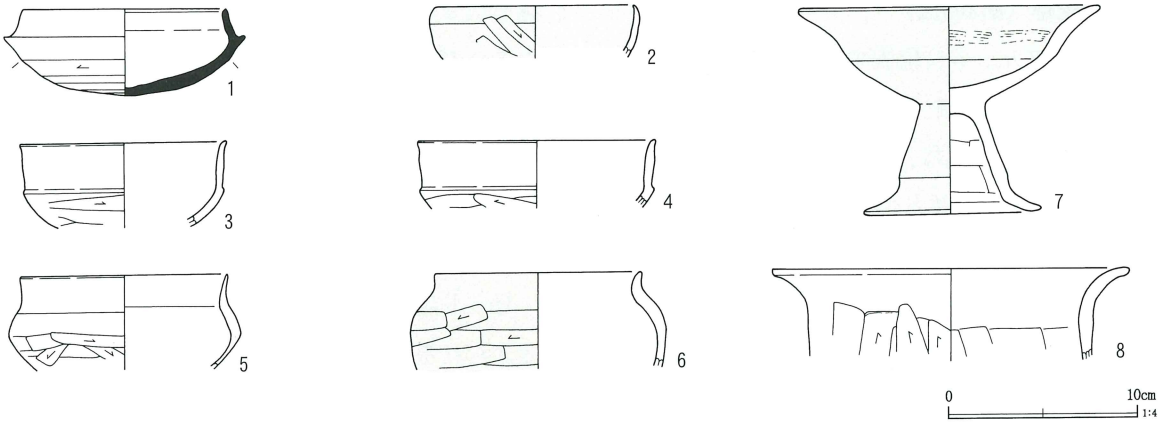
カマド

3	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック（φ10mm）含む　炭化物微量　しまりあり　粘性なし　（天井崩落土）
4	灰色土	N4/0	焼土ブロック（φ10mm）・焼土粒子（φ1mm）少量　しまり・粘性なし　（灰層）
5	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒子（φ2mm）微量　しまり・粘性あり　（掘り方）

ピット1

6	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～2mm）少量　焼土・炭化物微量　しまり・粘性あり
7	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒子（φ1～5mm）多量　しまり・粘性あり
8	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1mm）微量　しまり弱い　粘性あり（柱痕）
9	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロックと8層土の混入層　しまり弱い　粘性あり

第303図　第275号住居跡



第304図　第275号住居跡出土遺物

第276号住居跡（第305図）

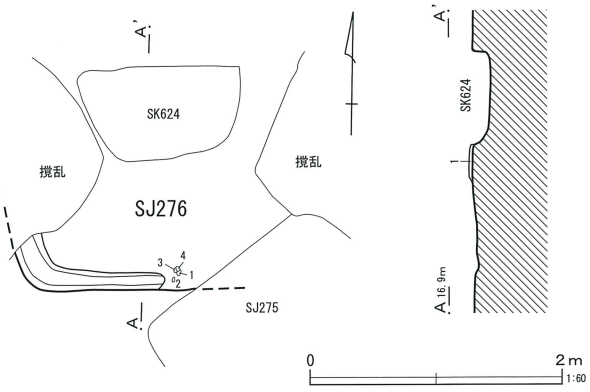
G・H—30グリッドに位置する。第275号住居跡、第624号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第275号住居跡よりも古いと考えられる。

攪乱と新しい遺構によって大半が失われ、南西コーナー部のみ検出された住居跡である。検出された範囲は東西1.8m、南北1.8mである。埋土はほとんど残っておらず、確認面から床面の深さは3cmである。南壁を東西基準とした傾きはN—5°—Wである。

壁溝の掘り込みは浅く、幅13～25cm、深さ2～3cmである。

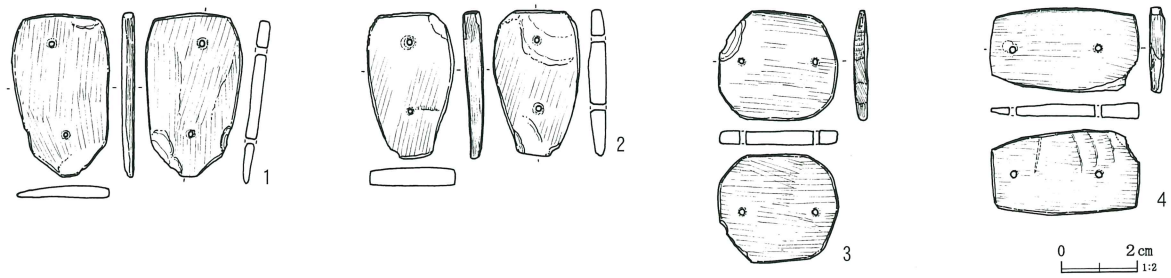
出土遺物は少なく、土器は小破片で図示できなかったが、比企型坏の口縁片が含まれている。壁際の床面から、石製模造品が4点まとまって出土している。

本住居跡の時期は不明であるが、切り合いなどから下田町Ⅴ～Ⅵ期と推定される。



第276号住居跡
1　褐灰色土　黄褐色土ブロック（φ5mm）少量　しまりあり　粘性弱い

第305図　第276号住居跡



第306図　第276号住居跡出土遺物

第277号住居跡（第307図）

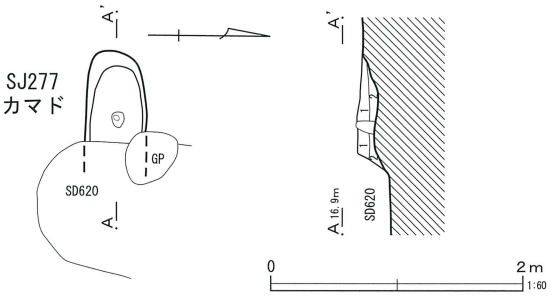
H—30グリッドに位置する。第278号住居跡、第620号溝跡と重複する。住居跡同士の切り合い関係は不明である。

カマドのみが検出された住居跡である。主軸方向はN—89°—Wである。

カマドは燃焼部が検出された。長さ63cm、幅47cm、深さ16cmである。底面には灰層（2層）が堆積する。ほぼ中央から土製支脚が出土した。

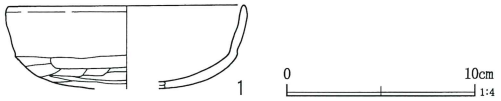
出土遺物は破片が少量で、図示したのは土師器坏1点のみである。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第277号住居跡 カマド
1　灰黄褐色土　10YR4/2　黄灰色粘土粒子（φ1～2mm）斑　焼土・炭化物微量
2　褐灰色土　10YR4/1　黄灰色粘土粒子（φ1～2mm）少量　灰多量　（灰層）

第307図　第277号住居跡カマド



第308図　第277号住居跡出土遺物

第278号住居跡（第309図）

H・I—30グリッドに位置する。第277・280・283号住居跡、第620・639号溝跡、第623・626・627号土坑、第374号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は把握できなかった。

形状は東西に長い方形を呈する。規模は東北—西南7.6m、南東—北西5.6mである。西側は削平を受け、南西壁の立ち上がりは認められない。埋土の残る部分における、確認面から床面までの深さは20cmである。主軸方向はN—60°—Eである。

カマドは北東壁に2基設けられている。やや北寄りにあるカマド1は、燃焼部はやや方形に近く、規模は92×66cmである。掘り込みはなく、底には灰層（6層）が堆積している。焚口の左よりにあるピット状の掘り込みは、支脚の抜き取り痕と考えられる。袖は粘土で構築された付け袖である。カマド2は、新しいピットにほとんど切られており、被熱した煙道の先端部のみが検出された。

貯蔵穴は2基検出された。ともに方形でバケツ状に掘り込まれている。貯蔵穴1の規模は80×75cm、深さは60cmである。貯蔵穴2の規模は72×63cm、深さは60cmである。

壁溝は幅13～24cm、深さ2～8cmである。壁溝は壁以外に、内側に二重に検出されており、本住居跡が拡張されたことを示している。

ピットは4基検出された。いずれからも柱痕が確認されている。P1・2・4は主柱穴、3は補助柱穴であろう。主柱穴の残る1基は攪乱で失われたものと考えられる。ピットの深さはP1から順に49cm、61cm、34cm、45cmである。

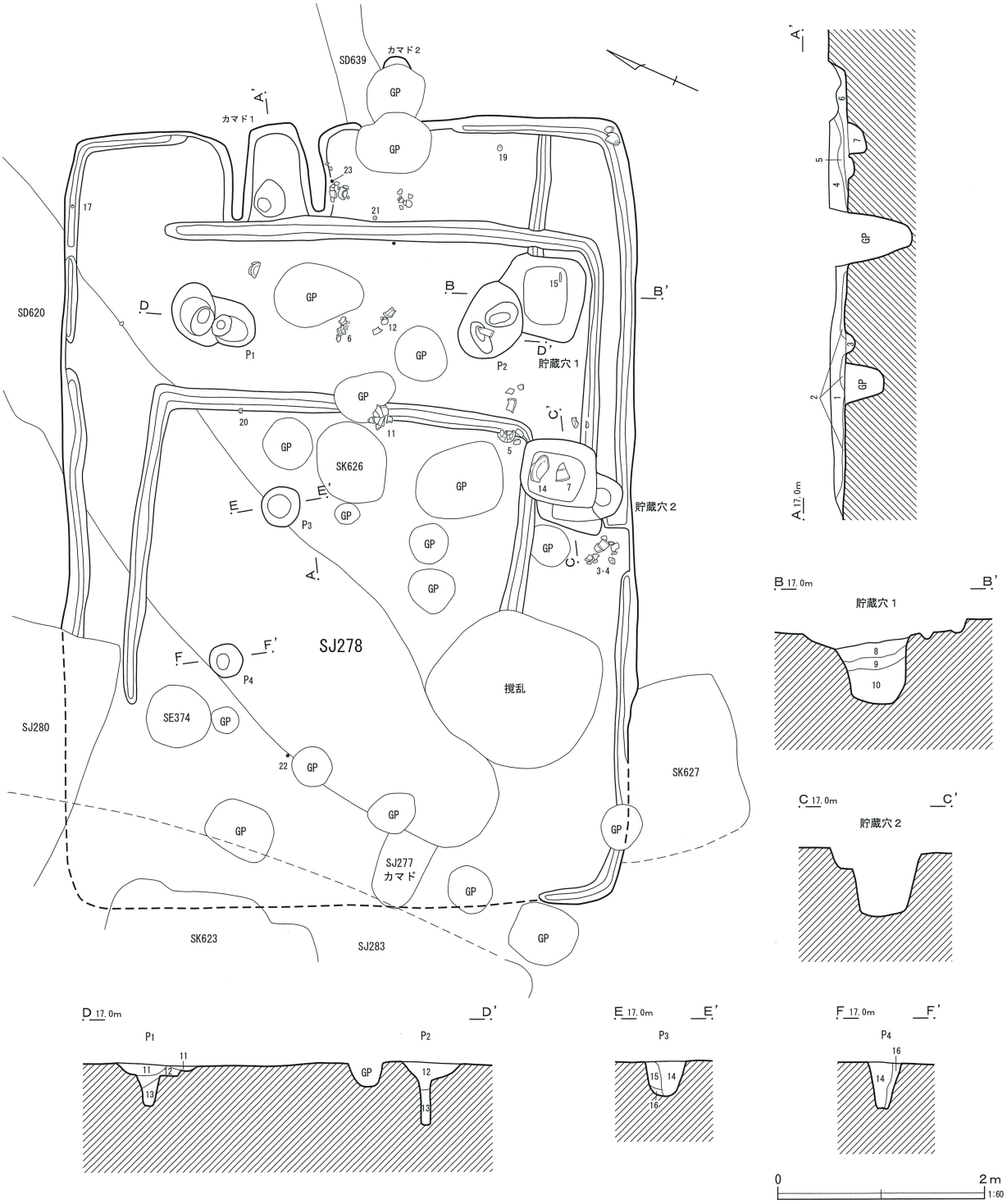
遺物の量は多く、埋土や貯蔵穴内からは土師器坏・甕・甑などの土器が出土した。石製模造品や臼玉は壁溝内、カマド脇などから出土している。

本住居跡の時期は下田町VII期である。

第279号住居跡（第311図）

I—30・31、J—30グリッドに位置する。第378号井戸跡と重複する。

形状は方形を呈し、規模は東西5.4m、南北4.8mである。カマドの周辺にのみ埋土が残っており、確認面から床面の深さは15cmである。埋土・床面の大半は削平されており、掘り方のみが検出された。主



第278号住居跡

1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）含む　焼土・炭化物少量
2	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
3	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量

カマド

4	灰黄褐色土	10YR4/2	黄灰色粘土ブロック（φ5～8mm）斑　焼土・炭化物少量
5	灰黄褐色土	10YR5/2	黄灰色粘土ブロック（φ10mm）少量　焼土・炭化物多量
6	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック（φ5～8mm）微量　灰多量　焼土・炭化物多量　（灰層）
7	灰黄褐色土	10YR4/2	黄灰色粘土ブロック（φ5～8mm）少量　焼土・炭化物多量

貯蔵穴1

8	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色粘土ブロック（φ8～10mm）多量
9	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色粘土ブロック（φ8～10mm）斑
10	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ8～10mm）少量

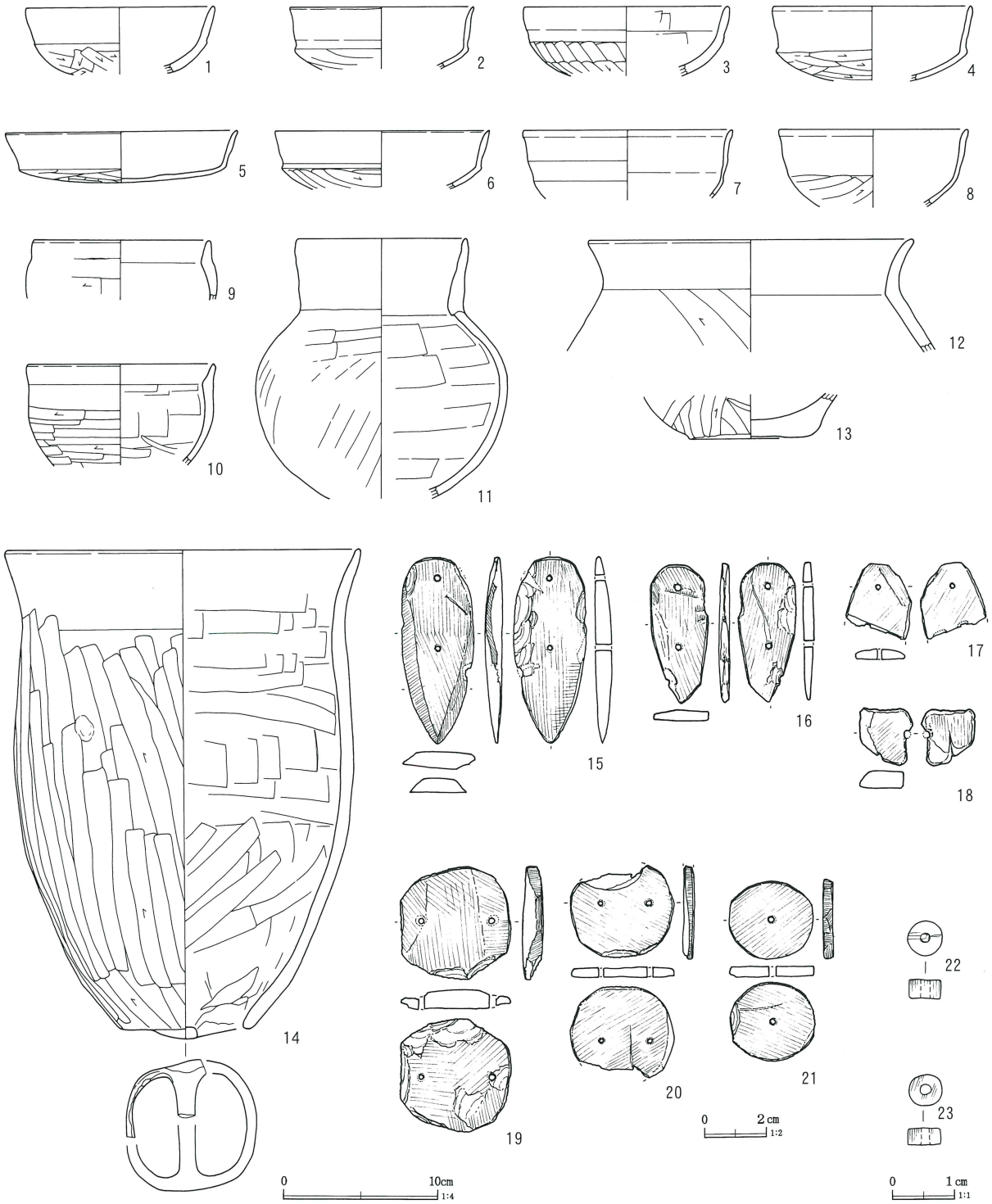
ピット1・2

11	褐灰色土	10YR5/1	黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）・炭化物少量
12	褐灰色土	10YR5/1	黄灰色粘土ブロック（φ8～10mm）斑
13	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量　（柱痕）

ピット3・4

14	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量（柱痕）
15	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）微量（柱掘り方）
16	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量（柱掘り方）

第309図　第278号住居跡



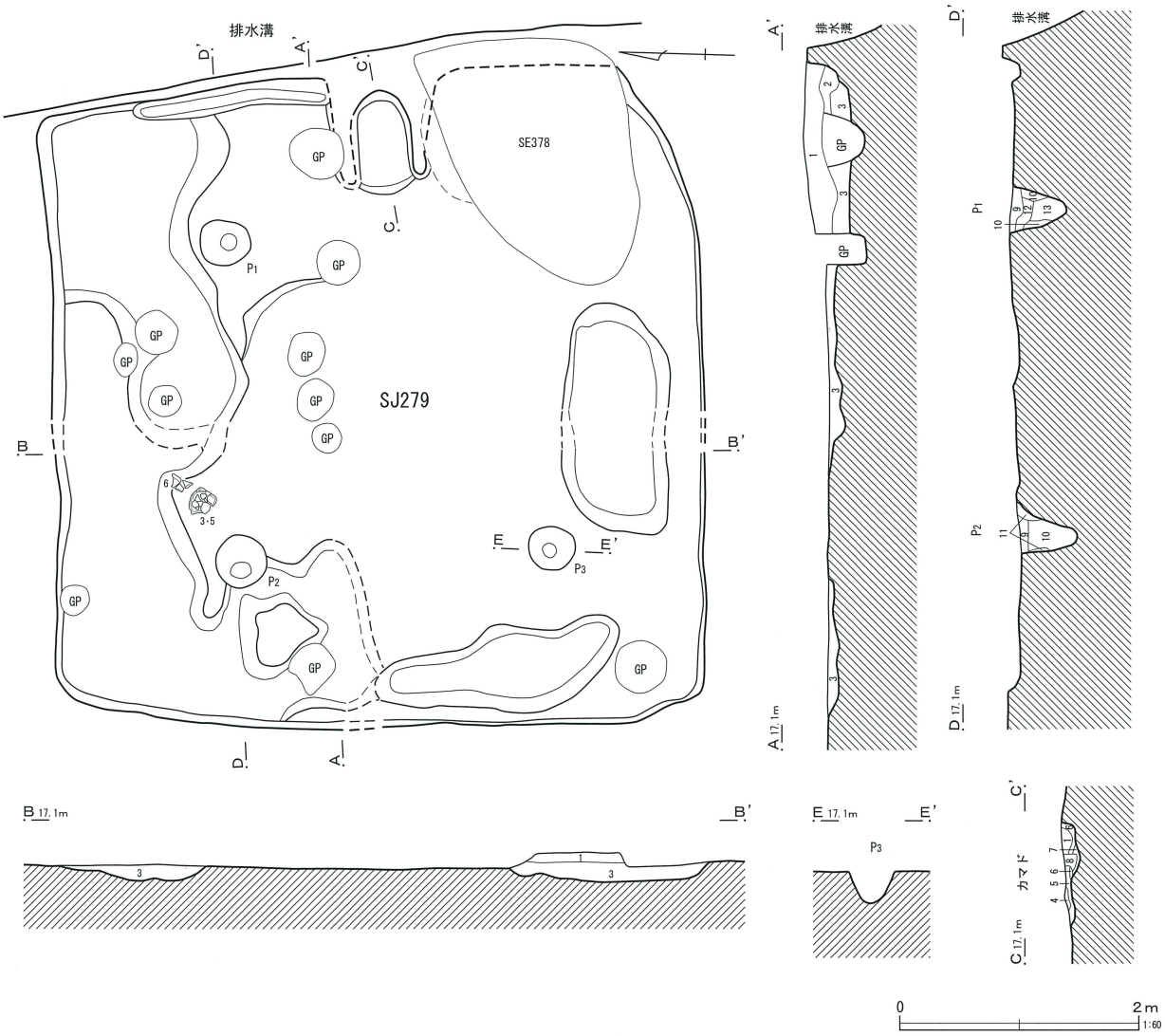
第310図　第278号住居跡出土遺物

軸方向はN－87°－Eである。

カマドは東壁中央に設けられている。燃焼部のみが検出された。規模は88×50cm、掘り込みの深さは13cmである。下層には灰層（5・6層）が堆積し、粘土を固めた支脚が検出された。袖は粘土で構築されている。

壁溝は東壁の一部にのみ検出された。幅14～20cm、深さ7～8cmである。

ピットは3基検出された。うち2基から柱痕が認められ、配置からすべて柱穴と考えられる。ピット



第279号住居跡

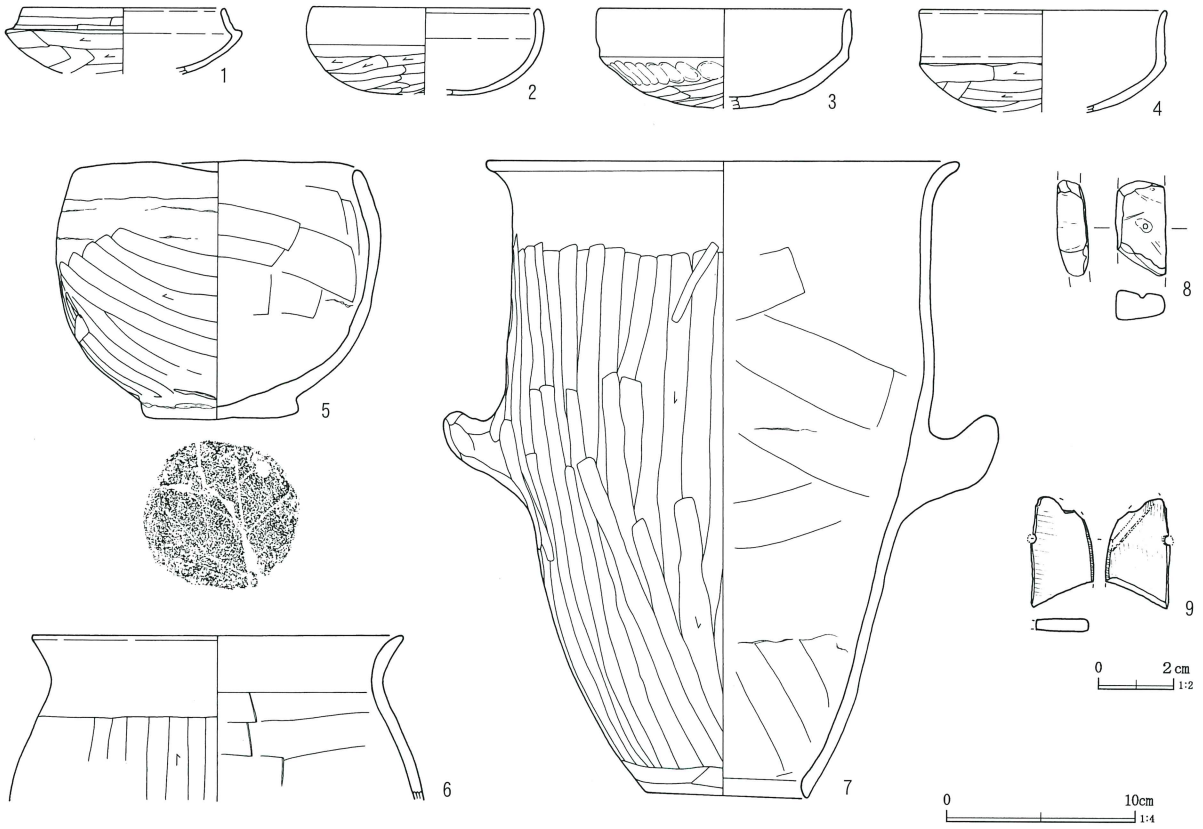
1	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～5mm）少量　焼土・焼土ブロック部分的に含む　炭化物粒子（φ1～2mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）少量　焼土粒子（φ1～2mm）含む　炭化物粒子（φ1～2mm）微量　しまりあり　粘性ややあり
3	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック多量（掘り方）
カマド			
4	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒子（φ1～5mm）多量　炭化物粒子（φ1～2mm）・灰少量　しまり弱い　粘性ややあり
5	灰層		焼土粒子（φ1～5mm）・炭化物粒子（φ1～2mm）少量　しまりなくもろい
6	黒褐色土	10YR3/1	灰多量　焼土粒子（φ1～2mm）・炭化物粒子（φ1mm）少量　しまり弱く　もろい（灰層）
7	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）含む　焼土粒子（φ1～2mm）・炭化物（φ1～5mm）微量　灰少量　しまり・粘性ややあり
8	橙色土	7.5YR7/6	土製支脚
ピット1・2			
9	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまり・粘性あり
10	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～5mm）多量　しまり・粘性あり（柱痕）
11	10層土とロームブロックの混合土　しまり・粘性あり		
12	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック多量　しまり・粘性あり
13	黒色土	10YR2/1	ロームブロック少量　しまりあり　粘性強い（柱痕）

第311図　第279号住居跡

の深さはＰ1から順に46cm、47cm、26cmである。

遺物は少ないが、土師器坏・鉢・甕・甑のほか、石製模造品の破片が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ｖ期である。



第312図　第279号住居跡出土遺物

第280号住居跡（第313図）

H—29・30グリッドに位置する。第275・278・283号住居跡、第619号溝跡、第636号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第275号住居跡よりも古い。第278・283号住居跡との関係は把握できなかった。

形状はやや歪んだ方形である。地震による噴砂の影響を受けているものと考えられる。規模は東西4.7m、南北4.8mである。埋土は自然堆積と考えられ、確認面から床面までの深さは17cmである。主軸方向はN—85°—Eである。

床面は明瞭で、カマド周辺には貼床がみられる。カマドの対面にあたる西壁中央付近の床面には焼土と炭化物の薄い堆積が広がっていた。これをカマド出自のものが踏まれたものと想定すると、西壁側に出入口があったものと推定される。

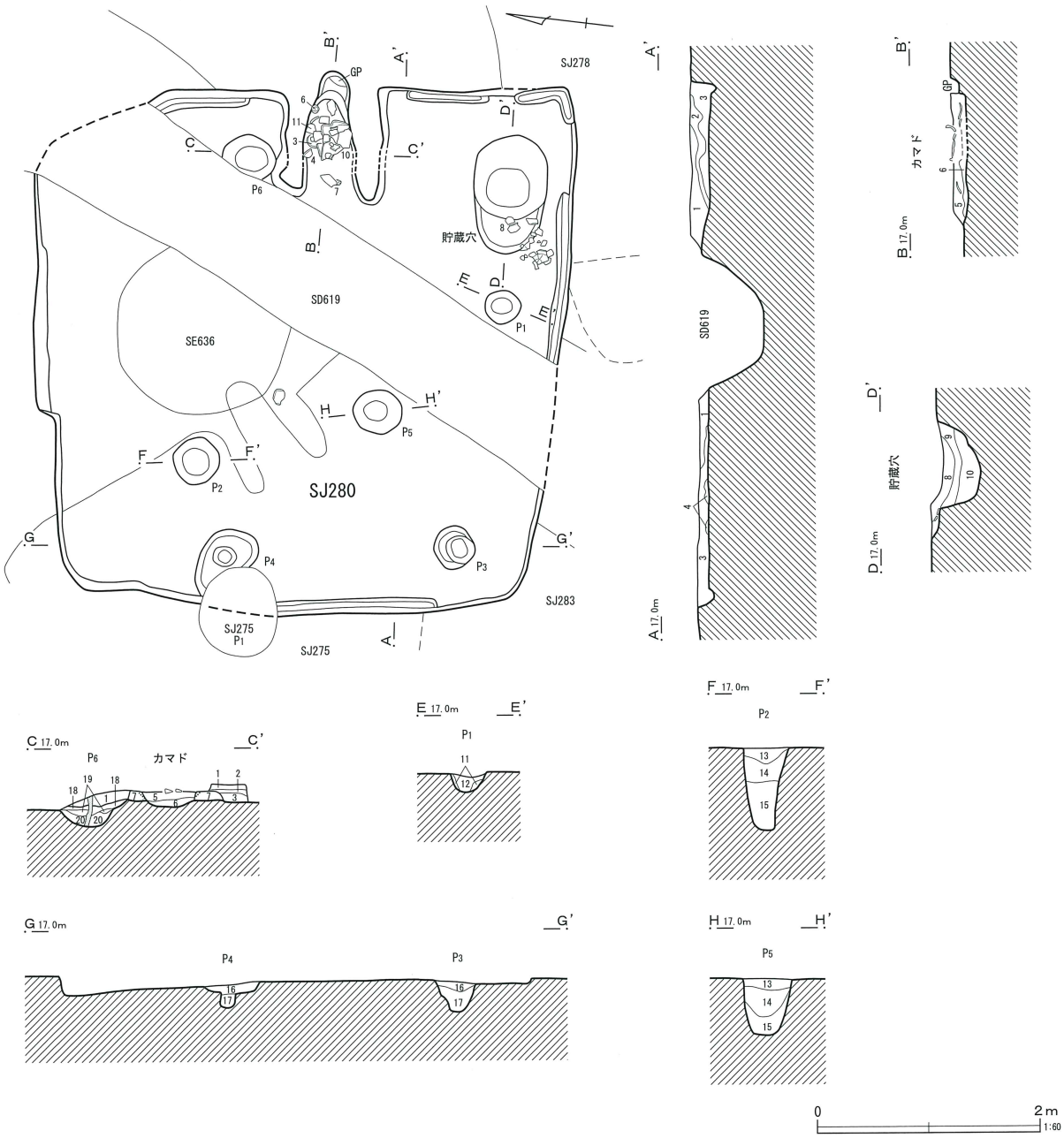
カマドは東壁中央に設けられている。煙道～燃焼部の長さは114cm、焚口の幅47cm、床面からの掘り込みはほとんどない。下面には灰層（6層）が堆積し、その上に天井の崩落土が認められる。灰層の上からは甑（第314図10）がつぶれた状態で出土した。袖は付け袖で、内壁は被熱して硬化している。図示されていないが、袖の断面には薄い灰層が2枚サンドイッチ状に堆積しており、数回にわたりつくり替えされたものと考えられる。

貯蔵穴は円形で、やや底が丸みを帯びたバケツ状の掘り込みである。規模は75×66cm、深さは38cmである。

壁溝は部分的に検出された。幅8～14cm、深さ3～7cmである。

ピットは6基検出された。配置は不規則で、その性格は不明である。ピットの深さはP1から順に17cm、73cm、27cm、20cm、50cm、15cmである。

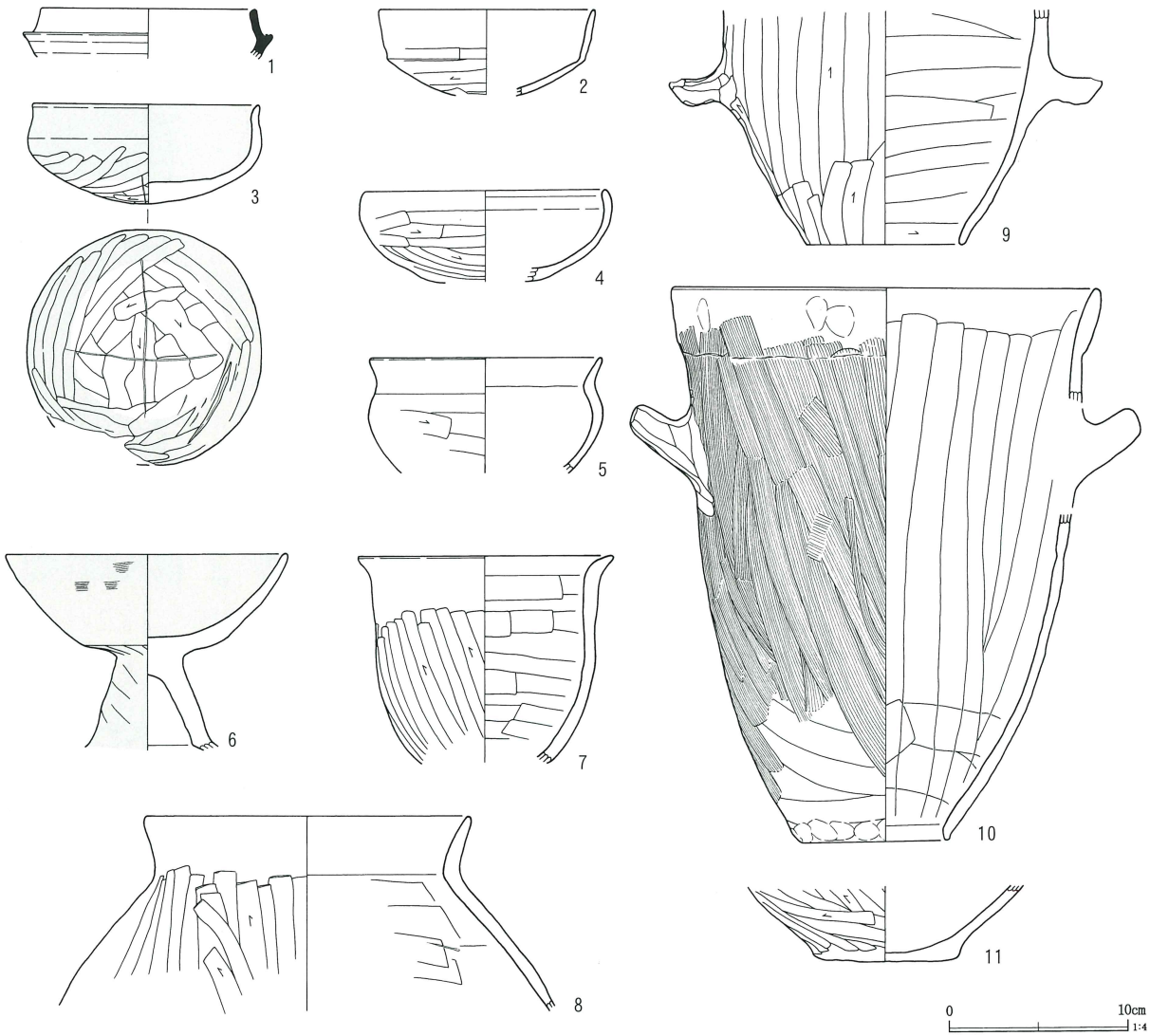
出土遺物はカマド内や貯蔵穴付近から多く出土し



第280号住居跡

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ10mm）含む　焼土ブロック（φ5mm）少量　しまりあり　粘性なし
2	暗灰色土	N3/0	黒灰色の灰多量　黄褐色土粒子・焼土粒子（φ5mm）少量　しまり・粘性ややあり
3	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ20mm）含む　焼土ブロック（φ20mm）少量　しまり・粘性あり
4	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄灰色の砂層　しまり・粘性なし
カマド			
5	にぶい黄褐色土	10YR5/3	焼土粒子（φ5～10mm）含む　しまり・粘性あり（天井崩落土）
6	灰色土	N4/0	焼土ブロック（φ5～10mm）しまり・粘性なし（灰層）
7	にぶい赤褐色土	2.5YR4/4	焼土ブロック（φ10mm）多量　黄褐色土ブロック（φ5mm）含む　しまりあり　粘性なし（カマド袖）
貯蔵穴			
8	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ20mm）多量　しまり・粘性あり
9	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒子（φ3mm）・炭化物少量　灰色粘質土主体　しまり・粘性あり
10	褐灰色土	10YR5/1	灰色土ブロック（φ5mm）両端に集中 層中央部は灰色粘土　しまり・粘性あり
ピット1			
11	褐灰色土	10YR4/1	灰・焼土ブロック（φ10～15mm）・黄褐色土ブロック（φ5mm）多量　しまり弱い　粘性なし
12	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ5mm）多量　しまり・粘性あり
ピット2・5			
13	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ5mm）含む　焼土粒子（φ1～3mm）多量　しまり・粘性あり
14	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ10mm）含む　しまり・粘性あり
15	灰色層	N4/0	灰色粘土層　しまり・粘性あり
ピット3・4			
16	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ5～10mm）含む　焼土粒子（φ5mm）微量　しまり・粘性あり
17	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ5mm）少量　しまり・粘性あり
ピット6			
18	暗灰色土	N3/0	しまり・粘性なし（灰層）
19	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック主体　焼土ブロック（φ10mm）含む　しまり・粘性あり
20	暗灰色土	N3/0	18層（灰）＋焼土ブロック（φ10mm）含む　しまり・粘性なし

第313図　第280号住居跡



第314図　第280号住居跡出土遺物

ている。須恵器坏、土師器坏・高坏・小型甕・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅴ期である。

第281号住居跡（第315図）

F・G—29・30グリッドに位置する。第260・265・284号住居跡、第642号溝跡、第614号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第260・265号住居跡よりも古く、第284号住居跡との関連は不明である。

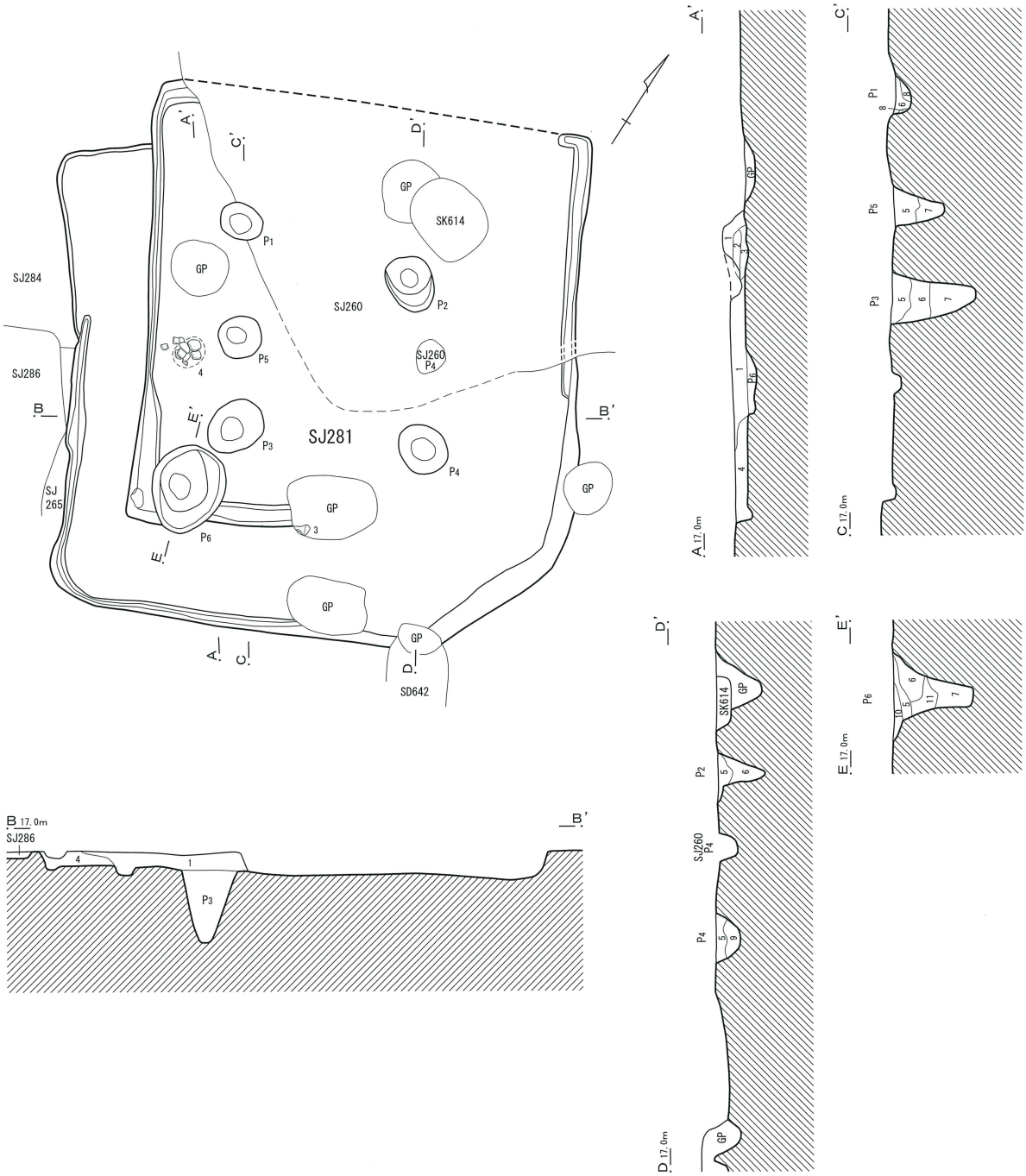
壁溝が二重に巡っており、2軒の切り合いとも考えられたが、北東壁を共有することから、拡張と判断した。形状は方形で、内側の規模は東北—西南4.0m、南東—北西4.1m、外側は東北—西南4.6m、南東—北西4.2mである。確認面から床面までの深さは15cmである。北東壁を基準とした傾きはN—30°—Wである。

壁溝の掘り方は浅く、内側が幅7～20cm、深さ2～7cm、外側は幅8～13cm、深さ3～4cmである。

ピットは6基検出された。柱穴も含まれていると考えられるが、明瞭な柱痕は認められない。ピットの深さはP1から順に20cm、42cm、76cm、22cm、46cm、73cmである。

出土遺物の量は少なく、土師器坏・高坏・甑などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。



第281号住居跡

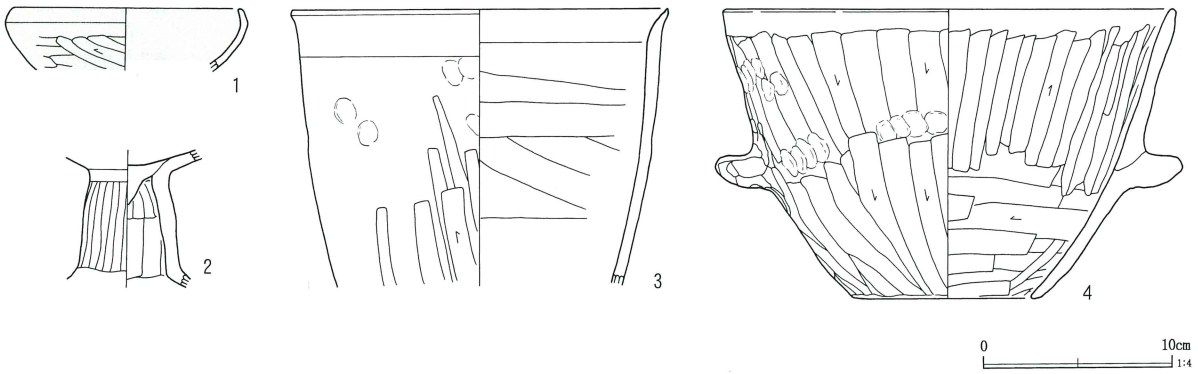
1	黒褐色土	7.5YR3/2	ローム粒子（φ5～10mm）・焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土ブロック（φ10～50mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3	黒色土	10YR2/1	灰層　しまり・粘性なし
4	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック（φ10～20mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり

ピット１～６

5	褐灰色土	10YR4/1	ローム粒子（φ5～10mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
6	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～40mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
7	黒褐色土	10YR3/1	粘性が強くローム土が粒子状に一部混じるのみ　しまりややあり　粘性強い
8	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ5～8mm）・炭化物少量　しまり弱い　粘性ややあり
9	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒子（φ1～3mm）・炭化物粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
10	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
11	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック（φ10～20mm）微量　中央下部に炭化物含む　しまり・粘性ややあり

0　2m　1:60

第315図　第281号住居跡



第316図　第281号住居跡出土遺物

第282号住居跡（第318図）

F・G—30グリッドに位置する。第265・287・290号住居跡、第2・4号溝跡、第629・635・643号土坑、第369・376号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第265・290号住居跡よりも古く、第287号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は歪んだ方形を呈する。東側を大きく第2号溝跡に切られる。検出された範囲は東南—西北5.3m、南西—北東は6.7mである。確認面から床面までの深さは8～27cmである。北西壁を基準とした傾きはN—61°—Eである。

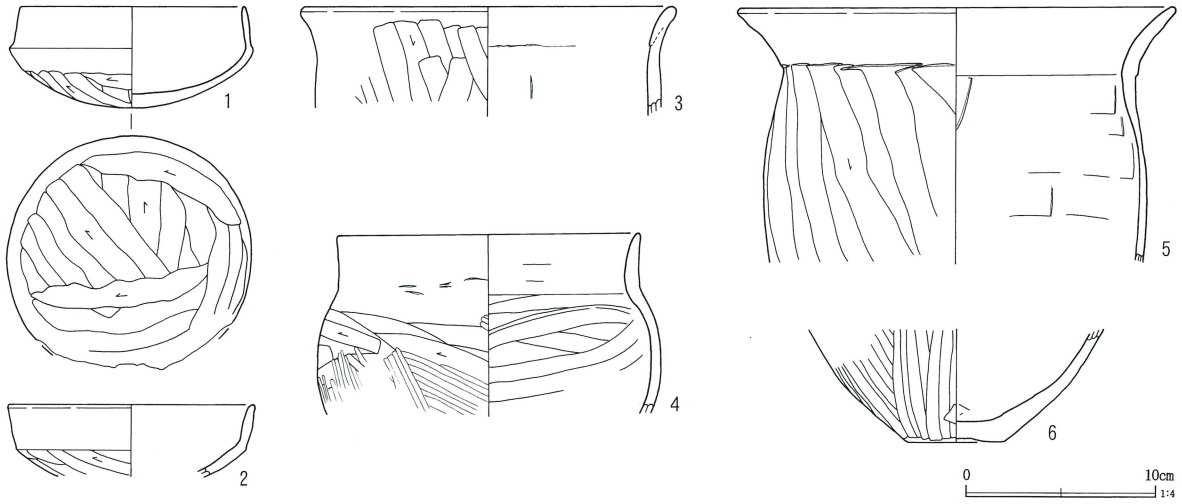
壁溝は部分的に短く検出された。幅8～12cm、深さ3～9cmである。

P4の上層には焼土と炭化物が主体となる層（8層）が堆積している。周辺には床面に焼土を含んだ炭化物の堆積（3層）が発達しており、カマド袖の構築材としての出土状況と同様に、伏せた甕が出土している。これらのことから、北東壁にカマドが設けられていた可能性が指摘できる。

ピットは5基検出された。P1には柱痕がみられる。ピットの深さはP1から順に33cm、7cm、13cm、40cm、68cmである。

出土遺物には、土師器坏・甕がある。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第317図　第282号住居跡出土遺物

第282号住居跡

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土ブロック（φ5～10mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック（φ5～10mm）少量　炭化物層（炭化物主体）　しまり・粘性ややあり
ピット1～4			
4	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック（φ10～20mm）少量　焼土粒子微量　しまりあり　粘性ややあり
5	黒褐色土	10YR3/1	混入物少なく炭化物粒子少量　しまりややあり　粘性強い（柱痕）
6	褐灰色土	10YR4/1	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまり・粘性ややあり
7	黒色土	7.5YR2/1	しまりあり　粘性ややあり
8	黒褐色土	5YR2/1	焼土ブロックと炭化物主体　しまり・粘性弱い

第318図　第282号住居跡

第283号住居跡（第319図）

H—30グリッドに位置する。第275・278・280・287号住居跡、第619号溝跡、第623号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第287号住居跡よりも新しい。第275・278・280号住居跡との切り合い関係は把握できなかった。

検出された壁は南壁と北西コーナーのみで、全容は明らかにできなかったが、形状は方形を呈すると考えられる。規模は推定で東西6.4m、南北6.6mである。埋土は浅く、大変が削平されている。確認面から床面までの深さは10cmである。主軸方向はN—72°—Eである。

カマドは東壁に設けられている。検出されたのは燃焼部の痕跡のみである。規模は82×40cm、深さは12cmである。底面には灰層（10層）が堆積する。

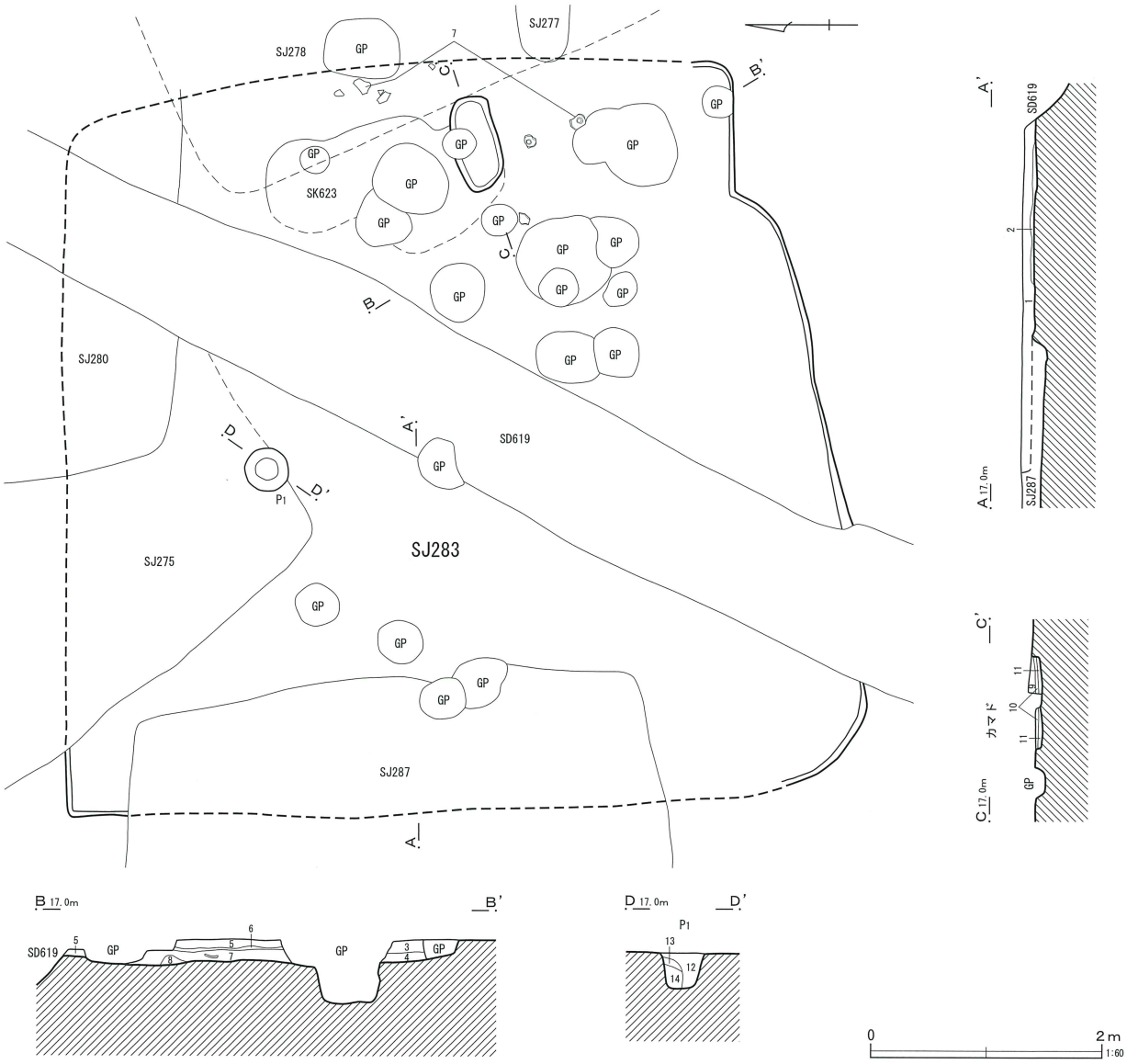
本住居跡に伴うと考えられるピットは1基であ

る。埋土に柱痕らしき堆積がみられる。深さは31cmである。

出土遺物は多く、土師器坏・高坏・甕などがある。

透かしを有する土師器高坏も含まれる。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。



第283号住居跡

1	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック（φ1～10mm）少量　焼土ブロック微量　炭化物含む
2	黒褐色土	10YR2/3	黄褐色土ブロック多量
3	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～8mm）斑　焼土・炭化物少量
4	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ8～10mm）多量　炭化物斑
5	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）斑　焼土ブロック少量
6	黒色土	10YR2/1	焼土・炭化物多量
7	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）全体に多量　焼土・炭化物少量（掘り方）
8	明黄褐色土	10YR6/6	黄褐色粘土含む（掘り方）

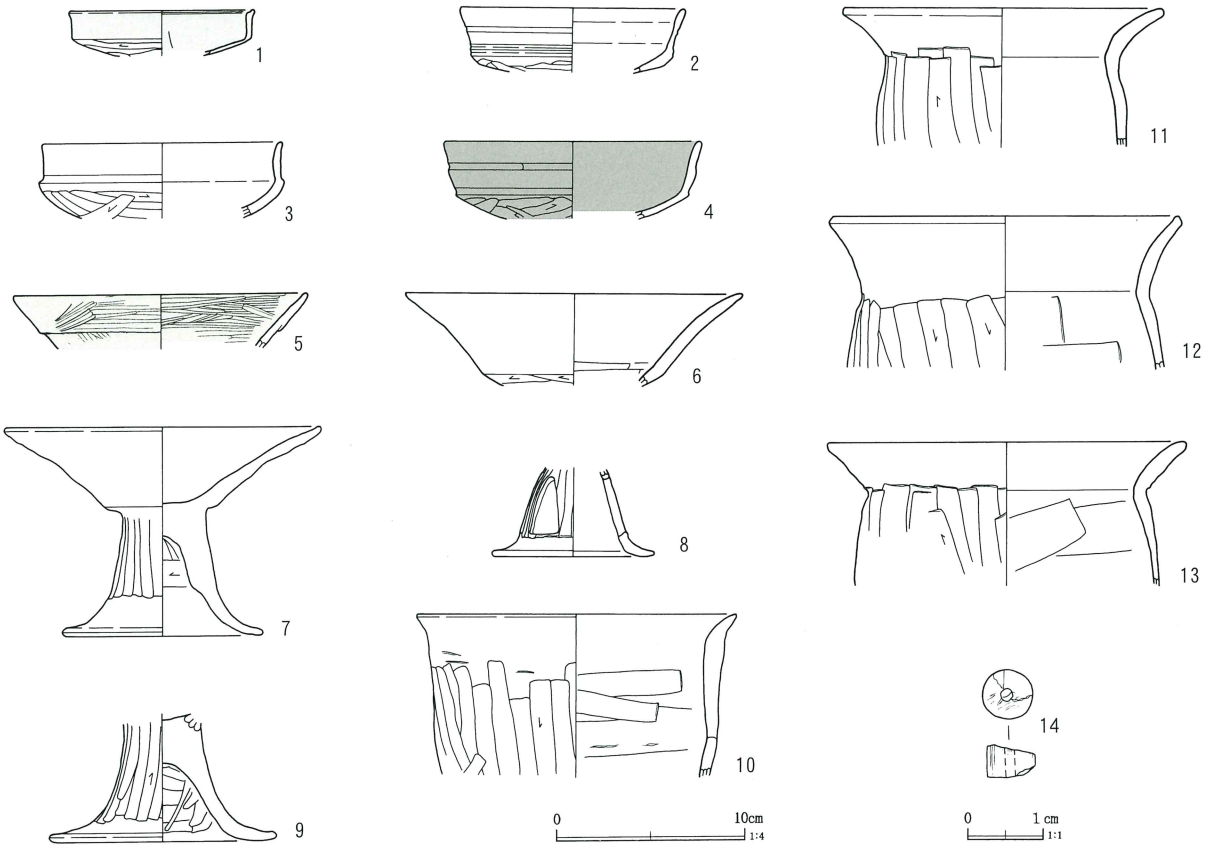
カマド

9	灰黄褐色土	10YR5/2	焼土・炭化物多量　黄褐色ブロック（φ5～8mm）少量
10	黒褐色土	10YR3/1	炭化物・灰多量（灰層）
11	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・黄褐色ブロック少量（掘り方）

ピット1

12	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物含む
13	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
14	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック少量　炭化物含む

第319図　第283号住居跡



第320図　第283号住居跡出土遺物

第284号住居跡（第322図）

F—29・30グリッドに位置する。第259・281・286号住居跡、第634・640号溝跡、第611・612・616・618・624・633・646・647・648号土坑、第365号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第259号住居跡よりも古く、第281・286号住居跡との関係は把握できなかった。

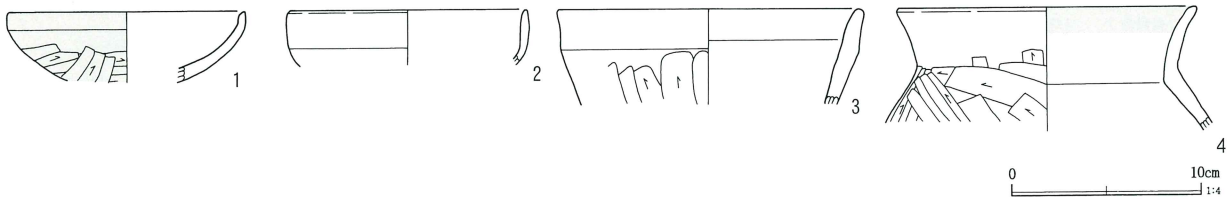
形状は方形を呈する。大半が第259号住居跡に切られている。規模は推定で、東北—西南4.6m、南東—北西7.3mである。埋土はほとんど残っておらず、掘り方まで掘り下げている。確認面から床面までの深さは5cmである。北東壁を基準とした傾きはN—33°—Wである。

壁溝は北東壁に検出された。幅8～12cm、深さ7～10cmである。

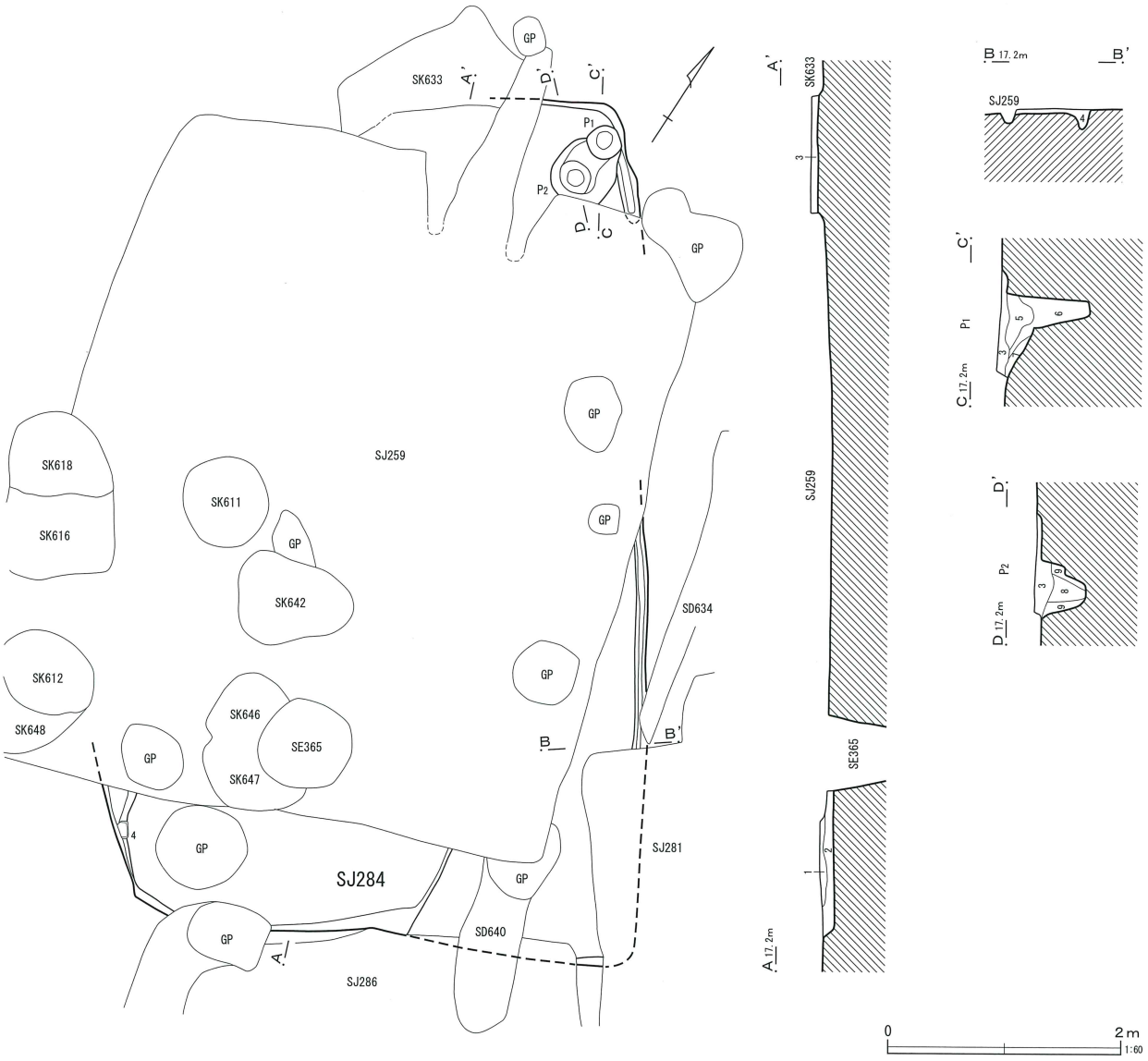
ピットは北コーナーに2基検出された。P2には柱痕がみられる。ピットの深さはP1から順に76cm、44cmである。

出土遺物は少なく、すべて破片である。土師器坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第321図　第284号住居跡出土遺物



第284号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒子（φ1～10mm）少量　しまりあり　粘性ややあり（掘り方）
3　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量　しまりあり　粘性なし（掘り方）
4　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色土ブロック（φ20～30mm）含む　しまりあり　粘性なし
ピット1
5　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ10～15mm）斑　焼土粒子（φ5mm）・炭化物微量　しまりあり　粘性ややあり
6　にぶい黄褐色土　10YR4/3　黄褐色土ブロック（φ20～30mm）含む　焼土粒子（φ5mm）微量　しまり・粘性あり
7　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
ピット2
8　黒褐色土　10YR3/2　粘性のある黒褐色土　しまり・粘性あり（柱痕）
9　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色土ブロック（φ10mm）含む　しまりあり　粘性ややあり

第322図　第284号住居跡

第285号住居跡（第323図）

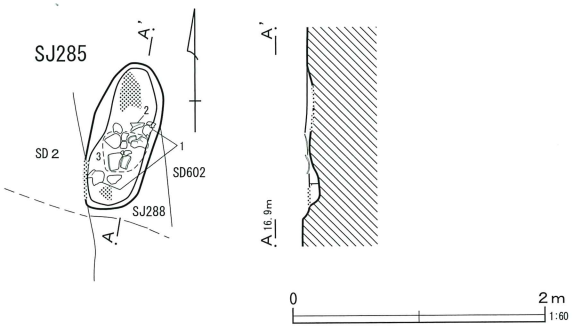
G—31グリッドに位置する。第288号住居跡、第2・602号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第288号住居跡の床面で確認されたため、第288号住居跡より古いと考えられる。

カマドのみが検出された。主軸方向はN—17°—Eである。

カマドは燃焼部の痕跡である。規模は115×49cm、掘り込みの深さは8cmである。底面に灰層（1層）が堆積し、部分的に被熱している。

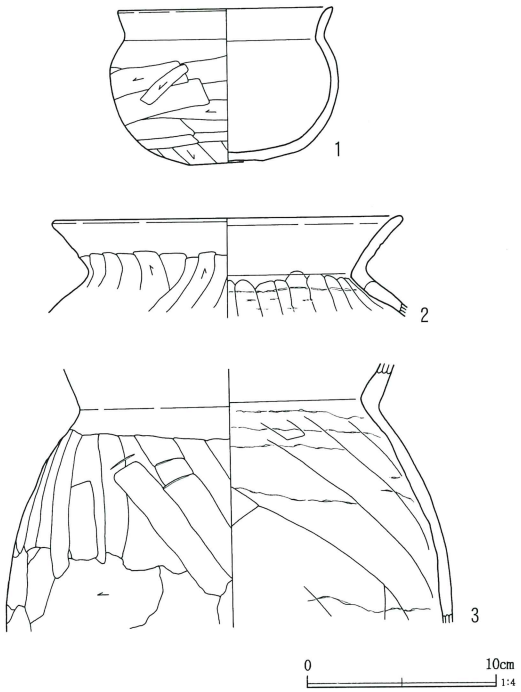
遺物は比較的残りのよい土器が出土した。土師器埦・甕がある。

本住居跡の時期は下田町Ⅳ期である。



第285号住居跡
1　黒色土　10YR2/1　焼土ブロック・炭化物・灰多量（灰層）

第323図　第285号住居跡



第324図　第285号住居跡出土遺物

第286号住居跡（第325図）

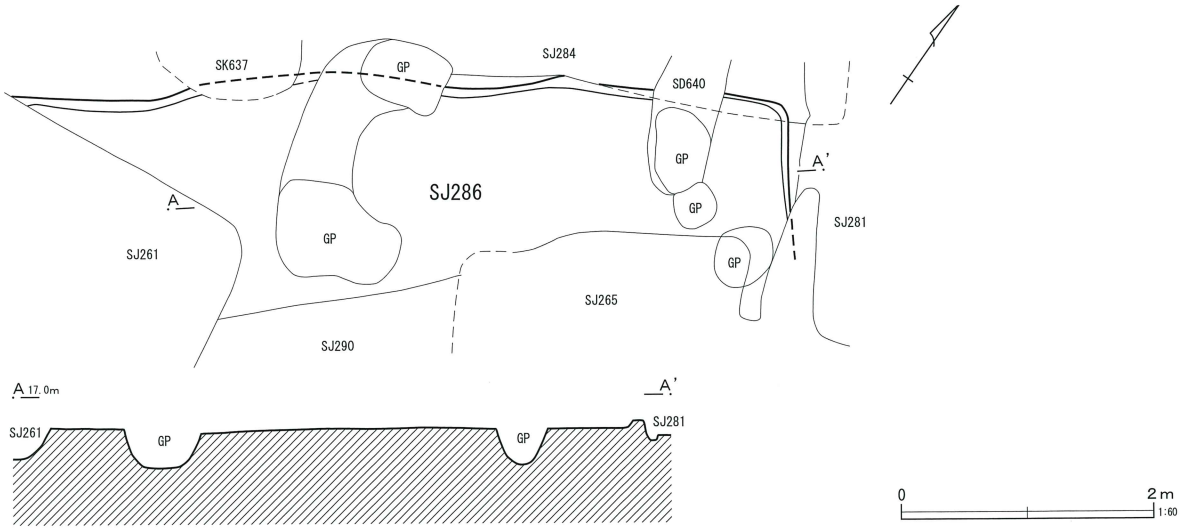
F—30グリッドに位置する。第261・265・270・284・290号住居跡、第640号溝跡、第637号土坑と重複する。住居跡の切り合い関係は、第261・265・270号住居跡よりも古く、第284・290号住居跡との関係は把握できなかった。

北西壁～北コーナーのみが検出された住居跡で、形状は方形になると考えられる。検出された範囲は東北—西南6.1m、南東—北西1.8mである。埋土はほとんどなく、確認面から床面の深さは5cmである。北西壁を東西基準とした傾きはN—40°—Wである。

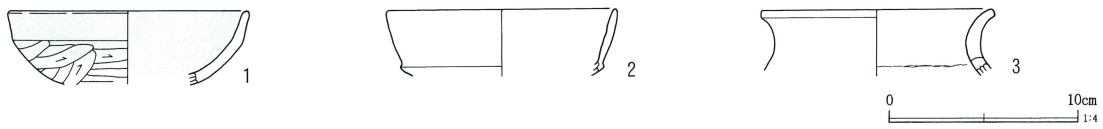
壁溝やピットなどの施設は検出されなかった。

出土遺物は少なく、すべて破片である。土師器坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅴ期である。



第325図　第286号住居跡



第326図　第286号住居跡出土遺物

第287号住居跡（第327図）

G・H—30グリッドに位置する。第282・283・288号住居跡、第２号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第283号住居跡よりも古く、第282・288号住居跡より新しい。

形状は正方形に近い方形で、規模は東西4.6m、南北4.7mである。確認面から床面までの深さは19cmである。主軸方向はN—５°—Wである。

カマドは北壁中央に設けられている。煙道は検出されなかった。燃焼部は攪乱に切られているが、床面からの掘り込みはほとんどなかったと推定される。幅は53cmである。袖は小さく、地山の基部のみ残る。

貯蔵穴はカマドの右側に検出された。段を持つ不整形な掘り込みである。規模は108×90cm、深さは33cmである。

住居跡に伴うと考えられる土坑が３基検出された。土坑１は楕円形で、規模は86×59cm、深さは10cmである。土坑２は楕円形で、規模は88×73cm、深さは26cmである。土坑３は不整円形で、規模は96×77cm、深さは27cmである。

壁溝は東西壁の一部で検出された。掘り込みは浅くは幅13～20cm、深さ２～５cmである。

ピットは６基検出された。P1・4～6は掘り込みの形状から柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に41cm、17cm、10cm、64cm、53cm、69cmである。

出土遺物は比較的多く、カマド周辺に多く分布している。土師器坏・高坏・甕などのほかに、土坑２の埋土から紡錘車の破片が出土している。

本住居跡の時期は下田町VI期である。

第288号住居跡（第330図）

G・H—30・31グリッドに位置する。第285・287号住居跡、第２・600・602号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第287号住居跡よりも古く、第285号住居跡より新しい。

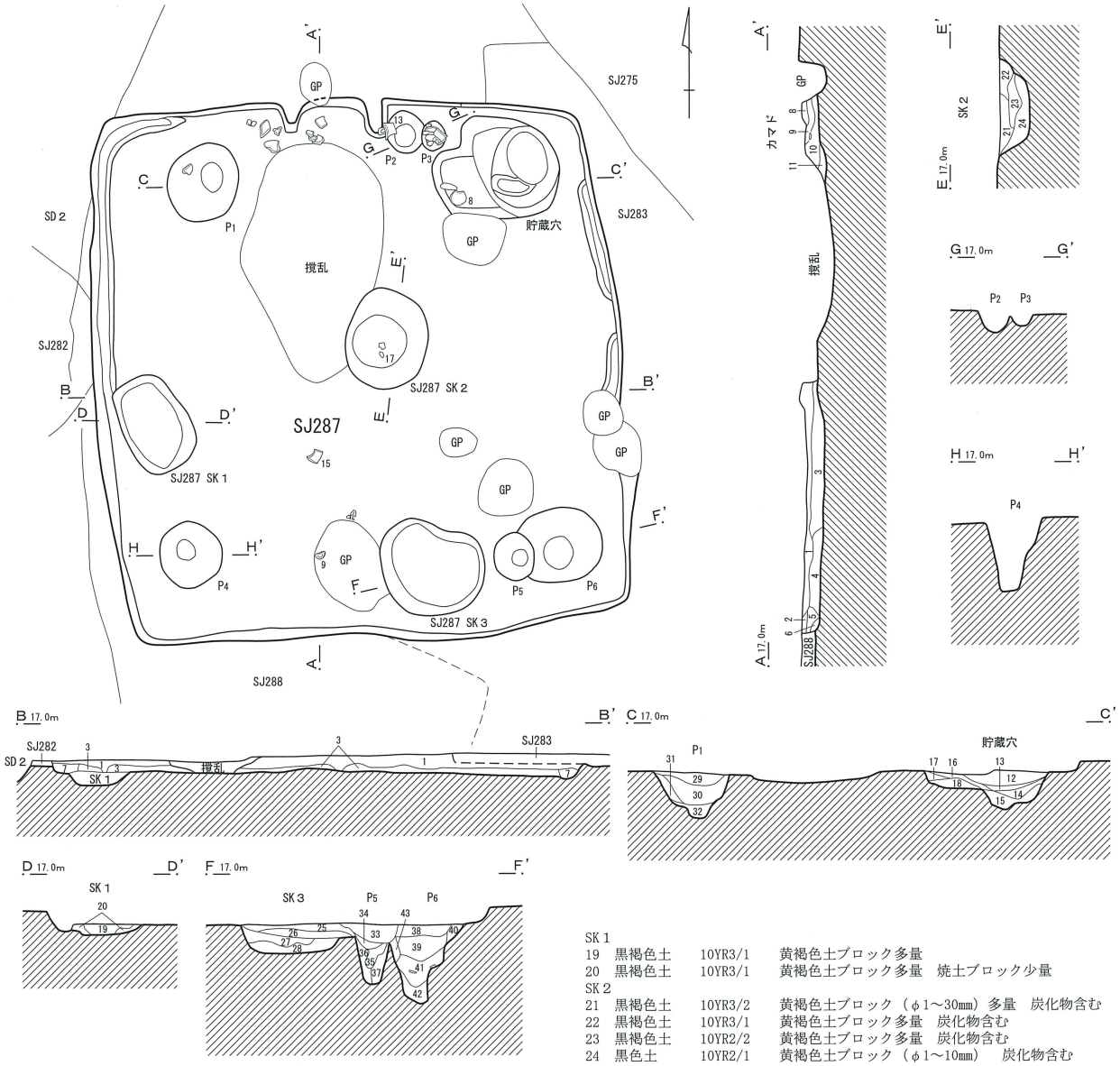
形状は方形を呈し、正方形に近いと推定される。規模は推定で東南—西北4.6m、南西—北東4.7mである。確認面から床面までの深さは18cmである。南東壁を基準とした傾きはN—25°—Eである。

壁溝は西コーナー部のみに検出された、幅７～14cm、深さ３～８cmである。

ピットは２基検出された。性格は不明である。ピットの深さはP1から順に29cm、17cmである。

出土遺物は少なく、破片である。土師器坏・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町VI期である。



第287号住居跡

1　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）含む　焼土ブロック微量　炭化物含む
2　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）少量
3　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量　炭化物含む
4　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量　炭化物含む
5　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）含む　焼土ブロック微量
6　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
7　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック・焼土ブロック少量　炭化物含む

カマド

8　黒褐色土　10YR3/1　焼土ブロック多量
9　黒褐色土　10YR3/2　焼土ブロック多量　灰少量
10　黒褐色土　10YR2/2　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量　焼土ブロック含む
11　暗灰色土　N3/1　青灰色土ブロック多量

貯蔵穴

12　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）・炭化物含む　焼土ブロック微量
13　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色土ブロック多量　鉄分含む
14　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）含む　炭化物多量
15　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量
16　褐灰色土　10YR5/1　黄褐色土ブロック多量　炭化物含む
17　褐灰色土　10YR6/1　黄褐色土ブロック多量
18　灰黄褐色土　10YR5/2　黄褐色土ブロック多量

SK 1

19　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック多量
20　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック多量　焼土ブロック少量

SK 2

21　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量　炭化物含む
22　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック多量　炭化物含む
23　黒褐色土　10YR2/2　黄褐色土ブロック多量　炭化物含む
24　黒色土　10YR2/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）　炭化物含む

SK 3

25　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）・炭化物含む　焼土ブロック微量
26　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～5mm）多量
27　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～5mm）多量　炭化物含む
28　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物含む

ピット1

29　緑灰色土　5G6/1　炭化物多量
30　暗緑灰色土　5G4/1　青灰色土ブロック多量　炭化物含む
31　暗緑灰色土　10G4/1　青灰色土ブロック多量　鉄分含む
32　暗緑灰色土　5G3/1　青灰色ブロック多量

ピット5

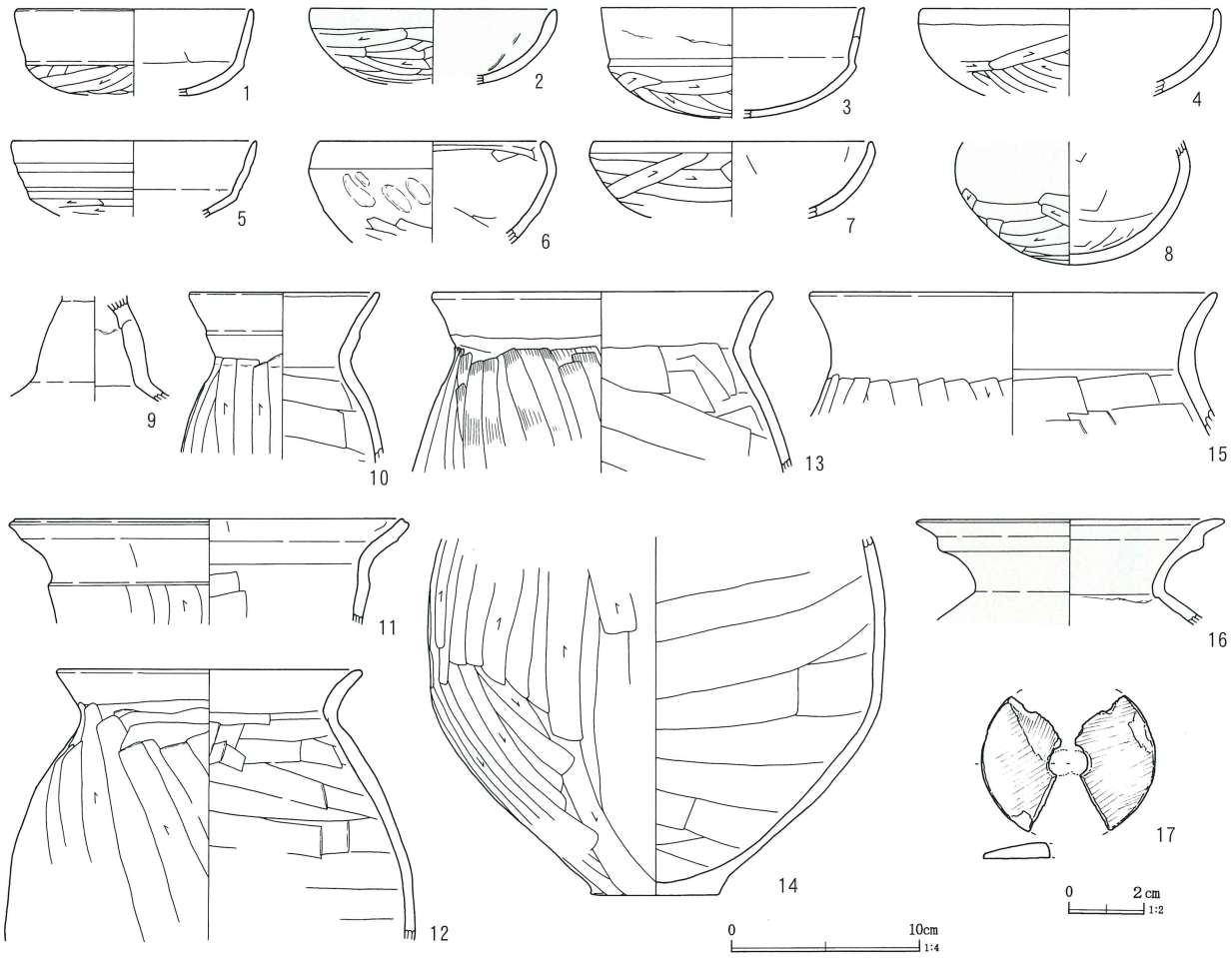
33　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）多量　炭化物含む
34　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物多量
35　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック少量　焼土ブロック微量
36　黒色土　2.5GY2/1　黄褐色土ブロック多量
37　黒色土　10YR2/1　黄褐色ブロック少量　炭化物含む

ピット6

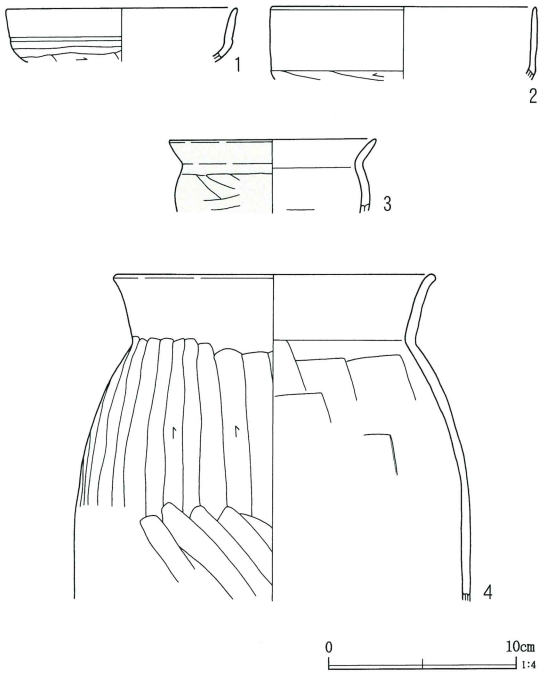
38　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～5mm）多量　焼土ブロック微量
39　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物含む
40　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量　焼土ブロック微量
41　黒色土　10YR2/1　焼土ブロック微量　炭化物含む
42　黒色土　10YR1.7/1　焼土ブロック微量　炭化物含む
43　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック多量

0　2m　1:60

第327図　第287号住居跡



第328図　第287号住居跡出土遺物



第329図　第288号住居跡出土遺物

第289号住居跡（第331図）

H—30・31グリッドに位置する。第300号住居跡、第644号溝跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第300号住居跡よりも新しい。

カマドを含む北壁が検出された。形状は方形で、検出された範囲は東西4.1m、南北1.4mである。埋土は浅く、確認面から床面まで深さは8cmである。主軸方向はN—14°—Wである。

残りが浅く、壁の立ち上がりは明瞭でないが、床面は壁際を除いて貼床されている。

カマドは北壁中央に設けられている。燃焼部の規模は長さ80cm、焚口の幅は47cmである。袖は付け袖である。内壁や床面はあまり焼けていない。

貯蔵穴はカマドの右側にあり、焼土・炭化物・灰の多く混じった土（5層）が堆積している。形状は

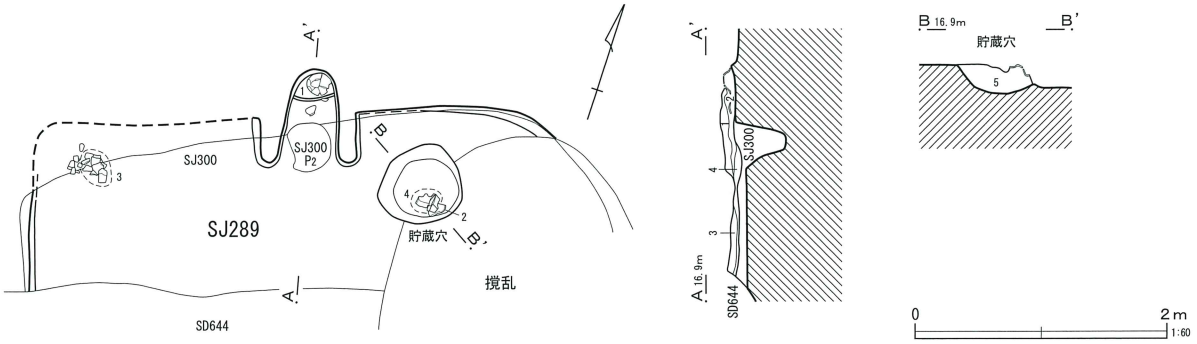
第288号住居跡
1　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）少量　焼土ブロック微量
2　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）多量　炭化物含む
3　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック多量　焼土ブロック少量
4　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）多量　焼土ブロック少量　炭化物含む
5　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量
6　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量
7　灰黄褐色土　10YR4/2　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量
8　褐灰色土　10YR4/1　黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
9　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
10　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量　焼土ブロック微量
11　黒色土　10YR2/1　黄褐色土ブロック（φ1～5mm）・炭化物少量　焼土ブロック微量
12　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量　炭化物含む
13　黒色土　10YR2/1　黄褐色土ブロック多量　鉄分含む　焼土少量
ピット1
14　黒色土　10YR2/1　黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
15　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量　炭化物含む
16　黒褐色土　10YR2/2　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）含む
ピット2
17　黒色土　10YR2/1　黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物含む
18　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量

第330図　第288号住居跡

円形で、掘り込みはやや緩やかである。規模は68×58cm、深さは20cmである。

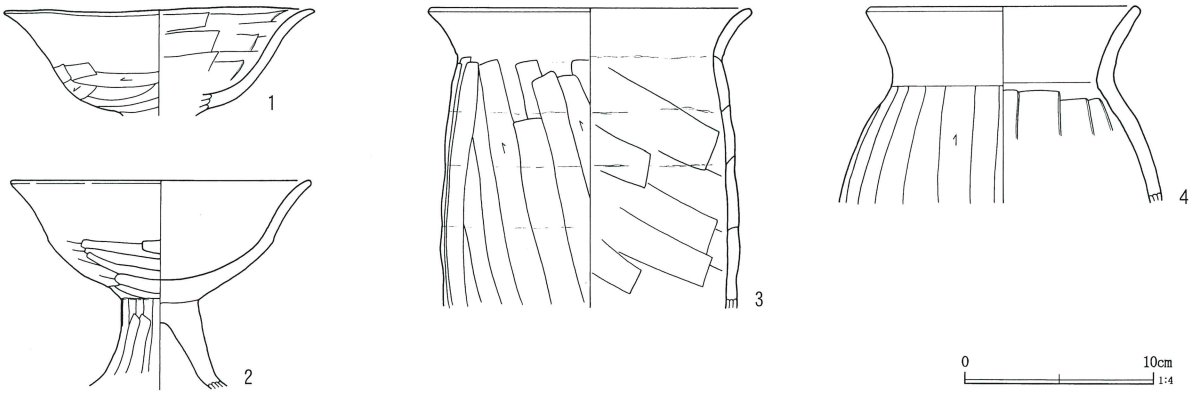
遺物は比較的良好な状態で出土した。カマドからは土師器高坏が、貯蔵穴からは高坏と甕が出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅴ期である。



第289号住居跡カマド
1　灰黄褐色土　10YR6/2　黄灰色粘土ブロック（φ3～5mm）多量　焼土ブロック（φ5～8mm）斑（天井崩落土）
2　褐灰色土　10YR4/1　黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）微量　灰・炭化物多量（灰層）
3　灰黄褐色土　10YR5/2　黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）微量
4　灰黄褐色土　10YR4/2　暗褐色土との混土層（貼床）
貯蔵穴
5　褐灰色土　10YR4/1　焼土・灰・炭化物（φ5mm）多量

第331図　第289号住居跡



第332図　第289号住居跡出土遺物

第290号住居跡（第333図）

F・G—30・31グリッドに位置する。第258・261・265・271・282・286号住居跡、第643号溝跡、第625・628・630・631・638・639・640・641号土坑、第368・369・371・375号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第258・261・265号住居跡よりは古く、第282号住居跡より新しい。第271・286号住居跡との関係は把握できなかった。

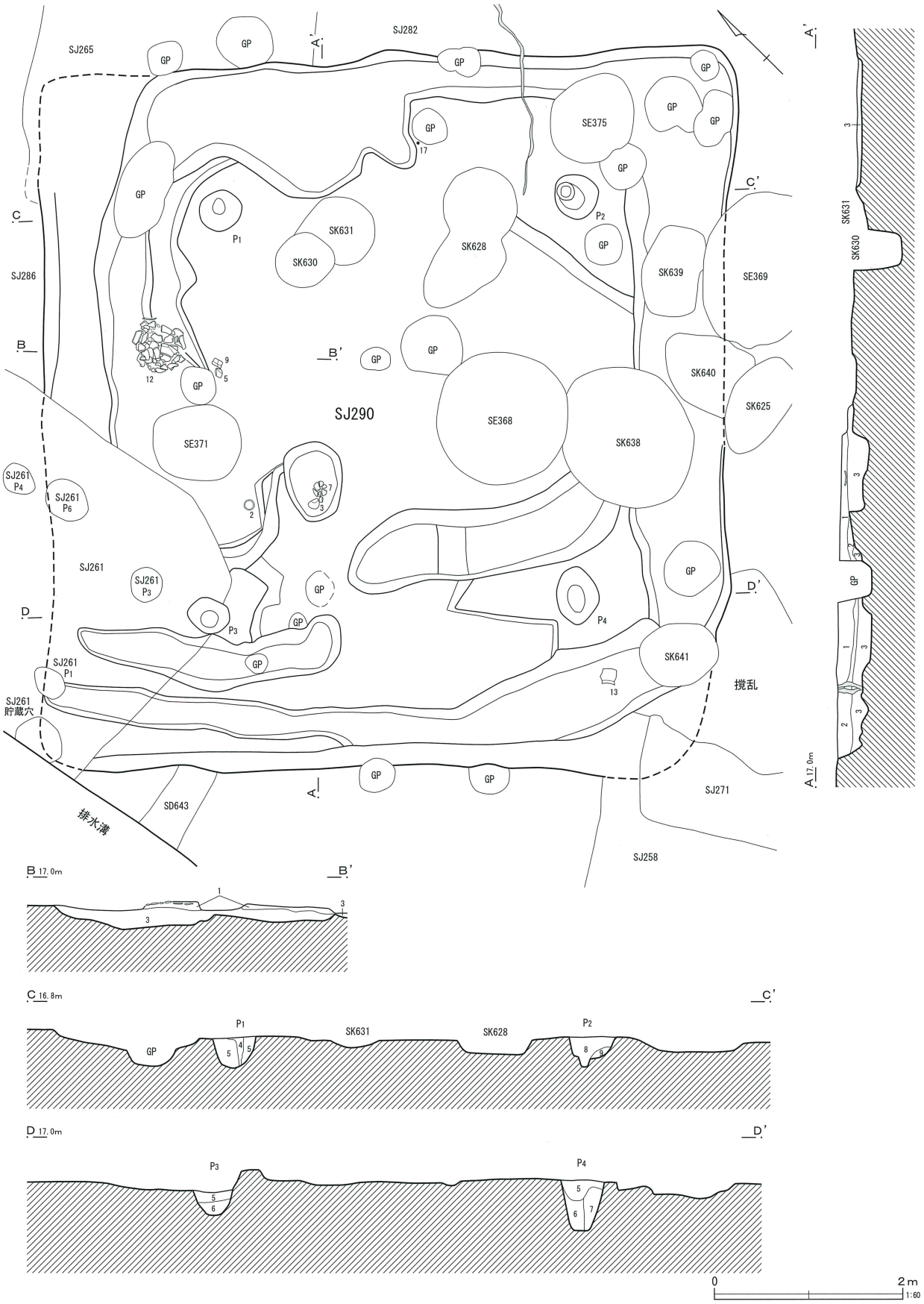
形状は正方形に近く、規模は東南—西北7.3m、南西—北東7.5mである。北東部は床面まで削平されている。埋土のもっとも残存する箇所における確認面から床面までの深さは20cmである。南西壁を基準とした傾きはN—47°—Eである。

中央付近は地山が直接床面となり、掘り方はピットを結んだラインから壁際に向かって掘り下げられ、壁際は周溝状となる。

ピットは4基検出された。規則的に配置されており、P4には柱痕が明瞭にみられることから、主柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から順に32cm、32cm、24cm、53cmである。

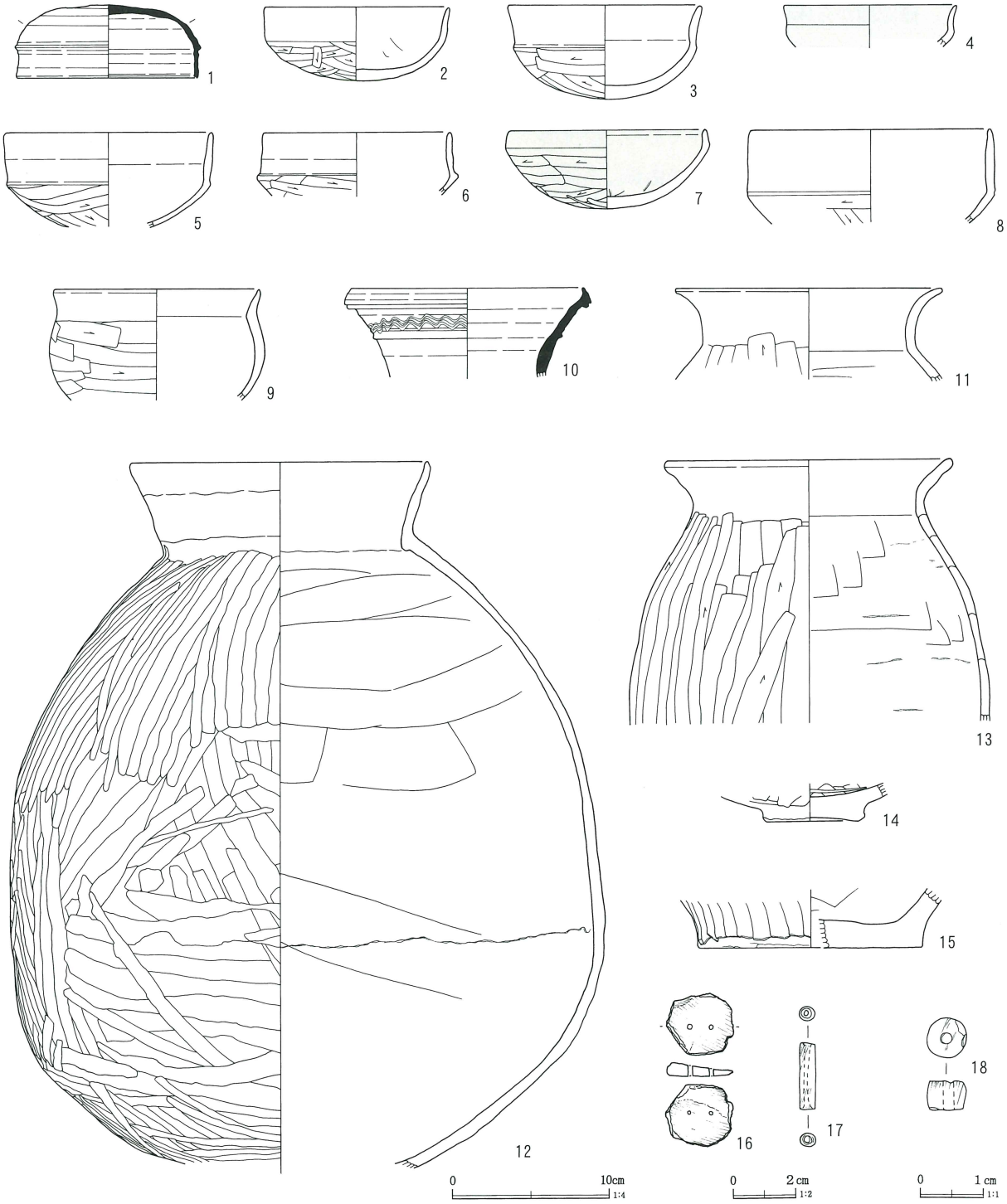
出土遺物は多いが、おもに破片である。床直から土師器坏や大型の壺が、掘り方埋土から管玉が出土している。なお、西側掘り方埋土中から、腕輪形石製品の破片（第505図2）が出土している。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第333図　第290号住居跡

第290号住居跡
1　灰黄褐色土　10YR4/2　住居覆土　下方にロームブロック（φ10～80mm）一部含む　ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
2　黒褐色土　10YR3/1　焼土粒子（φ1～5mm）微量　しまりあり　粘性ややあり
3　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒子（φ1～8mm）少量　しまりあり　粘性ややあり（掘り方）
ピット1・3・4
4　褐灰色土　10YR4/1　焼土粒子（φ1～5mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量　しまり・粘性あり
5　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒子（φ1～8mm）・焼土粒子（φ1～5mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
6　黒褐色土　10YR3/1　ローム土（φ10～30mm）やや含む　粘土層　しまりややあり　粘性強い（柱痕）
7　褐灰色土　10YR4/1　ロームブロック（φ10～40mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
ピット2
8　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量　焼土ブロック少量　炭化物含む
9　黒褐色土　10YR3/1　黄褐色土ブロック（φ1～40mm）多量



第334図　第290号住居跡出土遺物

第291号住居跡（第336図）

G—39・40グリッドに位置する。第320号住居跡、第380号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第320号住居跡よりも新しい。

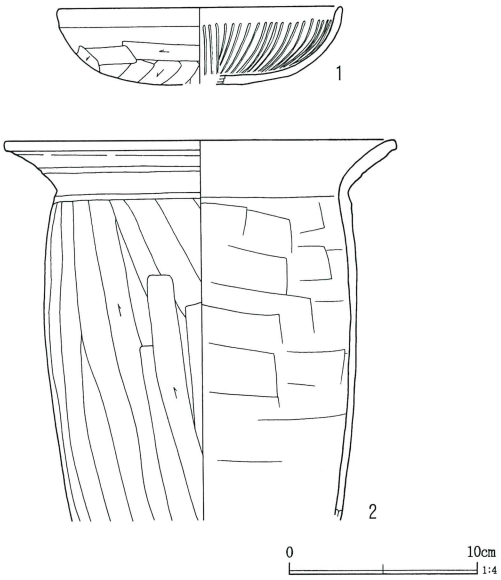
形状は方形を呈する。西半は調査区域外にかかる。規模は南北3.4m、東西は1.8mまで検出された。埋土は浅く、確認面から床面まで深さは8cmである。主軸方向はN—88°—Eである。

カマドは、東壁やや北寄りに構築されている。煙道の長さは70cm、燃焼部は45×39cmである。燃焼部の掘り込みはない。煙道部は掘り方である。全体的にあまり焼けてなく、被熱面は認められない。袖は検出されなかったが、カマドの手前やや左に甕が逆さに立ったまま出土しており、あるいは袖の構築材であった可能性がある。

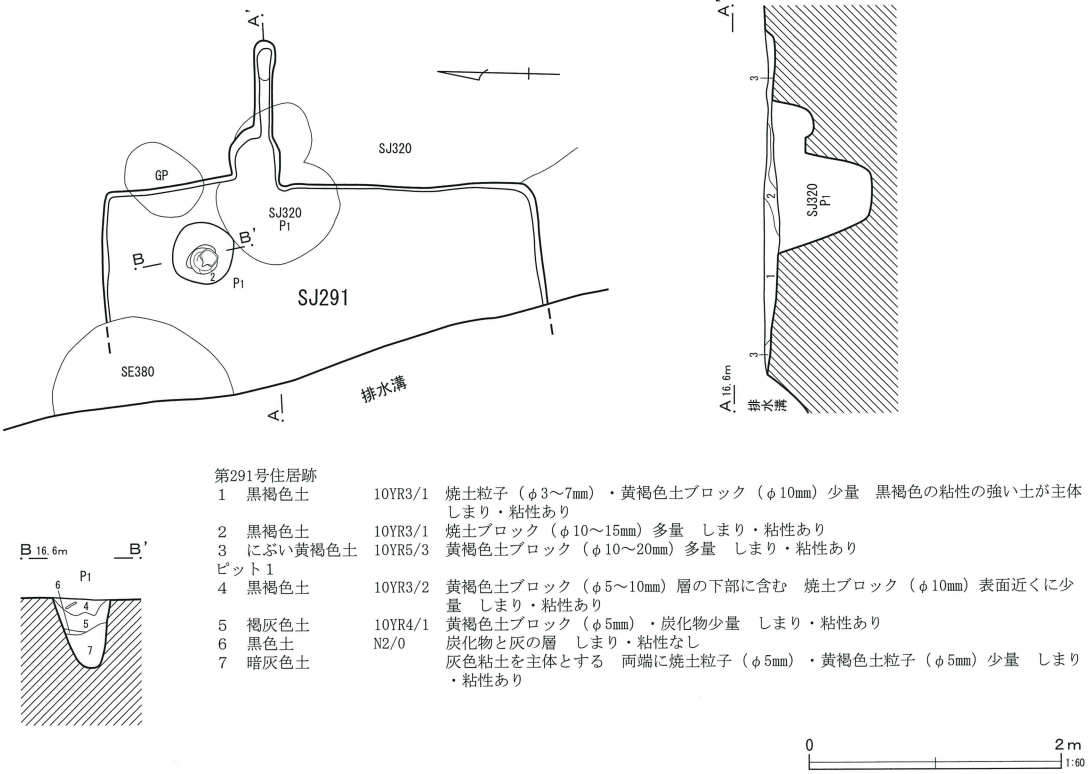
ピットは1基検出された。深さは53cmである。

出土遺物は少なく、逆さに立って出土した土師器甕以外は、すべて破片である。

本住居跡の時期は下田町Ⅻ期である。



第335図　第291号住居跡出土遺物



第291号住居跡

1	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ3～7mm）・黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　黒褐色の粘性の強い土が主体　しまり・粘性あり
2	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック（φ10～15mm）多量　しまり・粘性あり
3	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）多量　しまり・粘性あり
ピット1			
4	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ5～10mm）層の下部に含む　焼土ブロック（φ10mm）表面近くに少量　しまり・粘性あり
5	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ5mm）・炭化物少量　しまり・粘性あり
6	黒色土	N2/0	炭化物と灰の層　しまり・粘性なし
7	暗灰色土		灰色粘土を主体とする　両端に焼土粒子（φ5mm）・黄褐色土粒子（φ5mm）少量　しまり・粘性あり

第336図　第291号住居跡

第292号住居跡（第338図）

G・H—38・39グリッドに位置する。第299・302・312・313・316号住居跡、第382号井戸跡と重複する。住居跡の切り合い関係は、第299・302・312・316号住居跡よりも新しく、第313号住居跡との関係は把握できなかった。

形状は方形で、規模は東南—西北6.3m、南西—北東6.9mである。壁溝が二重に巡っており、拡張の立て替えが行われたものと考えられる。埋土の主体は一層（2層）で、西南側には灰や炭化物・焼土を含んだ土層（3・4層）が埋没途中に堆積している。人為的に埋め戻されたものと考えられる。確認面から床面までの深さは20cmである。南東壁を基準とした傾きはN—40°—Eである。

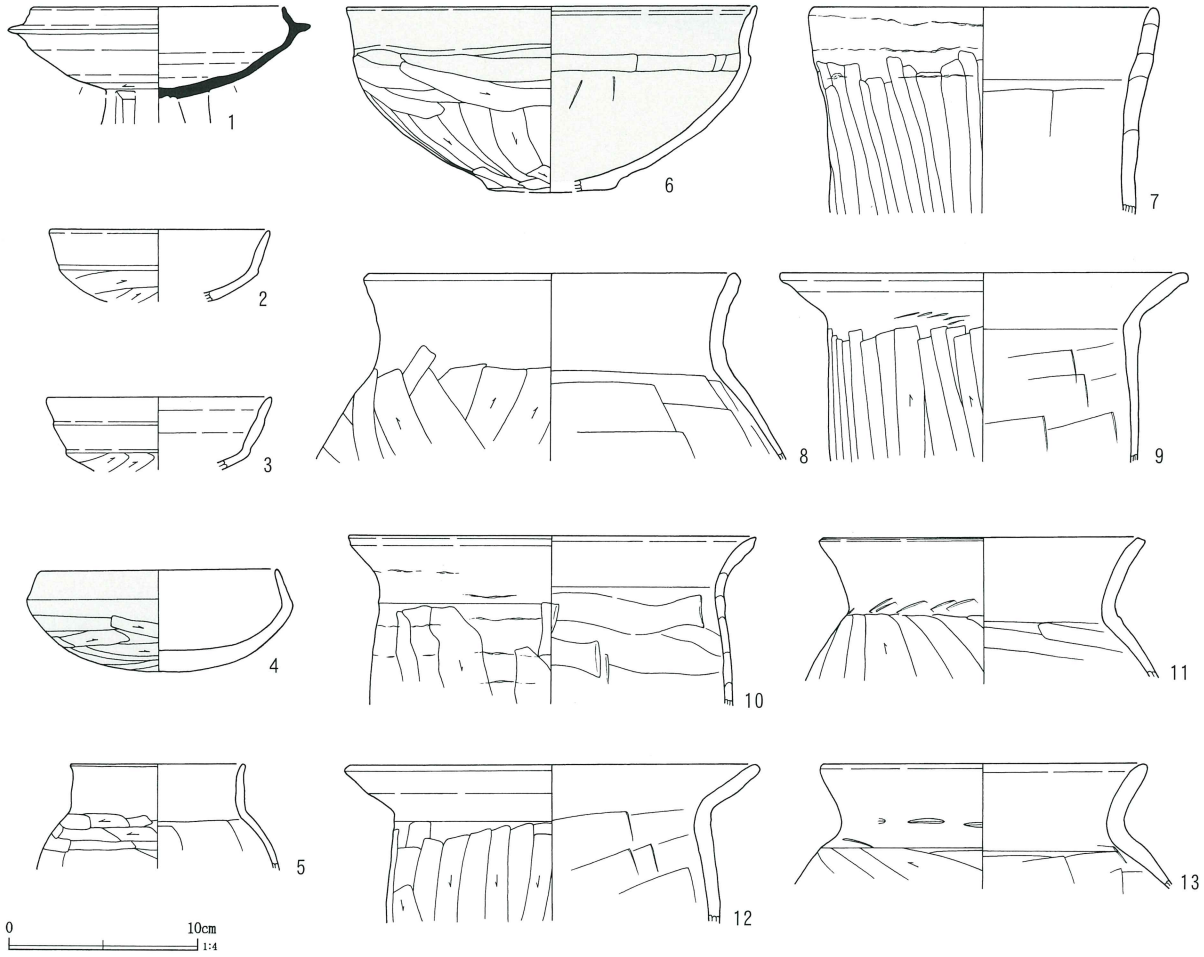
壁の掘り込みはしっかりとしており、P1・3の周辺には貼床が明瞭に認められた。

壁溝はほぼ二重に巡り、幅8～20cm、深さ2～10cmである。

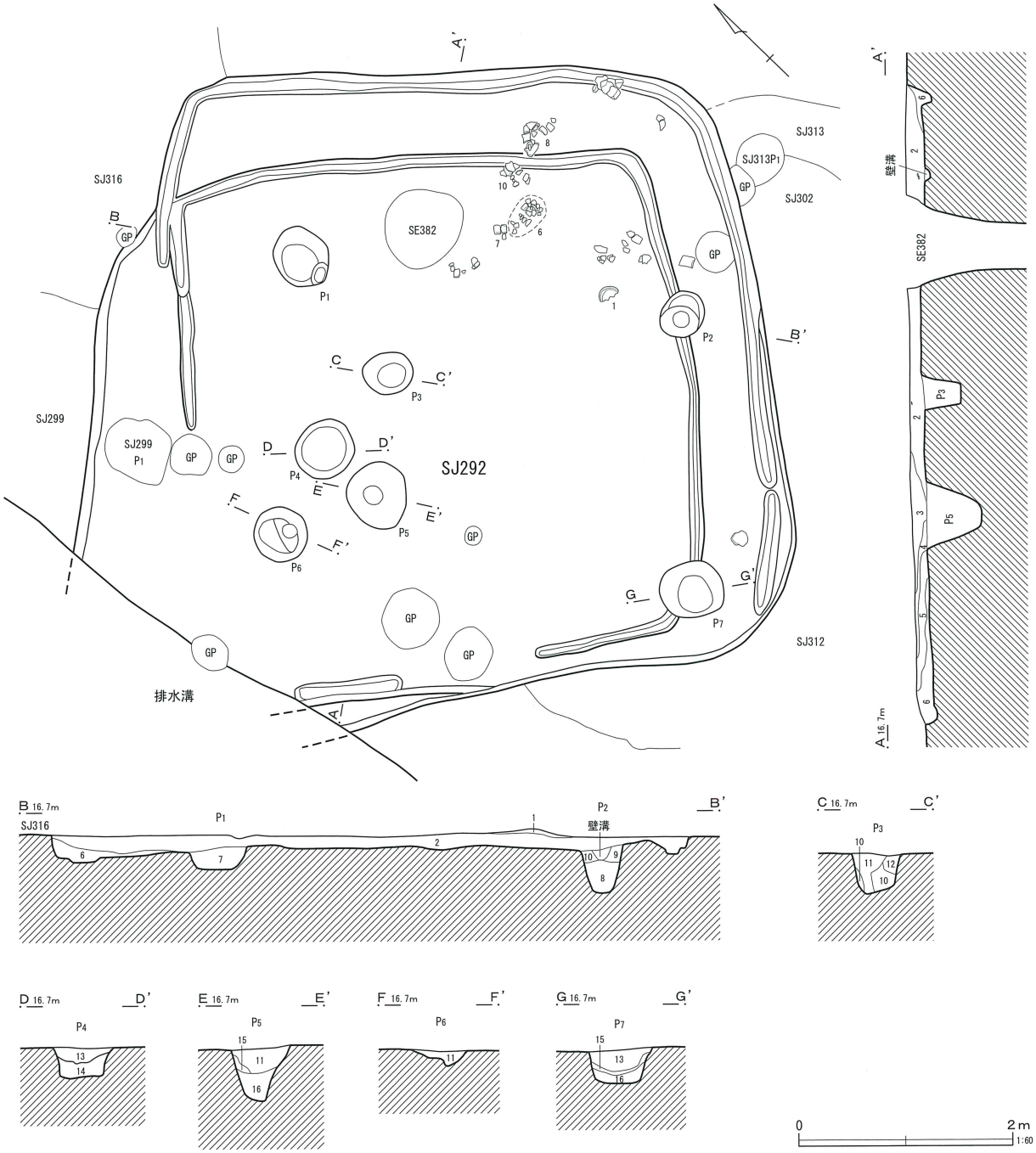
ピットは7基検出された。はっきりと柱痕が認められるものはない。ピットの深さはP1から順に20cm、40cm、37cm、26cm、50cm、13cm、31cmである。

出土遺物は多い。埋土上層から須恵器高坏が、床直から土師器鉢・甕などが出土した。

本住居跡の時期は下田町Ⅸ期である。



第337図　第292号住居跡出土遺物



第292号住居跡

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ3mm）含む　灰少量　しまりあり　粘性なし
2	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ10～30mm）含む　炭化物微量　しまりあり　粘性ややあり
3	黒褐色土	10YR2/2	焼土ブロック（φ5～15mm）・炭化物含む　灰少量　しまりなし　粘性あり
4	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック（φ20mm）多量　しまり・粘性あり
5	黒褐色土	10YR3/2	灰を含む　黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　しまり・粘性あり
6	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）含む　焼土ブロック（φ10mm）少量　しまり・粘性あり
ピット1～7			
7	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）斑　焼土粒子（φ3mm）微量　しまり・粘性あり
8	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ15mm）少量　褐色土粒子（φ2mm）・灰色粘土含む　しまり・粘性あり
9	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ15mm）少量　褐色土粒子（φ2mm）含む　しまり・粘性あり
10	にぶい黄褐色土	10YR5/3	
11	褐灰色土	10YR4/1	粘性のある灰色土主体 灰色土ブロック（φ10mm）少量　しまり・粘性あり
12	灰色粘土		
13	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ3mm）多量　しまり弱い　粘性あり
14	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ3mm）多量　黄褐色ブロック（φ30mm）少量　しまり弱い　粘性あり
15	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック（φ10～15mm）多量　しまり・粘性あり
16	灰色土	N5/0	灰色粘土の層　黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　しまり・粘性あり

第338図　第292号住居跡